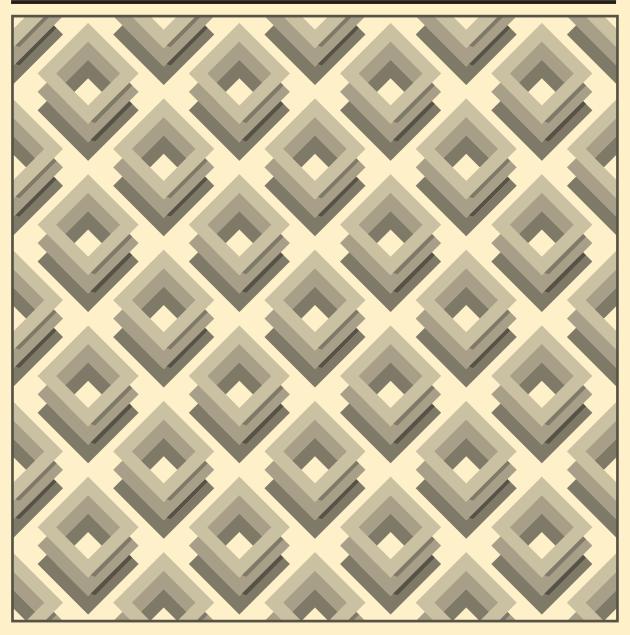
# シラバス

# 免許課程



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

# 【シラバスの見方】

## 1. 目次について

# ①シラバスページの検索方法

科目の授業内容は、目次で検索してください。

目次の科目は、各課程別の授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

曜日時限・教室も記載されていますが、変更になる場合があるので、教務課前掲示板で確認してください。 ※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。注意してください。

# ②目次の「備考」の表記

〈略称説明〉

外: 外国語学部 養: 国際教養学部 経: 経済学部 法: 法学部 独: ドイツ語学科 済: 経済学科 律: 法律学科

交: 交流文化学科

## ③履修開始学年•学期

目次の「学年-学期」欄に記載されています。

# 2. シラバスページの見方(右図参照)

#### ①入学年度

03年度以降···2003~2015年度入学者 07年度以降···2007~2015年度入学者 08年度以降···2008~2015年度入学者 09年度以前···2003~2009年度入学者

09年度以降・・・2009~2015年度入学者

10年度以降···2010~2015年度入学者 11年度以前···2003~2011年度入学者

12年度以前・・・2003~2011年度八子旬

12年度以降・・・2012~2015年度入学者

13年度以降・・・2013年度以降入学者

- ②入学年度、学部学科に対応した科目名
- ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
- ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。 授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

- ⑤授業で使用するテキスト、参考文献
- ⑥評価方法

## 3. 注意事項

#### ①履修科目

入学年度や学部学科により、履修する科目及び科目名が異なります。 免許科目の履修に際しては、「履修の手引(免許課程)」で履修科目を確認してください。

#### ②定員

定員を設けている科目があります。定員および備考欄を確認してください。 備考欄に<u>"抽選"と記載されている科目は、抽選結果を必ず確認</u>してください。

#### ③時間割コード・教室

履修上の注意点については、時間割冊子にまとめられています。まずは熟読してください。 免許科目については、時間割コード・教室もシラバス冊子目次に掲載されています。





# 2015年度 免許課程 年間行事予定表

凡例			教職課程、【介護】:介護等体験、【					
	No.	区分	行事	対象	日付	時間	教室、備考等 E-102:外国語学部	
,	1	【教職】	教職課程ガイダンス	全学部	4月4日(土)	9:30~10:30	E-101:国際教養学部・経済学部・法学部 「免許課程シラバス」配付。	
学年	2		教職課程登録(課程費納付)	登録希望者のみ	4月6日(月)~10日(金)	9:00~18:30	証明書自動発行機で納付。申請書は提出不要。 担当教員から配付日を連絡。履修していない場合は、配付方法	
ľ	3	【司書】	「教職課程ファイル」配付 司書・司書教論課程ガイダンス	教職課程登録者	「教職論」授業時		を教務課免許課程掲示板で確認。	
	4	【司教】	(概要説明)	全学部	12月3日(木)	12:25~13:10	A-408、昼食持込可。	
	5	【司書】	司書課程ガイダンス(履修手続き)	全学部	3月28日(土)	11:15~12:15	E-101、「履修の手引」「成績通知表」持参のこと。 E-102、「教職課程ファイル」持参のこと。	
	6	【司教】	教職課程・司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月28日(土)	12:30~13:30	「免許課程シラバス」配付。	
2	7	[司数]	教職課程、司書教論課程、司書課程登録(課程費納付)	新規登録希望者のみ	3月28日(土)~4月10日	(金)	証明書自動発行機で納付。教職課程のみ面接用紙および申請書を提出すること。	
学年	8			2016年度体験予定者	10月13日(火) 10月15日(木)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可。いずれかに出席のこと。 欠席した場合は2016年度の実習不可。	
	9	【介護】	介護等体験実習費用納付 実習希望調査	2016年度体験予定者	10月14日(水) ~29日(木)	9:00~17:00 土のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。	
	10		風疹・麻疹抗体検査申込手続き	2016年度体験予定者	10月1日(木)~11月6日	(金)(予定)	証明書自動発行機で納付。申請書は検査日当日に保健センター に提出。(詳細は、大学ニュース10月号「保健センター」の項参照)	
	11		司書・司書教諭課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月3日(木)	12:25~13:10	A-408、昼食持込可。	
Г	12		司書課程ガイダンス(履修手続き)	全学部	3月28日(土)	11:15~12:15	E-101、「履修の手引」「成績通知表」持参のこと。	
	13	【司教】	教職課程・司書教論課程ガイダンス (介護等体験(2日間)関連説明、教員採 用試験に向けてを含む)	全学部	3月28日(土)	15:00~16:00	E-102、「教職課程ファイル」持参のこと。 「教育実習の指針」「免許課程シラバス」配付。介護等体験(2日間)関連手続き資料配付。	
	14	【教職】 【司教】 【司書】	教職課程、司書教論課程、司書課程登録(課程費納付)	新規登録希望者のみ	3月28日(土)~4月10日	(金)	証明書自動発行機で納付。面接用紙および申請書を提出すること。 と。	
	15		介護等体験開始ガイダンス	2015年度体験予定者	4月16日(木) 4月21日(火)	12:25~13:10	E-101、昼食特込可。いずれかに出席のこと。 欠席した場合は2015年度の実習不可。	
	16			2015年5月~7月 介護体験予定者	5月12日(火)	12:25~13:10	E-101、昼食持込可 欠席した場合は2015年度の実習不可。	
	17	【介護】	介護等体験直前ガイダンス (5日間もしくは2日間いずれか早い日程	2015年8月~10月 介護体験予定者	7月9日(木)	12:25~13:10	E-101、昼食持込可 欠席した場合は2015年度の実習不可。	
	18		に合わせて出席すること)	2015年11月以降 介護体験予定者	10月8日(木)	12:25~13:10	E-101、昼食持込可 欠席した場合は2015年度の実習不可。	
	19		教育実習校開拓	2016年度教育実習予定者	教職課程ガイダンス以降	速やかに	各自が自主的に実習校を開拓	
3 学	20		「教育実習依頼状交付願」	2016年度教育実習予定者	5月11日(月)以降開拓	月~金	(遅くとも4月中に開拓を開始すること) 必要書類を教務課免許課程係に提出。	
年	21		「教育実習者登録票」 提出 「教育実習依賴状」交付		できた者から随時 5月25日(月)以降	9:00~17:00 9:00~17:00 土のみ12:00まで	(「英語」については、英語資格の要件を満たしていること) 教務課免許課程係で受取。 交付は提出週の翌々週(月)以降9:00~17:00、土は12:00ま	
	00	【教実】	「教育実習依頼状」を実習校に持参	0016778888888888888	E 日 9 E 日 / 日 \ N I 路 四 由	L*/*/12.002 C	で、	
	22		(正式依頼) 教育実習校(中学校)斡旋願提出	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	5月25日(月)以降随時 9月24日(木)	9:00~17:00	交付後、速やかに実習校に提出すること。	
	23		(未開拓者)	2016年度教育実習予定者	~10月7日(水)	土のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。	
	24		教育実習校(中学校)斡旋者 選考試験	2016年度教育実習予定者	10月15日(木)	11:30~12:30	教職・司書相談室(中央棟1階)	
	25	風疹・麻疹抗体検査申込手続き 2016年度教育実習予定者 (前年度抗体検査未提出者)		10月1日(木)~11月6日(金)(予定)		証明書自動発行機で納付。申請書は検査日当日に保健センターに提出。(詳細は、大学ニュース10月号「保健センター」の可参照)		
	26		司書・司書教論課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月3日(木)	12:25~13:10	A-408、昼食持込可	
	27	【教実】	風疹·麻疹抗体検査提出期限	2016年度教育実習予定者 (前年度抗体検査未提出者)	検査結果交付日 〜2016年1月29日(金)	9:00~17:00 土のみ12:00まで	抗体検査結果を確認し、抗体がある場合は、検査結果用紙のコ ビーを教務課免許課程係に提出。抗体がない場合は、予防(ワク チン)接種の上、抗体検査結果用紙と予防接種を受けた証明書 をコピーして、教務課免許課程係に提出。	
	28	【教職】【司教】	教職課程・司書教諭課程ガイダンス	2015年度教育実習を 行わない者	3月28日(土)	15:00~16:00	E-101、「教職課程ファイル」・「教育実習の指針」を持参のこと。 「免許課程シラバス」配付。 ガイダンス終了後、介護等体験(2日間)関連説明・資料配付。	
	29		教職課程・司書教諭課程ガイダンス	2015年度教育実習予定者	3月28日(土)	15:00~16:00	E-101、「教職課程ファイル」・「教育実習の指針」持参のこと。 「教育実習日誌」・「免許課程シラバス」配付。	
	30		教育実習オリエンテーション①		3月28日(土)	16:00~17:30	E-101、終了後介護等体験を実施する学生は介護等体験(2日間)関連説明・資料配付も併せて行う。	
	31		教育実習オリエンテーション②	2015年度教育実習予定者	3月30日(月)	9:00~16:30	「教育実習日誌」オリエンテーションのページ参照。	
	32		教育実習期間報告書の提出	2015年度教育実習予定者	4月14日(火)まで	9:30~16:00	教務課免許課程係に提出。	
	33		教育実習校との打合せ	2015年度教育実習予定者	実習開始2~3週間前		各自実習校に確認。	
	34	【教実】	教育実習指導教員発表	2015年度教育実習予定者	5月11日(月)	10:30~	教務課免許課程掲示板で確認。	
	35		「教育実習訪問指導教員 事前面談用紙」提出	2015年度教育実習予定者 (該当者のみ)	各自の教育実習開始7日 各自の教育実習		指導教員と訪問指導日程等を打合せし、指定用紙を教務課免 許課程係に提出。 教職・司書相談室(中央練L階)	
4 学 年	36		教育実習事前指導面接 教育実習	2015年度教育実習予定者 2015年度教育実習予定者	開始7日前まで 日程は実習校によって異	11:30~13:00	5~6月は面接予定者が多いため、早めに事前指導面接を受け、 実習に備えること。	
	37		(中学校または高等学校) 教育実習日誌提出	2015年度教育実習予定者			の授業内及び教務課免許課程掲示板で指示する。	
	39		教育職員採用試験面接対策講座	教育職員採用試験	8月上旬(予定)	学内指定教室	日程が決定次第、教務課免許課程掲示板で告知する。	
	40		教育職員免許状一括申請説明会	受験希望者 全学部			E-101、昼食持込可。	
	41		(書類配付) 教育職員免許状一括申請受付 (手数料納付·書類提出)	全学部			必要書類を揃え、教務課免許課程係に提出。	
	42		教職課程、司書教諭課程修了者発表司書課程修了者発表	全学部			大学掲示板(学生センター前)	
	43		教育実習日誌返却	全学部	2016年3月4日(金)以降		教務課免許課程係	
	44		「司書教諭課程修了証」申請受付	司書教諭課程修了者	2016年3月4日(金)~20	日(日)	教務課免許課程係	
	ıl		教育職員免許状授与(一括申請者) 司書課程修了書授与	全学部	2016年3月20日(日)		卒業式当日(学位記と一緒に交付)	

# 教職・司書相談室について

獨協大学では、教職・司書・司書教諭課程履修者をサポートするため、 教職・司書相談室(中央棟1階)を開設しています。

ここには教職、司書、司書教諭課程に関する資料や教科書・参考書が 用意されています。開室時間内は自由に閲覧できます。

また、同課程履修者を主たる対象に、専門家である教員が個別面談に応じています。教員という仕事、気になる教育実習や教員採用試験、図書館で働くにはどうすれば良いか、など気になることを質問できます。もちろん、教職、司書、司書教諭課程を登録・履修するか迷っている学生も質問可能です。学科・学年を問わず広く開放されており、事前の予約は必要ありませんので、適宜利用してください。

なお、履修登録の方法や成績通知、教育実習の前提条件などの<u>履修に</u> 関する質問は、教務課免許課程係(東棟1階)にご相談ください。

〇開室時間:月~金 9:00~17:00

生 9:00~13:00

〇場 所:中央棟1階

〇個別面談:春学期 2015年4月7日(火)~2015年7月20日(月)

秋学期 2015年9月24日(木)~2016年1月19日(火)

11/ 1 //	2010		
課程	曜日	面談時間	担当教員
	月	11 : 30~13 : 00	桑原 憲一
	火	11 : 30~13 : 00	J. J. ダゲン
   教職	水	11 : 30~13 : 00	岩崎 充益
于大40%	木	12:45~14:15	安井 一郎
	金	11 : 30~13 : 00	小島 優生 [秋学期のみ]
	土	11 : 30~13 : 00	及川 良一
司書・司書教諭	火	11 : 30~13 : 00	福田 求

注)担当教員の都合により、休講になる場合があります。相談室入口 の掲示で確認してください。

# 教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

# ≪教職に関する科目≫

※2009年度以前入学者カリキュラムのみ適用科目

		- 関9の付日≫					※2009年	- 及以則	人字章	すカリキュフムのみ週月 •	H科日 
学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担	当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06900	教職論	2	春	月3	桑原	憲 —	E-202	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06902	教職論	2	春	金5	三浦	智子	E-311	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06901	教職論	2	秋	月4	桑原	憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06904	教育原論(再履修)	2	春	金4	三浦	智子	E-503	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06906	教育原論	2	秋	金4	未定		5-407	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06907	教育原論	2	秋	木3	川村	肇	E-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06905	教育原論	2	秋	金5	未定		E-311	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06910	教職心理学	2	春	火4	白砂	佐和子	A-207	_	交履修不可、養は自学科科目で履修	3
1-1	06908	教職心理学	2	春	金1	田口	雅徳	A-207	_	交履修不可、養は自学科科目で履修	3
1-1	06911	教職心理学	2	秋	火4	白砂	佐和子	5-207	_	交履修不可、養は自学科科目で履修	3
1-1	06909	教職心理学	2	秋	金1	田口	雅徳	A-207	_	交履修不可、養は自学科 科目で履修	3
1-1	19844	教育心理学	2	春	火4	白砂	佐和子	A-207	_	交のみ履修可	3
1-1	19736	教育心理学	2	春	金1	田口	雅徳	A-207	_	交のみ履修可	3
1-1	19737	教育心理学	2	秋	火4	白砂	佐和子	5-207	_	交のみ履修可	3
1-1	19738	教育心理学	2	秋	金1	田口	雅徳	A-207	_	交のみ履修可	3
2-3	06915	教育制度	2	春	火3	桑原	憲一	5-100	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06914	教育制度	2	春	月4	桑原	患	E-206	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06913	教育制度	2	秋	火5	桑原	憲一	E-311	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06919	教育課程論	2	春	火4	桑原	憲一	6-101	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06918	教育課程論	2	春	水2	安井	一郎	E-313	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06917	教育課程論	2	秋	火4	桑原	憲一	E-311	_	養は自学科科目で履修	5
3-5	06920	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	2	春	火1	金井	満	E-506	_		6
3-5	06921	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	2	秋	火1	金井	満	E-506	_		6
3-5	21669	英語科教科教育法Ⅰ	2	春	月5	浅岡	千利世	A-401	30	独・英・仏のみ履修可、	9
3-5	21674	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	月5	浅岡	千利世	A-401		春・秋セット履修、先着順	9
3-5	21668	英語科教科教育法 [	2	春	火5	E. 本	橋	A-403	30	独・英・仏のみ履修可、	9
3-5	21672	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	火5	E. 本	橋	A-403	30	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	21667	英語科教科教育法 [	2	春	水1	J. J.	ダゲン	6-406	30	独・英・仏のみ履修可、	9
3-5	21673	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	水1	J. J.	ダゲン	6-406	30	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	21670	英語科教科教育法 [	2	春	木1	羽山	恵	E-204	30	独・英・仏のみ履修可、	9
3-5	21671	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	木1	羽山	恵	E-310	30	春・秋セット履修、先着順	9
2-3	22937	英語科教科教育法 I	2	春	金1	浅岡	千利世	E-522	_	交のみ履修可	8

学年-学期	時間割コード	科目名	単位数	開講学期	曜時	担	当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	14259	英語科教科教育法 I	2	秋	火1	羽山	恵	A-408	_	交のみ履修可	8
2-3	20885	英語科教科教育法 I	2	秋	土2	日野	克美	E-204	_	交のみ履修可	8
3-5	23702	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	月5	浅岡	千利世	A-401	00	交のみ履修可、春・秋	9
3-5	23707	英語科教科教育法皿	2	秋	月5	浅岡	千利世	A-401	30	セット履修、先着順	9
3-5	23709	英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	火5	E. 本	橋	A-403	30	交のみ履修可、春・秋	9
3-5	23705	英語科教科教育法皿	2	秋	火5	E. 本	橋	A-403	30	セット履修、先着順	9
3-5	23708	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水1	J. J.	ダゲン	6-406	30	交のみ履修可、春・秋	9
3-5	23706	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水1	J. J.	ダゲン	6-406	30	セット履修、先着順	9
3-5	23703	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	木1	羽山	恵	E-204	30	交のみ履修可、春・秋	9
3-5	23704	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	木1	羽山	恵	E-310	30	セット履修、先着順	9
2-3	14024	英語科教科教育法 I	2	秋	水1	安間	一雄	E-510	1	養・経・法のみ履修可	8
3-5	14025	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水2	安間	一雄	E-312	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	9
3-5	22260	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水2	臼井	芳子	E-521	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	9
3-5	22259	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	金2	齋藤	雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	9
3-5	14026	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	金2	齋藤	雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	9
3-5	06932	フランス語科教科教育法 Ι	2	春	木1	中村	公子	A-502	_		11
3-5	06933	フランス語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	木1	中村	公子	A-502	_		11
2-3	06934	社会科教育法 I	2	春	月1	秋本	弘章	E-312	_		13
3-5	06935	社会科教育法Ⅱ	2	春	火2	秋本	弘章	E-312	_		14
3-5	06936	社会科教育法Ⅲ	2	秋	火2	秋本	弘章	E-312	_		14
2-3	06939	地理·歷史科教育法 I	2	秋	土1	鈴木	孝	E-312	_		15
3-5	06940	地理•歴史科教育法Ⅱ	2	秋	木1	秋本	弘章	E-312	_		16
3-5	06941	地理•歴史科教育法Ⅲ	2	春	月5	會田	康範	E-312	_		17
3-5	06937	公民科教育法 I	2	春	土4	及川	良一	5-208	_		18
3-5	06938	公民科教育法Ⅱ	2	秋	土4	及川	良一	5-208	_		18
3-5	06942	情報科教育法I	2	春	月2	秋本	弘章	E-411	_		19
3-5	06943	情報科教育法Ⅱ	2	秋	月2	秋本	弘章	E-411	_		19
3-5	13333	教科教育法特論 I (ドイツ語)	2	春	金3	上田	浩二	6-204	_	独以外履修可	7
3-5	06944	教科教育法特論 I (英語)	2	春	金1	浅岡	千利世	E-522	_	独・仏のみ履修可	8
3-5	14258	教科教育法特論 I (英語)	2	秋	火1	羽山	恵	A-408	-	独・仏のみ履修可	8
3-5	14257	教科教育法特論 I (英語)	2	秋	土2	日野	克美	E-204	_	独・仏のみ履修可	8
3-5	14260	教科教育法特論 I (フランス語)	2	春	火4	中村	公子	6-304	_	仏以外履修可	12
3-5	09110	教科教育法特論 I (社会)	2	春	月4	安井	一郎	E-514	_	外・養のみ履修可	20
3-5	13334	教科教育法特論Ⅱ(ドイツ語)	2	秋	水2	上田	浩二	A-407	ı	独以外履修可	7
3-5	09111	教科教育法特論Ⅱ(英語)	2	春	木2	J. J.	ダゲン	E-506	_	独・仏のみ履修可	10

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担	当教員	教室	定員	備考	ページ
3-5		教科教育法特論 Ⅱ(英語)	2	秋	木2	J. J.	ダゲン	E-506	_	独・仏のみ履修可	10
3-5	19419	教科教育法特論 Ⅱ(英語)	2	春	水3	安間	一雄	E-303	_	養・経・法のみ履修可	10
3-5	14261	教科教育法特論Ⅱ(フランス語)	2	秋	火4	中村	公子	6-304	_	仏以外履修可	12
2-3	06949	道徳教育の研究	2	春	月3	安井	一郎	5-207	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	06947	道徳教育の研究	2	春	木2	安井	一郎	E-304	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	06948	道徳教育の研究	2	秋	月4	安井	一郎	E-514	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	06952	特別活動	2	春	土3	及川	良一	5-208	_	独・英・仏・養・経・律・国・ のみ履修可	22
2-3	06950	特別活動	2	秋	月3	桑原	憲一	E-202	-	独・英・仏・養・経・律・国・ のみ履修可	22
2-3	06953	特別活動	2	秋	土3	及川	良一	5-208	_	独・英・仏・養・経・律・国・ のみ履修可	22
2-3	19740	特別活動論	2	春	土3	及川	良一	5-208	_	交・総のみ履修可	22
2-3	19739	特別活動論	2	秋	月3	桑原	憲一	E-202	_	交・総のみ履修可	22
2-3	19741	特別活動論	2	秋	土3	及川	良一	5-208	_	交・総のみ履修可	22
2-3	06956	教育方法学	2	春	月3	町田	喜義	E-206	_		23
2-3	06955	教育方法学	2	春	火1	安井	一郎	5-100	_		23
2-3	06954	教育方法学	2	秋	月3	町田	喜義	E-206	_		23
2-3	06958	生徒指導法	2	春	火5	桑原	憲一	E-311	_		24
2-3	06961	生徒指導法	2	春	土1	及川	良一	E-304	_		24
2-3	06960	生徒指導法	2	秋	土1	及川	良一	E-302	_		24
2-3	06963	学校カウンセリング	2	春	木2	瀧本	孝雄	5-215	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06965	学校カウンセリング	2	秋	木2	瀧本	孝雄	5-215	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06962	学校カウンセリング	2	秋	木4	鈴木	乙史	E-312		養は自学科科目で履修	25
3-5	_	総合演習※	2	_	_	2015年	丰度不開講	_		2009年度以前入学者カリキュラム	_
3-5	06975	教育実習論(事前・事後指導)	2	春	水4	岩崎	充益	5-202	25	特段の事情がある者のみ履修可、先着順	26
3-5	08750	教育実習論 I (事前指導)※	2	春	水4	岩崎	充益	5-202		特段の事情がある者のみ履修可、先着順	26
3-5	06976	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	月3	安井	一郎	E-521		先着順、2010年度以降入学者のみ履修可	26
3-5	21838	教育実習論 [ (事前指導)※	2	秋	月3	安井	一郎	E-521		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	26
3-5	06977	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	火1	安井	一郎	E-509	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	26
3-5	08752	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	火1	安井	一郎	E-509		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	26
3-5	06979	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水1	岩崎	充益	5-202	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	26
3-5	08754	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	水1	岩崎	充益	5-202		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	26
3-5	06978	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水4	岩崎	充益	5-202	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	26
3-5	08753	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	水4	岩崎	充益	5-202		先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	26
3-5	21839	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	木2	川村	肇	5-101	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	26
3-5	08751	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	木2	川村	肇	5-101	_5	先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	26

学年-学期	時間割コード	科目名	単位数	開講学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
3-5		教育実習論(事前·事後指導)	2	秋	金3	小島 優生	A-408	0.5	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	26
3-5	08749	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	金3	小島 優生	A-408	25	先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	26
4-7	07608	教育実習 I	2	集中	_	教職課程	_	_		_
4-7	07609	教育実習Ⅱ	2	集中	_	教職課程	_	_		_
4-8	14262	教職実践演習(中•高)	2	春	水4	岩崎 充益	5-202	25	特段の事情がある者の み履修可、先着順	27
4-8	09113	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	春	水4	岩崎 充益	5-202	20	特段の事情がある者の み履修可、先着順	27
4-8	22250	教職実践演習(中•高)	2	秋	月1	秋本 弘章	E-312	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
4-8	06980	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	月1	秋本 弘章	E-312	20	先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	27
4-8	22252	教職実践演習(中•高)	2	秋	火3	桑原 憲一	5-100	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
4-8	19820	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	火3	桑原 憲一	5-100	20	先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	27
4-8	22249	教職実践演習(中·高)	2	秋	水2	安井 一郎	E-501	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
4-8	09112	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	水2	安井 一郎	E-501	20	先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	27
4-8	22251	教職実践演習(中•高)	2	秋	木2	川村 肇	5-101	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
4-8	12782	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	木2	川村 肇	5-101	20	先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	27
4-8	22248	教職実践演習(中•高)	2	秋	木2	安井 一郎	E-304	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
4-8	12783	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	木2	安井 一郎	E-304	20	先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	27
4-8	22253	教職実践演習(中・高)	2	秋	金3	小島 優生	A-408	25	先着順、2010年度以降入 学者のみ履修可	27
4-8	06981	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	金3	小島 優生	A-408	20	先着順、2009年度以前入 学者のみ履修可	27

# 教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

≪教科又は教職に関する科目≫

学年-	時間割	くしより 受ける 対象 は 対象 は 対象	単位数	開講	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
学期	コード	17 0 70	一旦双	学期	4年14月	正二秋县	水土	*		. /
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	_	司書教諭課程登録者 のみ履修可	28
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	_	司書教諭課程登録者 のみ履修可	29
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	_	司書教諭課程登録者 のみ履修可	29
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	_	司書教諭課程登録者 のみ履修可	30
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選、司書教諭課程登録 者のみ履修可	31
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選、司書教諭課程登録 者のみ履修可	31
2-3	06998	生涯学習概論_11以前	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	_	司書課程登録者(2011年 度以前入学者)のみ履修 可	32
2-3	22670	生涯学習概論_12以降	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	_	司書課程登録者(2012年 度以降入学者)のみ履修 可	32
2-3	06949	道徳教育の研究	2	春	月3	安井 一郎	5-207	_	高校1種免許状のみ「教科 又は教職に関する科目」選 択科目として適用	21
2-3	06947	道徳教育の研究	2	春	木2	安井 一郎	E-304	_	高校1種免許状のみ「教科 又は教職に関する科目」選 択科目として適用	21
2-3	06948	道徳教育の研究	2	秋	月4	安井 一郎	E-514		高校1種免許状のみ「教科 又は教職に関する科目」選 択科目として適用	21
2-3	06997	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金3	山口 友佑	5-201	_	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」 の必修科目として適用	33
2-3	09109	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金4	山口 友佑	5-201		中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」 の必修科目として適用	33
2-3	12781	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	金3	山口 友佑	5-401		中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」 の必修科目として適用	33
2-3	12780	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	金4	山口 友佑	5-401	_	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」 の必修科目として適用	33

<sup>※</sup>抽選結果を確認すること。

# 教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

# ≪教科に関する科目≫

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担	!当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
1-1	06982	日本史概説I	2	春	月4	會田	康範	E-312	_		34
1-1	06983	日本史概説Ⅱ	2	秋	月4	會田	康範	E-312	_		34
1-1	06984	外国史概説 I	2	秋	金5	兼田	信一郎	E-201	ı		35
1-1	06985	外国史概説Ⅱ	2	春	金3	久慈	栄志	5-301	l		36
1-1	06986	地理学概説 I	2	春	火1	秋本	弘章	E-312	ı		37
1-1	06987	地理学概説Ⅱ	2	秋	火1	秋本	弘章	E-312	ı		37
1-1	06988	地誌学概説 I	2	春	水1	秋本	弘章	E-312	-		38
1-1	06989	地誌学概説Ⅱ	2	秋	水1	秋本	弘章	E-312	ı		38
2-3	07023	法律学概説 I	2	春	水2	大川	俊	E-206	ı	経•法履修不可	39
2-3	07024	法律学概説Ⅱ	2	秋	水2	木藤	茂	E-206	l	経•法履修不可	39
2-3	07025	政治学概説 I	2	春	木2	杉田	孝夫	5-207	_	経・法履修不可	40
2-3	07026	政治学概説Ⅱ	2	秋	木2	杉田	孝夫	5-207	-	経•法履修不可	40
1-1	07027	社会学概説 I	2	春	月4	木本	玲一	E-101	300	養は自学科科目で履修	41
1-1	07028	社会学概説Ⅱ	2	秋	土1	岡村	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	41
2-3	07029	哲学概説 I	2	春	火5	河口	伸	6-303	-		42
2-3	07030	哲学概説Ⅱ	2	秋	火5	河口	伸	6-303	-		42
1-1	07031	倫理学概説 I	2	春	金4	川口	茂雄	A-206	300	養は自学科科目で履修	43
1-1	07032	倫理学概説Ⅱ	2	秋	金4	川口	茂雄	A-206	300	養は自学科科目で履修	43
2-3	07033	宗教学概説I	2	春	木5	河口	伸	6-303	_		44
2-3	07034	宗教学概説Ⅱ	2	秋	木5	河口	伸	6-303	_		44
1-1	07104	心理学概説I	2	春	木2	田口	雅徳	E-101	300	養は自学科科目で履修	45
2-3	07105	心理学概説Ⅱ	2	秋	木4	田口	雅徳	6-201	100	養は自学科科目で履修	45

<sup>※</sup>抽選結果を確認すること。

# 2008〜2012年度入学者対象 「教科に関する科目」の全学共通授業科目対応表

以下の「教科に関する科目」の履修は、対応する全学共通授業科目を履修登録してください。

時間割コード等は、所属学科の『2015年度授業時間割表』の「曜日・時限別時間割」のページを参照してください。

	1 15100(1717)	于件07』2013年度技术时间剖衣』0.7 T			C (/_C	_
履修対象 学科(※)	免許教科	教科に関する科目	対応する全学共通授業科目	開講 学期	曜時	担当教員
養	英語	ことばと思想1(英語圏の社会と思想a)	a)	春	火4	片山 亜紀
養	英語	ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	秋	金3	田村 斉敏
養	英語	ことばと思想2(英語通訳)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳 の仕事)	春	土2	中島 直美
養	英語	ことばと思想2(英語通訳)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳 の仕事)	秋	土2	中島 直美
養•経•法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(日本史)	歴史と文化1(歴史学1)(中世の仏教と 社会)	春	木4	新井 孝重
養∙経∙法	社会∙地歴	歴史と文化1(歴史学2)(日本史)	歴史と文化1(歴史学2)(中世の「悪 党」と民衆)	秋	木4	新井 孝重
養∙経∙法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(日本史)	歴史と文化1(歴史学1)(「15年戦争」を どうとらえるか)	春	水2	丸浜 昭
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1(歴史学2)(日本史)	歴史と文化1(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	秋	水2	丸浜 昭
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(東洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	春	木3	熊谷 哲也
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学2)(東洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	秋	木3	熊谷 哲也
経·法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(東洋史)	歴史と文化1(中国史a)	春	木4	張 士陽
経・法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学2)(東洋史)	歴史と文化1(中国史b)	秋	木4	張 士陽
養・経・法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(ヨーロッパ史 1)	春	月1	上村 敏郎
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学2)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(ヨーロッパ史 2)	秋	月1	上村 敏郎
養・経・法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	春	金3	佐藤 唯行
養・経・法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学2)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	秋	金3	佐藤 唯行
法(総)	社会∙地歴	歴史と文化1 (教育の歴史1)	歴史と文化1(教育の歴史1)	-	-	2015年度不開講
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1 (教育の歴史2)	歴史と文化1(教育の歴史2)	-	-	2015年度不開講
法(総)	社会∙地歴	歴史と文化1 (日本思想史1)	歴史と文化1(日本思想史1)	春	木2	矢森 小映子
法(総)	社会∙地歴	歴史と文化1(日本思想史2)	歴史と文化1(日本思想史2)	秋	木2	小田 真裕
法(総)	社会∙地歴	歴史と文化1 (文化史入門)	歴史と文化1(文化史入門)	春	木2	古川 堅治
法	社会∙地歴	ことばと思想1(社会思想史1)	ことばと思想1(社会思想史1)(東洋古 代から近世まで)	春	水2	松丸 壽雄
法	社会∙地歴	ことばと思想1(社会思想史2)	ことばと思想1(社会思想史2)(東洋近世から現代まで)	秋	水2	松丸 壽雄
養・法	社会∙地歴	ことばと思想1(社会思想史1)	ことばと思想1(社会思想史1)(市民的 社会像の黎明期)	春	火4	市川 達人
養・法	社会∙地歴	ことばと思想1(社会思想史2)	ことばと思想1(社会思想史2)(市民的 社会像の確立期)	秋	火4	市川 達人
養・経・法	社会∙地歴	現代社会1(地理学1)	現代社会1(地理学1)(自然環境と文化)	春	水2	秋本 弘章
養・経・法	社会·地歴	現代社会1(地理学2)	現代社会1(地理学2)(自然環境と文化)	秋	水2	秋本 弘章
経·法	社会·地歴	現代社会1(地理学1)	現代社会1(地理学1)(世界の自然環境と文化)	春	金4	北﨑 幸之助
経∙法	社会∙地歴	現代社会1(地理学2)	現代社会1(地理学2)(世界の自然環境と文化)	秋	金4	北﨑 幸之助

履修対象 学科(※)	免許教科	教科に関する科目	対応する全学共通授業科目	開講 学期	曜時	担当教員
法(総)	社会·地歴	現代社会1(地誌学1)	現代社会1(地誌学1)(ヨーロッパ地域論)	-	-	2015年度不開講
法(総)	社会•地歴	現代社会1(地誌学2)	現代社会1(地誌学2)(ドイツ地域論)	-	-	2015年度不開講
養・法	社会·公民	現代社会1(経済学1)	現代社会1(経済学1)(はじめての経済 学)	春	月1	黒木 亮
養•法	社会·公民	現代社会1(経済学2)	現代社会1(経済学2)(はじめての経済 学)	秋	月1	黒木 亮
養•法(総)	社会·公民	現代社会1(経済学1)	現代社会1(経済学1)(ミクロの視点で考える)	春	火4	浜本 光紹
養•法(総)	社会·公民	現代社会1(経済学2)	現代社会1(経済学2)(マクロの視点で 考える)	秋	火4	浜本 光紹
養•経	社会·公民	現代社会1(国際法1)	現代社会1(国際法1)(国際社会と私たち)	春	月3	一之瀬 高博
養•経	社会·公民	現代社会1(国際法2)	現代社会1(国際法2)(国際紛争を考 える)	秋	月3	一之瀬 高博
養	社会·公民	現代社会1(民法1)	現代社会1(民法1)	春	月2	小川 佳子
養	社会·公民	現代社会1(民法2)	現代社会1(民法2)	秋	月2	小川 佳子
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	春	火2	加藤 一彦
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	秋	火2	加藤 一彦
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	春	金4	古関 彰一

<sup>※</sup>履修対象学科に定められている学科のみ科目の適用がうけられます。

# 2008~2012年度入学者対象 教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目

「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」のほかに、文部科学省が別に定める科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位を修得しなければなりません。 所属学科毎に履修科目が異なるため、「履修の手引き」免許課程の当該ページを参照し、単位修得してください。

免許法に 定める科目	所属	科目群	科目名	単位数	備考
日本国憲法	外国語学部 国際教養学部 経済学部	全学共通授業科目	現代社会1(日本国憲法)	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
口本国思広	法学部	学部専門科目	憲法入門	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
体育	全学部	全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション	1単位×2	自学科時間割冊子の全学共通授業科目「スポーツ・レクリエーション」を参照の上、登録すること。
外国語 コミュニケーション	所属によって 異なる	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
情報機器の操作	所属によって 異なる	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。

# 教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教職に関する科目≫

≪教職に関する科目≫											
学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担	1当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06900	教職論	2	春	月3	桑原	憲一	E-202	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06902	教職論	2	春	金5	三浦	智子	E-311	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06901	教職論	2	秋	月4	桑原	憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06904	教育原論(再履修)	2	春	金4	三浦	智子	E-503	-	養は自学科科目で履修	2
1-1	06906	教育原論	2	秋	金4	未定		5-407	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06907	教育原論	2	秋	木3	川村	肇	E-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06905	教育原論	2	秋	金5	未定		E-311	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	19844	教育心理学	2	春	火4	白砂	佐和子	A-207	ı	養は自学科科目で履修	3
1-1	19736	教育心理学	2	春	金1	田口	雅徳	A-207	1	養は自学科科目で履修	3
1-1	19737	教育心理学	2	秋	火4	白砂	佐和子	5-207	_	養は自学科科目で履修	3
1-1	19738	教育心理学	2	秋	金1	田口	雅徳	A-207	-	養は自学科科目で履修	3
2-3	06914	教育制度	2	春	月4	桑原	憲一	E-206	1	養は自学科科目で履修	4
2-3	06915	教育制度	2	春	火3	桑原	憲一	5-100	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06913	教育制度	2	秋	火5	桑原	憲一	E-311	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06919	教育課程論	2	春	火4	桑原	憲一	6-101	-	養は自学科科目で履修	5
2-3	06918	教育課程論	2	春	水2	安井	一郎	E-313	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06917	教育課程論	2	秋	火4	桑原	憲一	E-311	_	養は自学科科目で履修	5
3-5	06920	ドイツ語科教科教育法I	2	春	火1	金井	満	E-506	_		6
3-5	06921	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	2	秋	火1	金井	満	E-506	1		6
3-5	24067	ドイツ語科教科教育法Ⅲ	2	春	金3	上田	浩二	6-204	1		7
3-5	24068	ドイツ語科教科教育法IV	2	秋	水2	上田	浩二	A-407	-		7
2-3	22937	英語科教科教育法 I	2	春	金1	浅岡	千利世	E-522	_	外のみ履修可	8
2-3	14259	英語科教科教育法 I	2	秋	火1	羽山	恵	A-408	-	外のみ履修可	8
2-3	20885	英語科教科教育法 I	2	秋	土2	日野	克美	E-204	_	外のみ履修可	8
3-5	23702	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	月5	浅岡	千利世	A-401	30	外のみ履修可、先着順	9
3-5	23709	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	火5	E. 本	橋	A-403	30	外のみ履修可、先着順	9
3-5	23708	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水1	J. J.	ダゲン	6-406	30	外のみ履修可、先着順	9
3-5	23703	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	木1	羽山	恵	E-204	30	外のみ履修可、先着順	9
3-5	23707	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	月5	浅岡	千利世	A-401	30	外のみ履修可、先着順	9
3-5	23705	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	火5	E. 本	看	A-403	30	外のみ履修可、先着順	9
3-5	23706	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水1	J. J.	ダゲン	6-406	30	外のみ履修可、先着順	9
3-5	23704	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	木1	羽山	恵	E-310	30	外のみ履修可、先着順	9

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
3-5	24081	英語科教科教育法Ⅳ	2	春	木2	J. J. ダゲン	E-506	_	外のみ履修可	10
3-5	24080	英語科教科教育法IV	2	秋	木2	J. J. ダゲン	E-506	_	外のみ履修可	10
2-3	14024	英語科教科教育法 [	2	秋	水1	安間 一雄	E-510	_	養・経・法のみ履修可	8
3-5	14025	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水2	安間 一雄	E-312	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	22259	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	金2	齋藤 雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	22260	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水2	臼井 芳子	E-521	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	14026	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	金2	齋藤 雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	24357	英語科教科教育法Ⅳ	2	春	水3	安間 一雄	E-303		養・経・法のみ履修可	10
3-5	06932	フランス語科教科教育法 I	2	春	木1	中村 公子	A-502	_		11
3-5	06933	フランス語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	木1	中村 公子	A-502	_		11
3-5	24070	フランス語科教科教育法Ⅲ	2	春	火4	中村 公子	6-304	-		12
3-5	24071	フランス語科教科教育法Ⅳ	2	秋	火4	中村 公子	6-304			12
2-3	06934	社会科教育法 I	2	春	月1	秋本 弘章	E-312			13
3-5	06935	社会科教育法Ⅱ	2	春	火2	秋本 弘章	E-312	_		14
3-5	06936	社会科教育法Ⅲ	2	秋	火2	秋本 弘章	E-312	_		14
2-3	06939	地理·歴史科教育法 I	2	秋	土1	鈴木 孝	E-312	_		15
3-5	06940	地理•歴史科教育法Ⅱ	2	秋	木1	秋本 弘章	E-312	-		16
3-5	06941	地理•歴史科教育法Ⅲ	2	春	月5	會田 康範	E-312	_		17
3-5	06937	公民科教育法 I	2	春	土4	及川 良一	5-208	_		18
3-5	06938	公民科教育法Ⅱ	2	秋	土4	及川 良一	5-208	_		18
3-5	06942	情報科教育法 I	2	春	月2	秋本 弘章	E-411	_		19
3-5	06943	情報科教育法Ⅱ	2	秋	月2	秋本 弘章	E-411	_		19
2-3	23626	道徳教育の理論と実践	2	春	月3	安井 一郎	5-207	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	23624	道徳教育の理論と実践	2	春	木2	安井 一郎	E-304	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	23625	道徳教育の理論と実践	2	秋	月4	安井 一郎	E-514	-	中学校1種免許状は必修	21
2-3	19740	特別活動論	2	春	土3	及川 良一	5-208	_		22
2-3	19739	特別活動論	2	秋	月3	桑原 憲一	E-202	_		22
2-3	19741	特別活動論	2	秋	土3	及川 良一	5-208	_		22
2-3	06956	教育方法学	2	春	月3	町田 喜義	E-206	_		23
2-3	06955	教育方法学	2	春	火1	安井 一郎	5-100	_		23
2-3	06954	教育方法学	2	秋	月3	町田 喜義	E-206	_		23
2-3	06958	生徒指導法	2	春	火5	桑原 憲一	E-311			24
2-3	06961	生徒指導法	2	春	土1	及川 良一	E-304	1		24
2-3	06960	生徒指導法	2	秋	土1	及川 良一	E-302	_		24
2-3	06963	学校カウンセリング	2	春	木2	瀧本 孝雄	5-215	_	養は自学科科目で履修	25

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	06965	学校カウンセリング	2	秋	木2	瀧本 孝雄	5-215	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06962	学校カウンセリング	2	秋	木4	鈴木 乙史	E-312	_	養は自学科科目で履修	25
3-5	24076	教育実習指導	2	春	水4	岩崎 充益	5-202	25	特段の事情がある者のみ 履修可、先着順	26
3-5	24074	教育実習指導	2	秋	月3	安井 一郎	E-521	25	先着順	26
3-5	24075	教育実習指導	2	秋	火1	安井 一郎	E-509	25	先着順	26
3-5	24072	教育実習指導	2	秋	水1	岩崎 充益	5-202	25	先着順	26
3-5	24073	教育実習指導	2	秋	水4	岩崎 充益	5-202	25	先着順	26
3-5	24077	教育実習指導	2	秋	木2	川村 肇	5-101	25	先着順	26
3-5	24079	教育実習指導	2	秋	金3	小島 優生	A-408	25	先着順	26
4-7	-	教育実習I	2		_	2015年度不開講				_
4-7	_	教育実習Ⅱ	2	_	_	2015年度不開講	_	_		_
4-8	_	教職実践演習(中•高)	2	_	_	2015年度不開講	_	_		_

# 教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

# ≪教科又は教職に関する科目≫

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	_	司書教諭課程登録者 のみ履修可	28
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	_	司書教諭課程登録者 のみ履修可	29
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	_	司書教諭課程登録者 のみ履修可	29
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	_	司書教諭課程登録者 のみ履修可	30
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選、司書教諭課程登録 者のみ履修可	31
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選、司書教諭課程登録 者のみ履修可	31
2-3	22670	生涯学習概論_12以降	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	_	司書課程登録者(2012年 度以降入学者)のみ履修 可	32
2-3	23626	道徳教育の理論と実践	2	春	月3	安井 一郎	5-207	_	高校1種免許状のみ「教科 又は教職に関する科目」選 択科目として適用	21
2-3	23624	道徳教育の理論と実践	2	春	木2	安井 一郎	E-304	_	高校1種免許状のみ「教科 又は教職に関する科目」選 択科目として適用	21
2-3	23625	道徳教育の理論と実践	2	秋	月4	安井 一郎	E-514	_	高校1種免許状のみ「教科 又は教職に関する科目」選 択科目として適用	21
2-3	12781	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	金3	山口 友佑	5-401	_	中学校1種免許状のみ「教 科又は教職に関する科目」 の必修科目として適用	33
2-3	12780	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	金4	山口 友佑	5-401	_	中学校1種免許状のみ「教 科又は教職に関する科目」 の必修科目として適用	33
2-3	09109	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金4	山口 友佑	5-201	_	中学校1種免許状のみ「教科又は教職に関する科目」 の必修科目として適用	33
2-3	06997	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金3	山口 友佑	5-201	_	中学校1種免許状のみ「教 科又は教職に関する科目」 の必修科目として適用	33
3-5	22936	教科教育法特論 I (国環経用)	2	春	月4	安井 一郎	E-514	_	環のみ履修可	20

\_\_\_\_\_ ※抽選結果を確認すること。

# 教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

# ≪教科に関する科目≫

<b>//</b> 3	<u> メイナト</u>	<u> − 関 9 る件日 ≫</u>									
学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	ł	旦当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06982	日本史概説I	2	春	月4	會田	康範	E-312	1		34
1-1	06983	日本史概説Ⅱ	2	秋	月4	會田	康範	E-312	_		34
1-1	06984	外国史概説 I	2	秋	金5	兼田	信一郎	E-201	-		35
1-1	06985	外国史概説Ⅱ	2	春	金3	久慈	栄志	5-301	_		36
1-1	06986	地理学概説 I	2	春	火1	秋本	弘章	E-312	-		37
1-1	06987	地理学概説Ⅱ	2	秋	火1	秋本	弘章	E-312	-		37
1-1	06988	地誌学概説 I	2	春	水1	秋本	弘章	E-312	1		38
1-1	06989	地誌学概説Ⅱ	2	秋	水1	秋本	弘章	E-312	_		38
2-3	07023	法律学概説 I	2	春	水2	大川	俊	E-206	1	経•法履修不可	39
2-3	07024	法律学概説Ⅱ	2	秋	水2	木藤	茂	E-206	1	経•法履修不可	39
2-3	07025	政治学概説 I	2	春	木2	杉田	孝夫	5-207	_	経•法履修不可	40
2-3	07026	政治学概説Ⅱ	2	秋	木2	杉田	孝夫	5-207	_	経•法履修不可	40
1-1	07027	社会学概説 I	2	春	月4	木本	玲一	E-101	300	養は自学科科目で履修 環は履修不可	41
1-1	07028	社会学概説Ⅱ	2	秋	土1	岡村	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修 環は履修不可	41
2-3	07029	哲学概説 I	2	春	火5	河口	伸	6-303	ı		42
2-3	07030	哲学概説Ⅱ	2	秋	火5	河口	伸	6-303	-		42
1-1	07031	倫理学概説 I	2	春	金4	三口	茂雄	A-206	300	養は自学科科目で履修	43
1-1	07032	倫理学概説Ⅱ	2	秋	金4	三口	茂雄	A-206	300	養は自学科科目で履修	43
2-3	07033	宗教学概説I	2	春	木5	河口	伸	6-303	1		44
2-3	07034	宗教学概説Ⅱ	2	秋	木5	河口	伸	6-303	_		44
1-1	07104	心理学概説 I	2	春	木2	田口	雅徳	E-101	300	養は自学科科目で履修	45
2-3	07105	心理学概説Ⅱ	2	秋	木4	田口	雅徳	6-201	100	養は自学科科目で履修	45
1-1	22810	東洋史 I (教職)	2	春	木3	熊谷	哲也	E-201	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の授	46
2-3	22812	東洋史 I (教職)	2	春	木4	張士	:陽	5-100	300	業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	47
1-1	22811	東洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木3	熊谷	哲也	E-201	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の授	46
2-3	22813	東洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木4	張士	- 陽	5-100	300	業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	47
1-1	22806	西洋史 I (教職)	2	春	月1	上村	敏郎	5-128	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の授	48
1-1	22808	西洋史 I (教職)	2	春	金3	佐藤	唯行	A-206	300	業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	49
1-1	22807	西洋史Ⅱ(教職)	2	秋	月1	上村	敏郎	5-128	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の授	48
1-1	22809	西洋史Ⅱ(教職)	2	秋	金3	佐藤	唯行	A-206	300	業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	49
1-1	22814	地理学 I (教職)	2	春	水2	秋本	弘章	6-402	300	経は履修不可 同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	50

学年-	時間割コード	—————————————————————————————————————	単位数	開講学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1		地理学 I (教職)	2	春	金4	北﨑 幸之助	E-202	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	51
1-1	22815	地理学Ⅱ(教職)	2	秋	水2	秋本 弘章	E-101	300	経は履修不可 同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	50
1-1	22817	地理学Ⅱ(教職)	2	秋	金4	北﨑 幸之助	E-202	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	51
3-5	22818	地誌学 I (教職)	2	春	火3	鈴木 隆	E-516	-	仏・養・経は履修不可	52
3-5	22819	地誌学Ⅱ(教職)	2	秋	火3	鈴木 隆	E-516	ı	仏・養・経は履修不可	52
1-1	22820	国際法 I (教職)	2	春	月3	一之瀬 高博	5-128	300	経・法は履修不可	53
1-1	22821	国際法Ⅱ(教職)	2	秋	月3	一之瀬 高博	A-206	300	経・法は履修不可	53
1-1	22825	英語通訳(教職)	2	春	土2	中島 直美	E-311	50	外は履修不可	54
1-1	22826	英語通訳(教職)	2	秋	土2	中島 直美	E-306	50	外は履修不可	54
2-3	22828	英語圏の社会と思想a(教職)	2	春	火4	片山 亜紀	E-201	100	外は履修不可	55
2-3	22827	英語圏の社会と思想b(教職)	2	秋	金3	田村 斉敏	6-201	100	外は履修不可	55
1-1	22837	社会経済史a(教職)	2	春	木4	新井 孝重	E-206	300	養・経は履修不可	56
1-1	22838	社会経済史b(教職)	2	秋	木4	新井 孝重	E-206	300	養・経は履修不可	56
1-1	22839	社会思想史a(教職)	2	春	火4	市川 達人	E-206	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授	57
1-1	19979	社会思想史a(教職)	2	春	水2	松丸 壽雄	E-201	300	業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	58
1-1	22840	社会思想史b(教職)	2	秋	火4	市川 達人	E-206	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授	57
1-1	19980	社会思想史b(教職)	2	秋	水2	松丸 壽雄	E-201	300	業を履修希望者は、免許課 程係で別途手続き。	58
2-3	22845	外国経済史a(教職)	2	春	火1	御園生 眞	5-201	350	外・養・経・総は履修不可	59
2-3	22846	外国経済史b(教職)	2	秋	火1	御園生 眞	5-201	350	外・養・経・総は履修不可	59
2-3	22847	日本思想史a(教職)	2	春	木2	矢森 小映子	5-100	300	養・経・律・国は履修不可	60
2-3	22848	日本思想史b(教職)	2	秋	木2	小田 真裕	5-100	300	養・経・律・国は履修不可	60
3-5	22843	経済学史a(教職)	2	春	木2	黒木 亮	5-201	350	養・経・総は履修不可	61
3-5	22844	経済学史b(教職)	2	秋	木2	黒木 亮	5-201	350	養・経・総は履修不可	61

# 2013~2015年度入学者対象 教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目

「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」のほかに、文部科学省が別に定める科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位を修得しなければなりません。 所属学科毎に履修科目が異なるため、「履修の手引き」免許課程の当該ページを参照し、単位修得してください。

免許法施行規則 に定める科目	所属	科目群	科目名	単位数	備考
日本国憲法	外国語学部 国際教養学部 経済学部	各学部共通科目	日本国憲法	2単位	下表の時間割から、いずれか1科目 を登録すること。
	法学部	学部専門科目	憲法入門	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
体育	全学部	各学部共通科目	スポーツ・レクリエーション	1単位×2	自学科時間割冊子の全学共通授業科目「スポーツ・レクリエーション」を参照の上、登録すること。
外国語 コミュニケーション	全学部	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
	外国語学部 国際教養学部 経済学部	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
情報機器の操作	法学部	基礎科目	社会科学情報検索法	2単位×1	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
	以子印	各学部共通科目	コンピュータ入門a コンピュータ入門b	12年世 8 1	下表の時間割から、いずれか1科目 を登録すること。

学年 -学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※1	備考	ページ
1-1	22822	日本国憲法(教職)	2	春	金4	古関 彰一	5-403	300	法履修不可	61
1-1	22823	日本国憲法(教職)	2	春	火2	加藤 一彦	5-401	300	法履修不可	62
1-1	22824	日本国憲法(教職)	2	秋	火2	加藤 一彦	5-405	300	法履修不可	62
1-1	06968	コンピュータ入門a(教職)	2	春	火3	久東 義典	E-407	49	外•養•経履修不可	63
1-1	06969	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金3	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	63
1-1	06973	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金3	杉村 和枝	E-410	60	外•養•経履修不可	63
1-1	06971	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金4	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	63
1-1	<b>%</b> 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	火3	久東 義典	E-407	49	外•養•経履修不可	63
1-1	<b>%</b> 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金3	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	63
1-1	<b>%</b> 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金3	杉村 和枝	E-410	60	外•養•経履修不可	63
1-1	<b>%</b> 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金4	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	63

<sup>※1</sup> 抽選結果を確認すること。

<sup>※2</sup> 秋学期履修希望者は、履修登録期間内に教務課法学部係窓口にて別途手続(整理券必要)。

# 司書課程 授業科目(2011年度以前入学者)

学年-	時間割	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員		ページ
2-3	コード 06998		2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	_		32
2-3			2	春		井上 靖代	A-306	_		64
2-3	07036	図書館経営論_11以前	2	秋	木4	井上 靖代	A-306	_		64
2-3	07035		2	春	木2	井上 靖代	A-406	_		65
3-5	08830		2	春	月3	福田 求	E-412	50		66
3-5	08747		2	春	月4	福田 求	E-412	50	—————————————————————————————————————	66
3-5	08831	情報サービス論b_11以前	2	春	金3	気谷 陽子	A-308	50	先着順	67
3-5	08748	情報サービス論b_11以前	2	春	金2	気谷 陽子	A-308	50	先着順	67
3-5	07005	情報検索演習_11以前	2	秋	金3	気谷 陽子	A-308	50	先着順	67
3-5	07004	情報検索演習_11以前	2	秋	金2	気谷 陽子	A-308	50	先着順	67
2-3	07006	図書館資料論_11以前	2	春	木1	井上 靖代	A-308	_		68
2-3	07007	専門資料論_11以前	2	秋	木1	井上 靖代	A-405	_		68
3-5	07008	資料組織概説_11以前	2	春	月1	小黒 浩司	A-306	_		69
3-5	07009	資料組織演習(前半)_11以前	1	春	火4	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セット履修(前半・後半双方単位	70
3-5	07010	資料組織演習(後半)_11以前	1	秋	月1	小黒 浩司	A-308	50	修得すること)	70
3-5	14255	資料組織演習(前半)_11以前	1	春	火5	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セット履修(前半・後半双方単位	70
3-5	14256	資料組織演習(後半)_11以前	1	秋	月2	小黒 浩司	A-308	50	修得すること)	70
2-3	07011	児童サービス論_11以前	2	秋	木2	井上 靖代	A-406	_		71
2-3	07012	図書及び図書館史_11以前	2	春	月2	小黒 浩司	A-306	_		72
3-5	_	資料特論	2	_	ı	2015年度不開講	ı	-		_
2-3	_	コミュニケーション論	2	_	_	2015年度不開講	_			_
2-3	_	情報機器論	2	_	_	2015年度不開講	_	_		_
3-5	07014	図書館特論_11以前	2	秋	水2	井上 靖代	5-101	-		73

# 司書教諭課程 授業科目(2011年度以前入学者)

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	ı		28
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	ı		29
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	-		29
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	_		30
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選※	31
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選※	31

<sup>※</sup>抽選科目は、抽選結果を確認すること。

# 司書·司書教諭課程(2012年度以降入学者)

# 司書課程 授業科目(2012年度以降入学者)

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	22670	生涯学習概論_12以降	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	_		32
2-3	22671	図書館概論_12以降	2	春	木4	井上 靖代	A-306	_		64
3-5	22952	図書館情報技術論_12以降	2	秋	月4	福田 求	E-412	30	先着順	74
3-5	22951	図書館情報技術論_12以降	2	秋	月3	福田 求	E-412	30	先着順	74
2-3	22672	図書館制度・経営論_12以降	2	秋	木4	井上 靖代	A-306	1		64
2-3	22673	図書館サービス概論_12以降	2	春	木2	井上 靖代	A-406	-		65
3-5	22955	情報サービス論_12以降	2	春	月4	福田 求	E-412	50	先着順	66
3-5	22954	情報サービス論_12以降	2	春	月3	福田 求	E-412	50	先着順	66
2-4	22677	児童サービス論_12以降	2	秋	木2	井上 靖代	A-406	_		71
3-5	22956	情報サービス演習(前半)_12以降	1	春	金2	気谷 陽子	A-308	50	先着順、春・秋セッ	67
3-5	22957	情報サービス演習(後半)_12以降	1	秋	金2	気谷 陽子	A-308	50	ト履修	67
3-5	22958	情報サービス演習(前半)_12以降	1	春	金3	気谷 陽子	A-308	50	先着順、春・秋セッ	67
3-5	22959	情報サービス演習(後半)_12以降	1	秋	金3	気谷 陽子	A-308	5	ト履修	67
2-3	22674	図書館情報資源概論_12以降	2	春	木1	井上 靖代	A-308	_		68
3-5	22960	情報資源組織論_12以降	2	春	月1	小黒 浩司	A-306	1		69
3-5	22961	情報資源組織演習(前半)_12以降	1	春	火4	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セッ	70
3-5	22962	情報資源組織演習(後半)_12以降	1	秋	月1	小黒 浩司	A-308	50	ト履修	70
3-5	22963	情報資源組織演習(前半)_12以降	1	春	火5	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セッ	70
3-5	22964	情報資源組織演習(後半)_12以降	1	秋	月2	小黒 浩司	A-308	50	ト履修	70
3-5	22675	図書館基礎特論_12以降	2	秋	水2	井上 靖代	5-101	_		73
3-5	-	図書館サービス特論_12以降	2	1	-	2015年度不開講	1	-		_
2-4	22679	図書館情報資源特論_12以降	2	秋	木1	井上 靖代	A-405	_		68
2-3	22678	図書・図書館史_12以降	2	春	月2	小黒 浩司	A-306	_		72
2-3	_	図書館施設論_12以降	2	-	ı	2015年度不開講	_	ı		
4-7	-	図書館実習	2	_	_	2015年度不開講	_	_		_

# 司書教諭課程 授業科目(2012年度以降入学者)

学: 学	年- !期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-	-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	_		28
2-	-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	_		29
2-	-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	_		29
2-	-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	_		30
2-	-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選、情報免許取 得希望者は教務 課免許課程係で別 途手続をすること。	31
2-	-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選、情報免許取 得希望者は教務 課免許課程係で別 途手続をすること。	31

※抽選科目は、必ず抽選結果を確認すること。

03 年度以降	教職論		担当者	各担当教員				
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画						
関する科目であり、 として位置づけられ 要を理解するととも 的な知識や技能を習 【授業の概要】 本講義では、グバ の意義、教員の身分 質などについての言 している諸課題につ	及びテーマ】 議員免許法に規定された教職の意義等に 教職課程履修の基礎的・基本的な科目 れている。本講義においては、教職の概 らに、教職に必要不可欠な基礎的・基本 習得することを目的とする。 レープ討議や研究協議などを通して教職 分や服務、職務の内容や必要とされる資 性体的な理解を深めていく。教員が直面 ついても取り上げ、教育に対する質の高 する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を	一日 第9回:教教員の 第10回:教教員 第11回:教員 第12回:教員 第12回:教員 第14回:様々の 第14回:様校の 第15回:まと 第15回:まと	れ生資式任身職 職のののるな仕な数める徒質と用分務 務職研研研進事進育都のと教とといい。 $(2)$ 3( $(2)$ 6(修修路と路の保長)免育務学 学 会 大製	目指す教師像 教員の役割 : :員会 変と教員の一年・学校と教員の 変運営と校務分掌 空習指導と生徒指導 三次研修と教員のキャリア 目主的研修(教育センター等に				
テキスト、参考文献	<b>决</b>	評価方法						
【テキスト】講義報 【参考文献】講義内	展に配布する資料 内容に応じて適宜紹介	課題レポート、	定期試験等に	より総合的に評価する。				

03 年度以降	各 教職論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	문	授業計画		
	Dため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	<b>决</b>	評価方法		

03 年度以降	教育原論		担当者	各担当教員
つつ、さまざまなまの基礎を養う。 【授業の概要】 1. 教育の思想と歴 条約や教育基 利、能力の問題な概念や考えた。 2. 教育と学習との	なびテーマ】 解するために、自らの教育観を相対化し 基本的概念を学び、教育に対する考え方 歴史の概略を基礎として、子どもの権利 本法等を素材にし、人権と子どもの権 夏、義務教育等の、教育において基本的	第5回:教書 第6回:教書 第7回:教書 第7回:教育 10回回回:教教教教育育後有一次 10回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回	義と想なては、 ととといととと思とでは、 ととといととと思とでは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 を	教育への3)近代市民教育と国民教育の4)日本の教育思想の歴史の5)問題の6)教育課題にの最近接領域説ー自由の問題を考える精神と人権との関係存在か
テキスト、参考文献 【テキスト】『ポケ 【参考文献】適宜総	ット版 子どもの権利ノート』(300円)	評価方法 期末試験に、感想	思文や小レポ	ートの提出等を加味する。

03 年度以降	教育原論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	- 	授業計画		
	Oため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	<b>*</b>	評価方法		

03 年度以降 13 年度以降	教職心理学 教育心理学(12 年度以前の交文を含む。)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	5	授業計画		
【授業の到達目標及	をびテーマ】	第1回:教育心理	理学の領域と	その歴史
教育心理学におい	いてこれまで得られてきた知見が、今日	第2回:教育測定	定と教育評価	
の学校臨床におけ	る生徒理解あるいは生徒指導にいかに	第3回:教育評例	画の方法	
生かすことができる	かを受講者とともに検討する。受講生	第4回:教育評例	面と学力問題	
には、こうした講義	と して教育現場にたつ人間に必要と	第5回:学習の原	原理	
される心理学の基礎	き的知識について理解を深めてほしい。	第6回:学習に	おける動機付	け
		第7回:学習意	次と原因帰属	
【授業の概要】		第8回:学習意	次と目標理論	
教育心理学にはた	大きく(1)測定・評価,(2)人格・	第9回:学習意欲と教師の役割		
適応, (3)発達,	(4) 学習という4つの領域がある。本	第10回:発達期と発達課題		
授業では、これら4	領域の内容を解説する。すなわち、1.	第11回:心理アセスメントと発達障害		
教育評価と学力問題	夏, 2. 学習の過程と学習への動機付け,	第12回:学習障害の理解		
3. 発達および発	達障害について講義していく予定であ	第13回: ADHD の理解		
る。		第14回:自閉性障害の理解		
		第15回:発達障害への心理支援		
テキスト、参考文献		評価方法		
【テキスト】必要な資料を配付する。		学期末の試験により、総合的に評価をおこなう		
【参考文献】授業は	- (週且稲川りる。			

03 年度以降 13 年度以降	教職心理学 教育心理学(12年度以前の交文を含む。)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<b>要</b>	授業計画		
	のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	就	評価方法		

講義目的、講義概要					
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論 に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の 教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学 習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。  【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題 第11回: オリエンテーション 第2回: 教育の制度化 第3回: 学校教育制度の概要 第4回: 学校教育制度の変遷 第5回: 公教育と規度 第6回: 教育所財政 第7回: 教育委員会制度 第8回: 教育課程と学習指導要領 第9回: 諸外国の教育制度 第10回: 家庭教育の現状と課題 第11回: 社会教育の現状と課題 第11回: 社会教育の現状と課題 第11回: 教育改革の現状と課題 第11回: 教育改革の現状と課題 第11回: 教育改革の現状と課題 第15回: 教育改革の現状と課題(1) 学校選紙・小中高一貫教育 第14回: 教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第14回: 教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第15回: 教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度	03 年度以降	教育制度		担当者	各担当教員
本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。  【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。  「大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、	11.02 11.02	^			
【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。  第12回:教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度第13回:教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育第14回:教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会第15回:教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度	本講義は、教育駅に関する科目でありませるに関する科目でありませるに位置づける教育制度の意義や料理社会における学校も触れながら教育制	議員免許法に規定された教育の基礎理論 の、教職課程履修の基礎的・基本的な科 られている。本講義においては、日本の 構造の概要を理解するとともに、生涯学 交教育、家庭教育、社会教育の関係性に 制度全般に対する基礎的・基本的な識見	第2回:教育の 第3回:教育の 第4回:学公教育 第5回:学公教育育 第6回:教教育育 第9回:諸 第9回:諸 第10回: 第10回:	制度化 育制度化の概要 育制私政のの変育 を財員と対 員と対 員と対 員と対 員と対 員と対 員と対 員と 対 員と 対 の 数 言 の 数 言 の で の で 育 目 を り 学 育 制 度 の で の で の で の で り 学 育 の の の の の の の の の の の に の と の と し と と と と と と と と と と と と と と と	要領課題
	本講義では、グバス 本の教育制度の意識 ついて主体的な理解 社会教育との関連 育に対する質の高	慶や構造、教育改革の現状と課題などに 解を深めていく。教育行政、学校・家庭・ や諸外国の教育制度にも触れながら教	学校: 第13回:教育市 学校: 第14回:教育市 学校: 第15回:教育市	評価・人事評 少革の現状と 選択制・現状と 改革の現状と な事 の現状と な事 の現状と を で を で の の の の の の の の の の の の の	注価制度 課題(2) 高一貫教育 課題(3) 達営協議会 課題(4)
			21 1010101	定期試験によ	り総合的に評価する。

【参考文献】講義内容に応じて適宜紹介

03 年度以降	度以降教育制度		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	포	授業計画		
	Dため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	<b>状</b>	評価方法		

03 年度以降	03 年度以降 教育課程論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>e</del>	授業計画		
の内容をめぐる問 究、実践に関するをとする。 【授業の概要】 学校に育目である。 「学校で育りである。本講での。 が、教育のでは、本講でのには、本書でのには、本書でのと教育、といいると教育、問題等の問題をいいます。	と評価 平価、総合的学習など、今日の学校教育 題状況をふまえながら、教育課程の研 今日的課題について考察することを目的 唱されている毎日の授業や諸活動は、一 成するために編成される教育内容に関 育課程に基づいて行われている。いわ 学校教育における中核としての役割を果 では、以上のような観点から、教育課程 では、以上のような観点から、教育課程 の問題を中心に、わが国の戦後教育の歩 圏、新教育課程の分析と課題の検討、今 問題を取り上げ、各種資料、VTR教材 多面的に検討を加え、教育課程研究に	第4回:日本の 第5回:教育課 第6回:教育課 第7回:教育課 第9回:学習指 第10回:学習指 第11回:学習	程とは理解 とは (2) 学 に (4) を (2) 学 に (4) を (4)	を育課程編成のプロセス と習指導要領と教育課程 と方法(1)経験カリキュラム と方法(2)教科カリキュラム と方法(3)教育課程構成法 課程(1)昭和 20 年代 課程(2)昭和 30-40 年代 (計算程(3)昭和 50-60 年代 (計算程(4)平成 1-10 年代 検討(1)改訂の経緯と概要
テキスト、参考文献         【テキスト】特に力         【参考文献】文部科		<b>評価方法</b> 授業課題、試験)	による総合評	価
	導要領』『同解説 総則編』。その他は、講義			

03年度以降	教育課程論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	문	授業計画		
	ため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	<b>决</b>	評価方法		

金井 満 03年度以降 ドイツ語科教科教育法 I 担当者 講義目的、講義概要 授業計画 第1回:オリエンテーション 【授業の到達目標及びテーマ】 第2回:ドイツ語基礎知識確認試験 ドイツ語の基礎知識の確認と補強、および外国語教授法 第3回:試験の解答と解説による基礎知識の確認1 の知識と教案の作成などの実務的な技能の獲得を目標と (文法事項中心) する。 第4回:試験の解答と解説による基礎知識の確認2 (書き換え問題中心) 【授業の概要】 第5回:試験の解答と解説による基礎知識の確認3 (独作文中心) 基礎知識に関しては、学科基礎科目において習得してき 第6回: 教壇実習の割り振りについて た文法に関する知識のみならず、ドイツ語の授業を行うの (基礎知識の一番弱い項目を中心に) に必要だと思われるドイツ語に関わる一般的知識をも含 第7回:代表的な外国語教授法について1 (発表形式) めて確認・補強をする。外国語教授法に関しては、代表的 第8回:代表的な外国語教授法について2(発表形式) な教授法に関して受講者に調査・報告をしてもらい、その 第9回: 教授法についてのディスカッション 第10回: 教壇実習(アルファベットと発音を中心に) 長所・短所を議論する。また教案や試験問題なども実際に 第11回: 教壇実習(動詞の人称変化を中心に) 作成してみたい。 第12回: 教壇実習(格変化を中心に) 第13回: 教壇実習(人称代名詞の格変化を中心に) 第14回: 教壇実習(前置詞を中心に) 第15回:総括

評価方法

授業内の筆記試験。

2.教授法に関する発表。

3.授業への参加度。

1.ドイツ語文法と教授法の基礎知識に関しては、

テキスト、参考文献

2003 年

【テキスト】適宜指示する。

【参考文献】吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法Ⅱ		担当者	金井 満
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
の知識と教案の作りする。 【授業の概要】 ドイツ語科教育法I て、ドイツ語を教え	田識の確認と補強、および外国語教授法成などの実務的な技能の獲得を目標と Iにおいては、複数回の模擬授業を通じ さるという経験の獲得を目指したい。模 当者の授業をビデオ撮影し、担当者自ら )返り、さらに参加者全員で講評し合う	第 4 回:教壇 壇 實 第 5 6 回:教壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇	語習知習習習習習習苦裏ミ実ミ実ミ実に実施的の動格(3(((習ュ習ュ習ュ習ュ習ュ習)の動格。 3 受接ビニニニニニニ 無振番の化本態法オーニニニー ですり 引入を形ををを シーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシーシー	認試験 について い項目を中心に) 称変化を中心に) 中心に) を中心に) 中心に)
テキスト、参考文献	<del></del>	評価方法		
【テキスト】適宜抗 【参考文献】吉島克 2003 年	旨示する。 を・境一三著『ドイツ語教授法』三修社	1. ドイツ語文法と 授業内の筆記試 2. 教授法に関する 3. 授業への参加度	験。	知識に関しては、

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論 I (ドイツ語) ドイツ語科教科教育法Ⅲ		担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画		
「学ぶ側」と「教えにより、より効果的により、より効果的に対する。 外国語学習においなテーマとする。 【授業の概要】 とりわけ翻訳に無意識しながら、実践	なびテーマ】 中心に、外国語教育や言語教育について える側」の双方からアプローチすること かな外国語学習とは何かを考え模索する ける「学習ストラテジー」を全体の大き 焦点を当て、単なる訳読と翻訳の相違を 践的な翻訳演習を行うとともに、それが とかせるかを考える。	第3年 第 第 第 第 第 第 第 第 5 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年	国  す   関 関 関ッテなななでで、ことにににて、マー・コー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	でう生かせるかを考える (基づく実践的演習(2)(歴史) (基づく実践的演習(2)(歴史) (基づく実践的演習(3)(文化) (に基づく実践的演習(2) (に基づく実践的演習(2) (に基づく実践的演習(4) (イツ) ((本会) ((
テキスト、参考文献	· 状	評価方法		
【テキスト】特にた 【参考文献】特にた	なし(毎回、プリントを配布) なし	授業中の作業や教取り組みなどを教		毎回提出してもらう課題への に評価する。

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論 II (ドイツ語) ドイツ語科教科教育法IV		担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
「学ぶ側」と「教えにより、より効果的により、より効果的によりを目標とする。外国ではいる。 外国ではいる。 外国ではいる。 「授業の概要】 「ドインのでは、とは、ののでは、は、のの過程で行った。」 「おいては、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	中心に、外国語教育や言語教育について さる側」の双方からアプローチすること 的な外国語学習とは何かを考え模索する する「学習ストラテジー」を全体の大き ことの意味や目的、実際の教育/学習方 理論や方法論を知るだけでなく、演習に 国語学習のプロセスを振り返ったり、そ 検をしながら、演習形式で学ぶ。 東習、たとえば翻訳者や通訳者がプロに でする。 東習法などを、実際に教室で行って 東習法がどのようにドイツ語教育に役立	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	数語語のドのトテトのス東ス重也景也景也景で青ののの中ののイの練ト習ト練の知の知の知に「学練イ練展シ展習の法の習実識実識実特習習ン習開ペ開法展の展法際と練と練と、が殊法(グ(に一にの開実開の練し練し練し練しを性(1に2関シ関紹に際に評習て習て習て	よるアプローチ) ) (その他の練習法) する実際練習(1) ョンの役割) する実際練習(2) 介) 関する実際練習(3) 練習) 関する実際練習(4) 価) (1) の社会的テーマ) (2) の歴史的テーマ)
テキスト、参考文献	状	評価方法		
【テキスト】特にた 【参考文献】特にた	よし(毎回、プリントを配布) よし	授業中の作業や変取り組みなどを		毎回提出してもらう課題への に評価する。

			担当者	
講義目的、講義概要	5	授業計画		
テキスト、参考文献	<u> </u>	評価方法		

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論 I (英語) 英語科教科教育法 I (12 年度以前の交・養を含む。)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
おくべき教科指導及 とその背景を幅広く 的とする。 【授業の概要】 この授業では様々な の歴史的変遷と課題 究も参考にしつつ、	・高校の英語教員を目指す学生が知って 及び言語学習・習得に関する基礎的理論 、取り上げ、それらを理解することを目 な外国語教授法、日本における英語教育 夏を理解し、先達が築いてきた理論や研 現代により合致した教育方法への応用 最新の教授理論の背景とその効果に関わ	第6回:英語教 第7回:英語教 学習者 第8回:各種指 第9回:各種指 第10回:テス	お尊育育育育言尊尊トーのに教育のすするのというでは、はいいでは、これでは、これでは、いいいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	育の流れ 理論:母語習得 理論:第二言語習得 理論:学習者要因 理論: ドバック 論と実践 ングの理論と実践 意工夫 教育
テキスト、参考文献		評価方法		
【テキスト】各担当教員が指示する。 【参考書・参考資料等】授業中に指示する。		課題・レポート、 評価する。詳細は		業への参加度などを総合的に 指示する。

03~12 年度 英語科教科教育法 I (英のみ) 担当者 各担当教員 13年度以降 英語科教科教育法Ⅱ (12年度以前の交・養を含む。) 講義目的、講義概要 授業計画 【授業の到達目標及びテーマ】 第1回:オリエンテーション この授業では中学校・高等学校における英語科教育法に 第2回:発音の指導 関する基礎知識を身につけ、指導法を学び、実践すること 第3回: 語彙・辞書の指導 を目的とする。 第4回: 文法の指導 第5回:受容スキル(リスニング・リーディング)の指導 【授業の概要】 第6回:産出スキル (スピーキング・ライティング)の指導 この授業では中学校を中心とした英語指導法について 第7回:学習者参加型の授業 の知識を深めるとともに、授業観察、指導案の作成、模擬 授業の実践、講評などによって授業実践力の基礎を身につ 第8回:授業展開と指導案作成 ける。 第9回:テスト作成と評価 第10回:授業の実際:ビデオによる観察と討論 ※ I と Ⅱ (13年度入学者は Ⅱ と Ⅲ (12年度以前の交・養を 第11回:模擬授業 グループ1 含む。))は原則として同じ担当者の授業を受講すること。 第12回:模擬授業 グループ2 第13回:模擬授業 グループ3 第14回:模擬授業 グループ4 第15回:模擬授業 グループ5 テキスト、参考文献 評価方法 【テキスト】各担当教員が指示する。 課題・レポート、テスト、模擬授業、授業への参加度など 【参考書・参考資料等】授業中に指示する。 を総合的に評価する。詳細は授業初回に指示する。

03~12 年度 13 年度以降	英語科教科教育法Ⅲ (英のみ) 英語科教科教育法Ⅲ (12 年度以前の交・養を含む。)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
関する知識を身にで 的とする。 【授業の概要】 この授業では高さ ての知識を深めると 擬授業の実践、講話 つける。 ※ I と II (13年度)	なびテーマ】	第4回:インプ 第5回:ワーク 第6回:ワーク 第7回:ワーク 第8回:リキャン 第9回:ワーク 第10回:ワーク 第11回:ワーク 第13回:授業	「シッシプシスンクク学のできる。 アンティア アンプレスシクタ学 といり アンカン アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー アンカー	入および授業手続き した指導 ンプットを重視した指導 とした指導 ウトプットを重視した授業 フォールディング 容重視型授業 タスクを中心とした授業 4 技能の統合 課題設定
テキスト、参考文献		評価方法		
【テキスト】各担当 【参考書・参考資料	á教員が指示する。 ∤等】授業中に指示する。			擬授業、授業への参加度など 授業初回に指示する。

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論Ⅱ(英語) 英語科教科教育法IV		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	5 7	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】		語習得得と動機人と動機人と動します。 一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	習得 づけ 差 得に及ぼす効果 言語習得に及ぼす効果 習得に及ぼす効果 一ムによる指導法	
テキスト、参考文献 【テキスト】授業内で適宜指示する。 【参考書・参考資料等】授業内で適宜指示する。		第14回:生涯 第15回:まと <b>評価方法</b> 課題・レポート、	学習としての め - テスト、模	言語習得の進捗の測定 英語教育 擬授業、授業への参加度など 授業初回に指示する。

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論Ⅱ(英語) 英語科教科教育法IV		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
	とめ、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	<b>状</b>	評価方法		

03 年度以降 フランス語科教科教育法 I 担当者 中村 公子

#### 講義目的、講義概要

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

言語教育に携わっていく上で必要な言語教育理論や実践方法についての基礎知識を学び、教育実習に必要な事柄の習得を目指す。また、日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と今後の在り方について考える。

#### 【授業の概要】

フランス語教育の歴史的変遷や教材分析、教案の書き 方、教室活動、評価の仕方などを紹介する。教材分析や教 案の作成など、グループまたは個人による課題に取り組 む。必ず一回目から出席すること。

#### 授業計画

第1回:Introduction

第2回:コースデザイン、カリキュラムデザイン、 シラバスデザイン

第3回: 教案の書き方 (個人での教案作成作業)

第4回:言語教育の方法の変遷 - 古代から現代まで -

第5回:フランス語教授法の変遷 - 文法訳読法から SGAV (視聴覚方式全体構造教授法) へ -

第6回:フランス語教授法の変遷 - SGAV の反省から

コミュニカティブ・アプローチへ -第7回:日本におけるフランス語教育の変遷

第8回:日本で作成されたフランス語教材の種類と分析

第9回:フランスで作成されたフランス語の総合教材

(méthodes) 種類と分析

第10回: 教材分析作業と発表(グループ作業)

第11回: 教室活動 -アクティビティを取り入れた授業-

(グループ作業)

第12回:教師の役割りと教室空間の使い方

第13回: 教室活動 - タスクを取り入れた授業 -

(グループ作業)

第14回:評価について

第15回:まとめ

#### テキスト、参考文献

【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著:

『フランス語をどのように教えるか』, 駿河台出版社, 1995年

【参考文献】DISSON, Agnès: Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996

#### 評価方法

授業中の講義ノート、グループによる作業と発表(教材分析、アクティビティ、タスク)、教案作成、 教材分析のための枠組みの作成、レポート課題

03年度以降 フ

フランス語科教科教育法Ⅱ

担当者

中村 公子

#### 講義目的、講義概要

#### 【授業の到達目標及びテーマ】

フランス語科教科教育法 I で学習した内容を踏まえ、授業を行う時の注意点や問題点などについて考えると共に、 実際に教壇に立つための訓練を行う。また模擬授業を通して教育実習への心構えができるようにする。

# 【授業の概要】

毎回、模擬授業を実施し、学生一人あたり数  $4\sim5$  回の模擬授業を担当する。一回の模擬授業につき次のような流れで進める: 教案作成  $\rightarrow$  授業準備  $\rightarrow$  模擬授業実施  $\rightarrow$  評価と反省  $\rightarrow$  次回への自分への課題を決める  $\rightarrow$  個別に事後指導。必ず一回目から出席すること。

#### 授業計画

第1回:Introduction

第2回:模擬授業 1

第3回:模擬授業 2

第4回:模擬授業 3 第5回:模擬授業 4

第6回:模擬授業 5

第7回:模擬授業 6

第8回:模擬授業 7

第9回:模擬授業 8

第10回:模擬授業9

第11回:模擬授業 10

第12回:模擬授業 11

第13回:模擬授業 12 第14回:模擬授業 13

第15回:まとめ - 教育実習に向けて -

# テキスト、参考文献

【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著:

『フランス語をどのように教えるか』, 駿河台出版社, 1995年

【参考文献】DISSON, Agnès: Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.

#### 評価方法

授業中の講義ノート、グループによる作業と発表(教材分析、アクティビティ、タスク)、教案作成、 教材分析のための枠組みの作成、レポート課題

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論 I (フランス語) フランス語教科教育法Ⅲ		担当者	中村 公子
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
て「学ぶ側」と「表 アプローチすること 何かを考え模索する 外国語学習におけなテーマとする。 【授業の概要】 学習ストラテジー 身につけるための意	をびテーマ】 を中心に、外国語教育や言語教育につい 放える側」の双方から ににより、より効果的な外国語学習とは ることを目標とする。 ける「学習ストラテジー」を全体の大き 一の基本的な考え方と、「聞く」能力を 学習活動(アクティビティ)を組み立て レープ作業を通して実践していく。	第3回:外国語 第4回:外国語 第5回:学習/ 第6回:学習/ 第7回:「聞音ススル 第8回:「野子」 教:「野子」 教:: 第10回: 第11回: 第12回: 第13回: 第13回:	学習とは何かか学習とは何かか学習とは何かかりです。 たり はいかい かいいい かいいい かいいい かいいい かいいい かいいい かいい	定義について 分類と学習活動 ション・発音の学習のための と指導法 の聴解練習問題の分析 み立て方 れたアクティビティ作成
		第14回:「聞く」活動のグループ発表 第15回:まとめ		
テキスト、参考文献 【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著: 『フランス語をどのように教えるか』,駿河台出版社, 1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès:Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.		評価方法 定期試験、授業・ 授業への取り組み		作業、グループ発表、課題、 的に評価する。

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論Ⅱ(フランス語) フランス語科教科教育法Ⅳ		担当者	中村 公子
講義目的、講義概要	5	授業計画		
て「学ぶ側」と「表 アプローチすること 何かを考え模索する。 外国語学習におけ なテーマとする。 【授業の概要】 「聞く」能力養所 上でのコミュニケ	を中心に、外国語教育や言語教育につい 放える側」の双方から により、より効果的な外国語学習とは ることを目標とする。 ける「学習ストラテジー」を全体の大き 成を踏まえて、「話す」「読む」「書く」 ーション能力養成を目指した学習活動 の組み立て方と指導法を学び、グルー	ものでい 第4回:「話よす」 第5回:「話話す」 第6回:「話話習法 第7回:「話話習去と 第10回:「学文母 第11回:Docu 第11回:「記載 第12回:「読む 第13回:「読む	活動のauthent はない話ない話でである。 はない話でである。 でする動作ののでは、 でする動作のでは、 でするでである。 でするでである。 でするでは、 でするできるでは、 でするでは、 でするでもでもでもでもできるでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでも	iques(教材用に作成された を教材にする授業 動材選びと準備、 れたアクティビティ作成 -プ発表 つ指導法 った教材選び こついて 扱いについて ntiques を「読み物」とする 習の組み立て方 かを取り入れたアクティビテ 作業)
テキスト、参考文献		評価方法		
【参考文献】DISSON, A	長谷川富子著: 5 に教えるか』,駿河台出版社, 1995 年 kgnès:Pour une approche communicative dans ais au Japon, Presses Universitaires d'Osaka,	定期試験、授業・ 授業への取り組み	•	作業、グループ発表、課題、 的に評価する。

03 年度以降	社会科教育法 I		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要	문	授業計画		
柄を習得する。社会 内容、課題について 【授業の概要】 社会科教育法 I で るとともに、学習打	社会科を担当するための基礎となる事 注料教育法 I は主として、社会科の理念、 で考察する。 では、社会科の基本的性格を明らかにす 指導要領に基づいて、教科の内容につい こつける。また、今日社会科教育に課さ	第4回: 社会科の 分野制社: 第5回: 社会科の 第6回: 社会科の 第7回: 社会科の 第8回: 社会科の 第9回: 社会科の 第10回: 社会科の	立教教会教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教	2 ②変化(1) 初期社会科 ②変化(2) 展開 ②変化(3) 知識から方法へ )地理的分野(1) 目標と内容 )地理的分野(2) 授業の展開 )歴史的分野(1) 目標と内容 )歴史的分野(2) 授業の展開 5)公民的分野(1) 6)公民的分野(2) (1)環境 (2)人権 (3)国際化
<b>テキスト、参考文</b> 献 【テキスト】文部名	省『中学校学習指導要領解説(平成 20	<b>評価方法</b> 授業時に出される	る小課題(レオ	ポート)等を含め総合的に評価
年9月)社会編』日本文教出版 【参考文献】授業中に指示される。		する。		

			担当者	
講義目的、講義概要	5	授業計画		
テキスト、参考文献		評価方法		

03年度以降 社会科教育法Ⅱ 担当者 秋本 弘章 講義目的、講義概要 授業計画 【授業の到達目標及びテーマ】 第1回:社会科の目標と身につけるべき力 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事 第2回:学習と評価 柄を習得する。社会科教育法Ⅱは主として、社会科の授業 第3回:講義式授業の特質 実践のための技能を身につけることを目標とする。 第4回: 教材の収集と利用(1)新聞・雑誌・書籍 第5回: 教材の収集と利用(2) 視聴覚教材 【授業の概要】 第6回:教材の収集と利用(3)インターネット等 社会科教育法Ⅱでは社会科で身につけるべき広い意味 第7回: 教材の収集と活用(4) ワークシートの作成 での学力(知識・技能・態度等)を踏まえて、授業形態別 第8回:生徒主体の学習指導法(1)調べ学習の指導 第9回:生徒主体の学習指導法(2)ディベートと発表 に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、 情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えて 第10回:シミュレーション教材の利用 いく。 第11回:臨地学習の意義と計画 第12回:臨地学習の実践 第13回:臨地学習の実践 第14回:学習指導計画と学習指導案(1) 年間計画・学期計画・単元計画 第15回:学習指導計画と学習指導案(2) 時間計画

テキスト、	参考文献	評価方法
-------	------	------

年9月) 社会編』日本文教出版 【参考文献】授業中に指示される。

【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解説(平成 20 | 授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価 する。

03年度以降 担当者 社会科教育法Ⅲ 秋本 弘章

#### 講義目的、講義概要 授業計画

### 【授業の到達目標及びテーマ】

中学校において、社会科を担当するための基礎となる事 柄を習得する。社会科教育法Ⅲは主として、社会科の模擬 授業を通じて実践力を身につけることを目標とする。

#### 【授業の概要】

社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および 学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会 科の教員としての望ましい知識と熊度を身につける。

第1回:学校カリキュラムの中の社会科

第2回:社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 第3回:学習指導案の作成と模擬授業の準備 資料の収集

第4回:学習指導案の作成と模擬授業の準備

教材構成と発問の工夫

第5回:学習指導案の作成と模擬授業の準備 プリント資料の作成と板書事項の検討

第6回:模擬授業(1)地理的分野 日本の諸地域

第7回:模擬授業(2)地理的分野 世界の諸地域 第8回:模擬授業(3)歴史的分野 近代以前の世界

第9回:模擬授業(4)歴史的分野 近代以降の日本

第10回:模擬授業(5)公民的分野 経済分野 第11回:模擬授業(6)公民的分野 政治分野

第12回:模擬授業(7)分野融合単元

現代社会の諸問題

第13回:評価問題の検討と学習評価

定期試験問題の作成

第14回:評価問題の検討と学習評価

定期試験結果の分析と授業の改善

第15回:まとめ

# テキスト、参考文献

【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解説(平成 20 年9月) 社会編』日本文教出版

【参考文献】授業中に指示される。

#### 評価方法

授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価 する。

講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

03 年度以降	地理・歴史科教育法 I		担当者	鈴木 孝	
講義目的、講義概要		授業計画			
【授業の到達目標及歴史認識と歴史教育をあるの理念をまた、世界史A・大法、教材研究の工芸としてのスキルアが【授業の概要】授業は講義方式で行例を提示する。15回	なびテーマ】 ずの関連について考察し、さらに世界史 を獲得する。 世界史Bの授業実践のための留意点や手 たなど、授業担当者 っプをはかる。 行うが、毎回パワーポイントを用いて事 回の授業のなかで なトを含む)を行い、まとめとしてレポ	第1回: 歷史教育第2回: 是要教育第4回: 是要教育第4回: 是要教育第6回: 是要教育第6回: 是要教育第6回: 是要教界界界界界界界界界界界界界界界界,第10回回: 是世世界界第11回回: 是世界界第14回: 授業第14回: 授業第	情に は は は は は は は に な な な な な な な な な な な を を を を を を を を を を を を を	界史必修化の意義 世界史教育	
テキスト、参考文南	*	評価方法			
【テキスト】文部和理歴史編』	*			)や最終レポート、定期試験。	

講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅱ		担当者	秋本 弘章
について考察すると 能の育成を目指す。 【授業の概要】 本講義では、日本	なびテーマ】 る地理教育の目的、内容、方法、課題等 とともに、授業実践上基礎的な知識・技 本の地理教育史、各国の地理教育の現状 みにつけさせるべき見方・考え方・技能	第7回:地図・ 15日 第8回:野外観 第9回:野外観 第10回:野外観 第12回:地誌 第13回:地誌 第14回:主題 第14回:エネ	也理想 地理地要方球球 ・の理理学学学ギー を育めたえ扱扱 のでではいいでする。 をおりますができますができません。 では、できますができますができますができますができますができますができますができますが	み について 方(1) 地球儀と地図 方(2) 世界地図の特徴と
テキスト、参考文献 【テキスト】文部和理歴史編』 【参考文献】授業時	斗学省『高等学校学習指導要領解説 地	<b>評価方法</b> 授業時に出され する。	る小課題(レズ	ポート)等を含め総合的に評価

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅲ		担当者	會田 康範
講義目的、講義概要	문	授業計画		
え、教職を志す学生 主体的に考え、それ を体験的に学習する 【授業の概要】 歴史教育の「場」が ってみてほしい。る さまざまな要素とそ 育(とりわけ日本男	育の歴史的関係や今日的な課題を踏ま 主自身がこれからの歴史教育の在り方を れに基づき、独自に実践的な授業づくり	第2回:歴学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学	のこ史歴歴領要領度例を例に例単事連事教案成案画的・習教育教教の教歴史の研取研よ研元例携例材のとのと問じの書遷書という。 のこれの表問①②書遷書という。 のこのでは、一般・放射・放射・放射・放射・放射・放射・放射・放射・放射・放射・放射・放射・放射・	方法・教材のあり方― こと② 解決学習の特徴・課題― 近代の歴史研究と歴史教育の関係― 現代の歴史研究と歴史教育― しての歴史研究と歴史教育― との 特色と画期― と② と教科書の特徴― と業実践の事例研究― 通史学習の授業実践事例研究― 歴史学習の授業実践事例研究― 歴史学習の授業実践事例研究― 歴史学習の授業実践事例研究― と世業実践事例研究―
テキスト、参考文献	<b></b>	評価方法		
に応じて配布する。 解説は各自が用意す	テキストは使用せず、資料プリントを必要 高等学校の学習指導要領と地理・歴史科の ること。 学習指導要領、高等学校学習指導要領	評価する。		ト、定期試験などを総合的にトを課すこともある。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

03 年度以降	公民科教育法 I		担当者	及川 良一
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
【授業の到達目標及	をびテーマ】	第1回:ガイダ	ンス・心構え	等
社会科教育・公臣	R科教育の歴史を踏まえ、中学校社会科	第2回:公民科	<ul><li>社会科につ</li></ul>	いて
公民分野及び高等等	学校公民科及び各科目について、学習指	第3回:社会科	• 公民科教育	の戦後の流れ
導要領に基づき理解	解を深めるとともに、実践的な年間指導	第4回:学習指導	尊要領に見る	中学校公民科の目標と内容
計画作成や教材研究	で、指導方法の工夫に向けた基礎的な理	第5回:学習指導	尊要領に見る	高等学校公民科の目標と内容
解を深める。		第6回:教材研究の方法(その1)教材の収集		
		第7回: 教材研究の方法(その2) 教材の加工		
【授業の概要】		第8回:指導方法の工夫 指導計画・指導案の作成		
前半は講義中心。	後半は公民分野、公民科各科目の学習	(その1)年間計画・単元計画		
指導事例について格	食討を加え、更に模擬授業を行って、具	第9回:指導方法の工夫 指導計画・指導案の作成		
体的なテーマに沿っ	った展開例、指導方法の工夫のあり方に	(その2) 時間計画		
ついて実践的に検討	する。	第10回:中学「公民」学習指導事例研究		
		第11回:高校「政治・経済」学習指導事例研究		
		第12回:高校「倫理」学習指導事例研究		
		第13回:模擬授業(中学「公民」)		
		第14回:模擬	受業(高等学	校「政治・経済」、「倫理」)
		第15回:講義のまとめ		
テキスト、参考文南	₿	評価方法		

レポートなどの提出物、定期試験等で総合的に評価する。

【テキスト】『高等学校学習指導要領解説』(中学校社会・

高等学校公民) 【参考文献】特になし

03 年度以降	公民科教育法Ⅱ		担当者	及川(良一
講義目的、講義概要	5	授業計画		
指導法について模様 目の目標を踏まえ、 の仕方、教材研究、 に評価のあり方にな 【授業の概要】 前半は講義中心。 指導事例について板	及び高等学校公民科各科目の基本的な 経授業を通して学ぶ。特に、分野・各科 その目標達成のための指導計画の作成 指導法の工夫などを実践的に学び、更 かても理解を深める。 後半は公民分野、公民科各科目の学習 会討を加え、更に模擬授業を行って、具 かた展開例、指導方法の工夫のあり方に	第1回: 第2回 第3 第 第 第 第 第 9 回 :	教員との確認 尊書 から の 業業 受受 要 まいの で の で の で の で の で の で の で の で の で の で	全 圣済(政治分野) 圣済(経済分野)
テキスト、参考文献	it the state of	評価方法		
【テキスト】『高等 高等学校公民科) 【参考文献】特にな	学校学習指導要領解説』(中学校社会・ よし	レポートなどの	提出物、定期	試験等で総合的に評価する。

03 年度以降	情報科教育法 I		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要	<del>-</del>	授業計画		
等について考察する 識・技能の育成を必 情報科教育法Iで 習指導要領にもとっ 育方法を考える。情 に学校におけるコン	しての情報科の目的、内容、方法、課題 るとともに、情報科教員として必要な知 めざす。 では、情報科成立の背景から始めて、学 づき情報科の内容を検討し、効果的な教 情報機器の利用方法を身につけると同時 レピュータ室の情報教室、学校全体の情 ルトワーク管理の基礎的な技能の育成も	5 専門教科「信 6 専門教科「信 7 学校における 8 情報科教材研 9 情報科教材研 10 情報科教材研	では、	画教科「情報」 画教科「情報」 画教科「情報」 画教科「情報」 画教科「情報」 明教科「情報」
テキスト、参考文献	<b>#</b>	評価方法		
文部科学省『高等学	学校学習指導要領解説情報編』 ほか	授業参加度を重 ト)等も重要な評		き時に出される小課題(レポー う。

03 年度以降	情報科教育法Ⅱ		担当者	秋本	弘章
講義目的、講義概要	문	授業計画			
等について考察する 識・技能の育成をも 情報科教育法IIで 作成、先進校授業を	では、年間学習指導計画・学習指導案の 学観、模擬授業を予定している。 業参観については、参観先の都合等によ	1 普通教科「情 2 専門教科「情 3 「情報」学習 4 「情報」学習 5 「情報」学習 6 学習指導導案の 7 学習指導業(1 10 模擬授授業(1 10 模擬授業(3 12 模擬授業(4 13 模擬授業(6 14 模擬教育	語報」の各科 指導の実際 指導の実際 指導の実際 か作成 か作成 ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) )	目の配置と年間 (授業見学) (授業見学)	
テキスト、参考文献	<del></del>	評価方法			
文部科学省『高等等	学校学習指導要領解説情報編』ほか	授業参加度を重ト)等も重要な評			小課題(レポー

03 年度以降 13 年度以降	教科教育法特論 I (社会) 教科教育法特論 I (国際環境経済学科	用)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要	· 要	授業計画		
らに発展させるためながら、中学校の教 及び各教科の指導する。 【授業の概要】 本講では、中学校における教科教育の関係、学力と評価することによって、うえで、今日の教利連づけるために、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは	•	第2回: クロス 第3回: 単元の 第4回: 単元の 第5回: 単元の 第6回: 単元の 第7回: 単元の 第8回: 単元の 第9回: 学習指 第10回: 学習指 第11回: 学習 第12回: 学習	・テトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトト	マ設定の理由、目標を考える える:導入 える:展開前半の内容 える:展開中盤の内容 える:展開後半の内容 える:展開後半の内容 える:まとめ、評価基準 導入の指導計画 :展開前半の指導計画 :展開中盤の指導計画 :展開後半の指導計画 :まとめの指導計画 :まとめの指導計画 :まとめの指導計画
習指導案を作成する		評価方法		
【テキスト】特にな 【参考文献】文部科			舌動内容、レ	ポートによる総合評価

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
	== /= >+		
テキスト、参考文献	評価方法		

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員
て理解する解とです。 ここの では できまた できまた できまた できまた できまれ 学で できる できる できる できる できる できる できる できる できる でき	及びテーマ】 念・日本における道徳教育の変遷に関し 道徳教育の方法について、さまざまなーマ、学級の実態に応じた適切な手法をきる。 等にのっとり、指定された副読本教材をを作成し、模擬授業を実施することがでこのっとり、指定されたテーマに基づい民し、指導案を作成することができる。 関する理論編、②指導案作成、③模擬授いる。①では、主に講義中心とし、②はいた教材をもとに、指導を受けつつ善を行成した指導案をもとに数人が実際に対して改善を行成した指導案をもとに数人が実際に対して、計算を通じて課題の析出を行う。 以外の)教材を選定し、それに基づいた	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	でのでのです。 でのでのでする。 でのででする。 でのででする。 でででする。 ででできるでする。 でできるでする。 でできるでする。 でできるでする。 でできるでする。 でできるできる。 でできるできる。 でできるできる。 でできるできる。 でできるできる。 でできるできる。 でできるできる。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのでできるできる。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのででする。 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいなでいるでは、 でいなでいるでは、 でいるでは、 でいなでは、 でいるでは、	道徳は教えられるか― ア選択 -スト ) 指導案作成の手順 (2) 生徒の現状とテーマ選択
テキスト、参考文献 【テキスト】指定し 【参考文献】学習打	# *	指定テーマによる	指導案(30	(材による指導案(30点満点)、 点満点)と、発言、コメントシ 性(10点程度)を加味して総

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	安	授業計画		
	のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	<del>t</del>	評価方法		

12 年度以前 13 年度以降	特別活動 特別活動論(12 年度以前の総政及び交	文を含む。)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	5	授業計画		
【授業の到達目標及本講義は、特別活動の在り方や動特質や本質を踏まりとする。 【授業の概要】 特別活動の教育的内容、指導計画の代	•	第1回: 才リエ、第2回: 特別活動第3回: 特別活動第4回: 特別活動第5回: 特別活動第6回: 生徒会》第9回: 生徒会》第9回: 学級活動第10回: 学級活動第11回: 学校初第12回: 学校初第13回: 学校初第43回: 学校初期43回: 学校初和43回: 学校初43回:	動と動物のの意動のの意識を表すで表している。 おりのの のの のの でいる いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	遷 標 導 内容 画 容 1 (指導計画作成の基礎・基 画 2 (指導計画の作成) 業 内容 画 1 (指導計画作成の基礎・
		第14回:学校行事の指導計画2(指導計画の作成) 第15回:学校行事の指導計画3(指導計画の評価)		
テキスト、参考文献	<u> </u>	評価方法		
桑原憲一他編 日本 中学校学習指導要領	り指導力をはぐくむ『特別活動指導法』 文教出版 解説、高等学校学習指導要領解説 容に応じて適宜紹介	指導案、試験に。	より総合的に 	評価する。

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	공	授業計画		
(半期完結科目 <i>0</i>	Dため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	<b></b>	評価方法		

03年度以降	教育方法学		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<b>E</b>	授業計画		
【授業の到達目標及	<b>みびテーマ</b> 】	第1回:プロロ	ーグ:概要説	明
本講義は教育職の	つ重要性を再検討し、学校教師の役割と	第2回:コミュ	ニケーション	と教育・学習
機能を確認する。	また、各自の教育方法に関する基礎を養	第3回:教師の	役割	
成するものである。		第4回:授業を	問いかける	
		第5回:視聴覚	メディア	
【授業の概要】		第6回:ビデオ	教材による教	育現場
人間の一生は、日常	常の様々な直接経験、本、雑誌、TV、	第7回:校外專	門家による授	業
インターネットなど	どのメディアを利用した間接経験、そし	第8回:グループ討論		
て言語による理性的	り・感性的経験を通しての成長過程であ	第9回:授業設計		
る。言い換えれば、	人間は成熟するまでに非常に長い年月	第10回:測定とは?		
を必要とし、その過	B程にあっては多くの他者との関わりあ	第11回:評価とは?		
いが不可欠である。	「蛙の子は蛙」という故事は、人間の	第12回:教育方法のイメージ		
成長過程とは非なる	るものを的確に言い表している。そこに	第13回:ある高等学校の教育実践ビデオ		
は、子どもは他者と	この様々な相互作用(異なった対応の仕	第14回: 教材研究の意義		
方など)を通して、	一人前の人間になっていくというとら	第15回:エピローグ:まとめ		
え方がある。教育職	識は子どもの成長過程に「意図的」に参			
画する重要な媒介者である。				
テキスト、参考文献		評価方法		
文部科学省『中学校学習 領』『同解説 総則編』	著(2010)『改訂 視聴覚メディアと教育』樹村房 指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要 992)『魂にうったえる授業』NHKブックス	個人レポート、会合的に評価する。		ート、定期試験等をもとに総

03 年度以降	教育方法学		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	문	授業計画		
	こめ、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	忧	評価方法		

03 年度以降	生徒指導法		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	講義目的、講義概要			
深め、さらに教育派について理解を深め について理解を深め 【授業の概要】 前半は講義中心、後	的意義と具体的な方法について理解を 活動における生徒指導の基本的なあり方 か実践的な指導力を身につける。 後半は事例研究を中心に行う。事例研究 行い、具体的な生徒指導のあり方につい	第1回: 才 第2回: 才 第3回: 字 第4回: 字 第6回: 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生	算お学算算算の では習のとと・・(第でののででででででででででででででででででででででででででででででででで	際 導組織と指導体制 生徒理解 教育相談 との連携 教育と生徒指導 ) 導) 題) ・中途退学問題) 喫煙・盗み)
テキスト、参考文献	テキスト、参考文献			
【テキスト】文部和 【参考文献】特にか	科学省『生徒指導提要』(教育図書) なし	レポートなどの打	是出物、定期	試験等で総合的に評価する。

03 年度以降	生徒指導法		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	要	授業計画		
	ため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	就	評価方法		

03年度以降	学校カウンセリング		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<b>E</b>	授業計画		
え、学校現場で生し リングがどのように 校カウンセリングに まらず、学校現場で	及びテーマ】 ウンセリングの基本的な理論や技法に加 こる問題の解決のために実際にカウンセ こ用いられているのかについて扱う。学 こ関する「知識」を習得することにとど で起こりうる様々な問題への対処につい 考える力」を身につけることをこの講義	第4回:学校カウ 第5回:学校カウ ーカウン 第6回:予防的カ ー構成的 第7回:予防的カ	「う学校カウロンヤリングの 「中心療法となった」 「中心療法となった」 「マー・ファングのは、 「マー・ファンセリングのは、 「マー・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン	マセリングの特徴 の理論① コウンセリングマインド の理論②ーその他の理論 の理論③ 体験 で① ンカウンター で②
るカウンセリング る。さらに、実習 <sup>8</sup> 不登校など学校現場	員が学校で生徒と接する際に必要とされの基本的な理論や技法について講義す やグループワークなどを通じ、いじめ、 場で実際に起こっている問題について、 、さか、実際に受講生が考える機会を設	第11回:学校太 第12回:学校太 発達障 第13回:学校太 精神障 第14回:学校太	・シセリングの ・ウンセリンク ・ウンセリンク を害の理解と支 ・ウンセリンク できの理解と支	)実際①: いじめ 「の実際②: 不登校・ひきこもり 「の実際③: 非行 「の実際④: 支援 「の実際⑤:
テキスト、参考文献	 状	評価方法		
【テキスト】特にた 【参考文献】特にた	なし。 なし。講義内で適宜、紹介する。	/ = // /		iするが、平常授業における課 評価対象とする。

03 年度以降	学校カウンセリング		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	要	授業計画		
	ため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	就	評価方法		

12 年度以前       教育実習論(事前・事後指導)         13 年度以降       教育実習指導		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	· 要	授業計画		
	Dため、講義目的等は秋学期と同じ)			
テキスト、参考文献	状	評価方法		

12 年度以前 13 年度以降	教育実習論(事前・事後指導) 教育実習指導		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<b>E</b>	授業計画		
【授業の到達目標及び	ドテーマ】	第1回:教育実	習とは何か	
教育実習事前·事後指	導	第2回:教育実	習の概要	
本講は、教育実習の意	意義や目的、その概要を理解するとともに、	第3回:学校の網	組織と教師の	職務
学習指導案の作成、基	基礎的な指導技術の習得、模擬授業(事前指	第4回:授業研究	究(1)外国語	
導)、及び、教育実習の	の反省・フォローアップ (事後指導) を行い、	第5回:授業研	究(2)社会・地	歴・公民
教師としての資質・能	も から とっと とり とう とう とり とう とう とり とう とう とり	第6回:授業研究	究(3)授業のス	キル
		第7回:授業研究	究(4)授業の評	価
【授業の概要】		第8回: 学習指導案の書き方		
教育実習は、これまで	大学の教職課程で学んできたことの成果を、	第9回: 学習指導案の作成		
実習校での学校運営に	こ教育実習生として直接参加することによっ	第10回:模擬授業(1)外国語		
て、具体的に実証する	る機会である。本講では、教育実習に参加す	第11回:模擬授業(2)社会・地歴・公民		
ることの意義や目的、	実習期間中の学校生活の概要を理解すると	第12回:教育実習期間中の諸注意		
ともに、学習指導案の	の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業	第13回:教育実習を振り返る(1)学習指導		
等を体験することによ	より、実習における学習のポイントを明確に	第14回:教育実習を振り返る(2)生徒指導		
する (事前指導)。また	た、教育実習の反省を行うとともに、教育実	第15回:教育実習を振り返る(3)学級経営		
習の体験に基づいて、	教職に向けての各自の学習課題を整理する			
(事後指導)。				
テキスト、参考文献		評価方法		
【テキスト】獨協大学『教育実習の指針』		授業課題、試験は	こよる総合評	価
	斗学省『中学校学習指導要領』『高等学 その他は、講義の中で紹介する。			
1人十日1日等女阴』。	て7月四74、 神我77年(7月月 9 分。			

12年度以前

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導) 教職実践演習(中・高)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	要	授業計画		
テキスト、参考文献	tt en	評価方法		

### 【到達目標及びテーマ】

教職課程の総仕上げとして、個々の授業において習得してきた知識技能を元に、教員としての使命感や教育的愛情、授業力等の資質が身についているかどうか確認し、今後の教員としての成長発達につなげる契機とする。また、方法としてディスカッションを多用することで対人能力の確認も含んでいる。

また、これから教員として成長していくために必要な課題を自身で設定し、解決の糸口を探る小論文を作成することで今後の自身の教員としての成長を考える。

#### 【授業の概要】

主に①これまでの教職課程で習得してきた内容と教育実習を振り返り、【教員としての使命感・教育的愛情】、②現在学校が抱えている課題とそれへの対応を、現職教員からの講義やロールプレイ、討論を通してより具体的に考察し、【生徒理解】、③模擬授業を通してよりよい授業力を身につけると同時に授業力向上への方途を探究する。また、授業の多くがグループでのディスカッションや作業の形態をとり、それを通して教員として必須な「他の人と話し合い、協力しあう」という対人関係能力の確認、向上も同時に目指していく。

# テキスト、参考文献

『教育実習の指針』(獨協大学)

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』

### 授業計画

第1回 教育実習の振り返り①生徒指導・生徒理解編

(グループでのディスカッション小論文)【使命感】

第2回 教育実習の振り返り②授業編

(グループでのディスカッション・学習指導案を再検討)【授業力】

第3回 履修カルテの記入・確認&私に必要なスキルとは? (各自で課題を設定)

第4回 実習校でのフィールドワーク

第5回 生徒理解① (現職中・高教員による講義・小論文) 【生徒理解】

第6回 生徒理解②(グループディスカッション・小論文) 【生徒理解】

第7回 実習中経験した課題への対応

(グループディスカッション・小論文)【生徒理解】

第8回 すぐれた授業とは何か

(グループディスカッション・小論文)【授業力】 第9回 学習指導案を作成する

(各自→教科担当教員の指導)【授業力】

第10回 学習指導案を検討する

(グループディスカッション)【授業力】

第11回 模擬授業① 第12回 模擬授業②

第13回 模擬授業③

第14回 模擬授業④

第15回 まとめ――設定した課題は達成できたか(小論文) 【使命感】

### 評価方法

ディスカッションや作業などへの積極的な参加、発言など 授業への貢献、学習指導案、レポートなどの提出物、模擬 授業等を総合的に判断する。

03 年度以降	学校経営と学校図書館		担当者	井上 靖代	
講義目的、講義概要	<del>e</del>	授業計画			
(授業の到達目標及	みびテーマ)	(1) 学校図書館の	)理念と教育的	的意義	
学校図書館司書教	数論は学校図書館長として、資料管理・	(2) 学校図書館 Œ	発展と課題		
情報管理や人事管	理など経営者としての役割と仕事が求	(3) 教育行政と学	<b>栏校図書館</b>		
められる。学校図書	書館を活用し、総合的な学習など創造的	(4) 学校図書館の	)経営①施設?	管理	
な授業を構築する教	<b>数員集団の援助活動も求められている。</b>	(5) 学校図書館 Œ	)経営②資料	管理	
この科目では、これ	1らの役割について、内容を把握し、そ	(6) 学校図書館の	経営③人事	管理	
の使命を認識し教	育現場で実施できるようになることを	(7) 学校図書館の経営④財政管理、評価等			
学習目的とする。		(8) 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修			
		(9) 学校図書館メディアの選択と管理			
(授業の概要)		(10)学校図書館メディアの提供と活用			
学校図書館は資料	斗センターとしての機能だけでなく、学	(11)学校図書館活動と教育活動			
校教育を基礎とし	て生涯にわたっての自律的な学びの場	(12)調べ学習や「総合的な学習」と学校図書館			
として学習センター	- としての機能がある。さらに視聴覚資	(13)図書館の相互協力とネットワーク			
料センター、情報さ	マンター、教材開発センター、マルチメ	(14)学校図書館運営計画の策定			
ディア・センターな	など多様な面をもっている。学校教育に	(15)まとめ			
不可欠と法的に位	置づけられている学校図書館の役割と				
意義について講義で	ける。				
テキスト、参考文献		評価方法			
最初の授業時に参え	号文献リストを配布する。	期末試験(80%) 無断欠席が 1/3	III > 41010 C (C 4	=/	

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		
	l		

03 年度以降	学校図書館メディアの構成		担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要	5	授業計画		
(授業の到達目標)		(1) 図書館での資	資料整理の目的	的と意義

学校図書館メディア・センターでの資料管理についての 以下の分野で講義・実習。

- (1)資料選択。どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。
- (2)資料組織化の実習および運用。学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。

#### (授業の概要)

資料選択力を身につける講義及び演習を実施するほか、 資料組織化に関する分野で、実習中心で、学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それ をどのように分類・目録化し、データベース化するのかの 基本を学ぶ。

※あらかじめExcelについて学んでおいてください。

- (2) 学校図書館メディア資料の種類と特性
- (3) 資料選択の理論、子どもたちの知的自由
- (4) 資料選択の実際
- (5) 日本十進分類法 (NDC) の構造
- (6) 分類演習①-主題同定作業⇒情報検索語の特定
- (7) 分類演習②-一般補助表の活用-
- (8) 分類演習③-学習に応じた分類-
- (9) 分類演習④ 9版と10版の違いを確認する
- (10)日本目録規則 (NCR) の構造
- (11)目録演習① 図書①
- (12)目録演習② 図書②
- (13)目録演習③ 図書以外の資料
- (14)資料管理演習①
- (15)資料管理演習②、まとめの演習テスト

#### テキスト、参考文献

(テキスト)日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類 増 訂第 4 版』2008 年 (参考資料)『日本十進分類法 新訂 10 版』日本図書館協会、2015 年

#### 評価方法

演習課題(60%)、情報 DB 作成演習課題(20%)、最終演習テスト(20%)

出席は毎回の課題でカウントする。

03 年度以降 学習指導と学校図書館 担当者 井上 靖代

### 講義目的、講義概要

#### (授業の到達目標及びテーマ)

学習指導における学校図書館のメディア活用についての理解を図る。また、学習指導要領の改訂による「総合的な学習」で、学校図書館の活用が明記されており、その内容にそって、児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する講義内容とする。

#### (授業の概要)

教科指導のなかで、あるいは「総合的な学習」で、学校 図書館と図書館資料、情報メディアを活用して、どのよう な指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児 童・生徒たちにしらべてもらうために、教師自身が情報探 索能力をみにつけておくことが求められるので、情報探索 活動能力(情報リテラシー)養成を目標とする。グループ での討論を基本に、指導計画作成・発表をおこなう。

### 授業計画

- (1) 導入;情報探索・情報探求とは?課題解決型学習と学 校図書館
- (2) 学校図書館情報メディア活用能力の育成
- (3) 学習過程における学校図書館メディア活用の実際
- (4) 情報探索能力育成 レファレンスと調べ学習
- (5) 情報探索能力育成/レファレンスツール利用指導
- (6) 情報探索能力育成/インターネット利用指導
- (7) 情報探索演習ープレゼンテーションー
- (8) 情報探索能力育成のための教育課程
- (9) 各教科(社会や英語など)で学校図書館メディア・センターを 利用する教育指導案作成
- (10)「総合的な学習」で学校図書館メディア・センターを利用する 教育指導案作成
- (11)特別活動などでの学校図書館メディア・センター利用の活動企画
- (12)学校図書館メディア・センター管理運営年間計画策定
- (13)教師集団との協働
- (14)PTA/PTO や地域社会との協働
- (15)教育指導の実際-各受講者の発表・報告-

### テキスト、参考文献

授業で資料を配布するほか、参考資料として宅間紘一著 『学校図書館を活用する学び方の指導: 課題設定から発 表まで』全国学校図書館協議会、2005 ほか。

### 評価方法

個人提出課題(40%)、チームでの報告と発表(60%) チームワークが多くなるので授業に参加することを求める。

			担当者	
講義目的、講義概要	5	授業計画		
テキスト、参考文献	t e	評価方法		

| 03 年度以降 | 読書と豊かな人間性 | 担当者 | 井上 靖代 |

### 講義目的、講義概要

#### (授業の到達目標及びテーマ)

読む・書くという意味での読書をいかに子どもたちに楽しみながら、自分の言葉で自分自身を表現できるようにするかを実際に子どもの本を読みながら、授業として構築していく。講義と実習を組み合わせて実施する。この科目の目標は、各受講者が「読む」(リーディング)と「書く」(リテラシー)という読書力養成を目的とする授業を構築し、学習者に教授できるようになることにある。「読む」「書く」ことを伝える授業案が作成できるようになることを第一段階とする。その基本として司書教諭となる受講者が「読書」していることが出発点となる。

#### (授業の概要)

大量に読むことではなく、どのように読み解くかを授業で学ぶ。また、どのように伝えていくかを学ぶ。 言語教育・リテラシー学習の基本の一つである子どもの読書を推進するため、学校教育のなかで言語教育担当教員のみならず、すべての教員の調整役=コーディネーターとしての学校図書館司書教諭は重要な役割を担っている。この科目ではその役割をはたすため、どのような読書資料があるのか、そしてその読書資料をどのように言語教育やリテラシー教育に活用するのかを学び、かつ学校内外での調整役としての役割と責任を学習する。

### テキスト、参考文献

テキストは指定しないが、授業で資料を配布する。※絵本や児童書・YA向けの読物などを多量に読んでもらうことになる。

### 授業計画

- (1) 子どもの読書状況
- (2) 読む・書くという識字力・読書力について考える
- (3) 子どもの発達心理・読書心理、読書傾向と知的好奇心
- (4) 読書資料としての絵本
- (5) 読書資料としての児童文学・ティーンズ向け文学
- (6) 読書資料としてのノンフィクション
- (7) 読書指導のためのプログラム検討
- (8) 「読みて」から「書きて」育成のための教案作成
- (9) 地域社会や公共図書館との連携による読書振興
- (10)子どもの読書をめぐる法政策
- (11)子どもの読書と知的自由
- (12)読者育成のための実践演習①議論のある本を読んでみる
- (13)読者育成のための実践演習②ブックトークをしてみよう
- (14)読者育成のための実践演習③
- (15)読者育成のための実践演習④

### 評価方法

授業でのプレゼンテーション(30%)、課題(30%)、テスト(40%) 無断欠席が1/3以上は受講放棄とみなす。

			担当者	
講義目的、講義概要	5	授業計画		
テキスト、参考文南	4	評価方法		
ナイベド、参与文制		<b>叶巡刀</b> 冱		

03 年度以降	情報メディアの活用	担当者	福田 求
---------	-----------	-----	------

【目的】インターネット、そしてその上で展開されたさまざまなサービス(メールやウェブ、あるいは昨今の SNS など)によって、大量かつ多様な情報がやりとりされたり蓄積されたりしてきた。電子的な通信メディアや記録メディアによって世界中の人々がコミュニケーションを行っているのである。しかし、情報を媒介するものは電子的なものに限らない。たとえば従来の図書や雑誌といった印刷メディアは簡単に思いつくことができるが、そのほかにどのようなメディアが存在するのだろうか。この授業では情報の「乗り物」であるメディアの体系を理解することを目的とする。また、情報の発信、収集、交換といったメディアの利活用についても関連するトピック(学校教育/図書館など)とともに学習する。

【概要】はじめに、現在までのメディアの発達と変化について検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。また、メディアの分類およびそれぞれの特性について学習し、目的や状況(例:学校教育/図書館)に応じてどのようなメディアを選択すべきかを考察する。次に、情報の発信、収集、交換という3つの情報利用行動をとりあげ、それぞれの具体的なあり方を実際のメディアを用いた演習を通して理解する。そして、メディアの取り扱いについて注意すべき点を、有害性/安全性や著作権との関わりから議論し、最後に授業全体のまとめを行う。

### 授業計画

- 1. 講義の概要
- 2. メディアの種類; 高度情報社会; 学校教育
- 3. メディアとコンピュータネットワーク
- 4. メディアによる情報の発信(1)ウェブの標準技術(HTTP、URI、HTML)を例として
- 5. メディアによる情報の発信(2)ハイパーテキスト再考
- 6. メディアによる情報の交換:コミュニケーションの場としてのインターネット
- 7. 前半のまとめ:メディアを利用した情報の発信と交換、 質疑応答
- 8. データベースと情報検索 (1):情報収集の例として
- 9. データベースと情報検索(2): 簡単な検索式の作成
- 10. インターネットにおける情報の検索
- 11. 獨協大学図書館を通じて利用できる多様なデータベース; 教育/学習への応用
- 12. 情報検索以外の情報収集: SNS、RSS など
- 13. 取り扱いに注意すべき情報:有害情報、個人情報
- 14. メディアと著作権(学校教育関連事項を含む)
- 15. まとめ:これからのメディアの利活用:質疑応答

### テキスト、参考文献

適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。

# 評価方法

期末レポート (50%)。平常授業における課題レポートなど の実績 (50%)。

			担当者	
講義目的、講義概要	<del></del>	授業計画		
テキスト、参考文献	<b>†</b>	評価方法		

11 年度以前 12 年度以降	生涯学習概論 生涯学習概論	担当者	阪本 陽子
--------------------	------------------	-----	-------

私たちは、その成長・発達に応じて、人間として学ぶべき課題を持っています。また、少子高齢化、都市化、国際化など、社会の様々な変化に対応した学習が絶えず求められています。生涯学習は、私たちの教育や学習に対する考え方を大きく転換させ、現代社会のなかで重要な意味を持っています。

本講義では、生涯学習に関する基本的な考え方を学ぶと ともに、生涯学習社会における家庭教育、学校教育、社会 教育の在り方や、現代社会と生涯学習の関わりについて考 えます。

受講生の人数にもよりますが、講義形式だけでなく、 様々な学習方法を体験する演習を取り込みながら進めて いきます。

### 授業計画

- ガイダンス
   人間の形成・発達と学習
- 3. 社会の変化と学習
- 4. 生涯学習の理念とその背景
- 5. 生涯学習の学習論
- 6. 生涯学習と家庭教育
- 7. 生涯学習と学校教育
- 8. 生涯学習と社会教育
- 9. さまざまな学習方法を体験する① (演習)
- 10. さまざまな学習方法を体験する② (演習)
- 11. さまざまな学習方法を体験する③ (演習)
- 12. 学習形態・技法と学習支援者の役割
- 13. 生涯学習施設の機能と役割
- 14. 生涯学習行政の現状と課題
- 15. まとめ

# テキスト、参考文献

テキストは使用しません。レジュメ等、資料を配布して授業を進めます。ガイダンスで全体に関わる参考文献を紹介する他、授業中にそれぞれのテーマの参考文献を紹介します。

### 評価方法

7割以上の出席を学期末レポートの提出資格とします。 講義中の課題、参加態度、学年末レポートを総合的に評価 します。

03 年度以降	   介護ボランティアの理論と実践 		担当者	山口	友佑
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画			
本講義は教職課程の「介護等体験」履修時など、「介護」を必要とする方と接する際に求められる知識や援助について、基本的な理解を深めることを目的としています。そこで、介護について高齢者福祉分野を中心に各分野の福祉について概観したのち、ボランティア全般について、さらには介護現場や地域におけるボランティア実践について学びを進めていきます。 講義ではVTR などを通して、具体的な理解を深めていきます。まず、介護の概念と歴史、高齢者福祉にかかわる制度政策、介護の現場と介護技術について学びます。次に、ボランティアの概念、日本でのボランティア活動の展開、介護分野や地域におけるボランタリーな実践について学び		<ol> <li>オリエンテーション</li> <li>介護の歴史と定義</li> <li>介護の現場―高齢者分野</li> <li>介護の現場―障害者分野</li> <li>社会福祉関係法令に見る介護</li> <li>介護保険制度について</li> <li>生活を支えるための介護技術</li> <li>認知症の理解と対応</li> <li>ボランタリーな活動の展開とその定義</li> <li>多様なボランティア活動の実際</li> <li>介護現場でのボランティア</li> <li>ボランティア活動における留意点</li> <li>地域で暮らす人の生活を支える</li> </ol>			
たちのできること、 えます。 テキスト、参考文献	と としません。 講義中に 適宜、コピーの配	14. 介護にかから 15. まとめ <b>評価方法</b> 平常点 (50%、授 及び、期末試験 す。	おおいま おおいま ままれ ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ま	題 トレポートの提	

03 年度以降	介護ボランティアの理論と実践		担当者	μп	友佑
講義目的、講義概要	문	授業計画			
(半期完結科目⊄	Oため、講義目的等は春学期と同じ)				
テキスト、参考文献	<b>决</b>	評価方法			

03年度以降 日本史概説 I 担当者 會田 康範 講義目的、講義概要 授業計画 近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がよ 1. 授業の導入―日本とは?歴史とは?― り多角的、多面的に捉えなおされており、今日では一定の 2. 日本における歴史研究の歴史―史学史①― 成果を確認することができる。こうした研究状況をふま 3. 日本における歴史研究の歴史―史学史②― え, 前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史 4. 古代の社会--弥生のムラとクニ①--料にも着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにする 5. 古代の社会―弥生のムラとクニ②― ために重要と思われるテーマを講義していきたい。 6. 古代の社会―ワカタケル大王の時代①― 極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそ 7. 古代の社会―ワカタケル大王の時代②― って通史的に講義することは必要最低限にとどめるとと 8. 古代の社会―律令制の形成と展開― もに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があるこ 9. 中世の社会―絵図にみる百姓と武士の世界①― とも予め了承しておいていただきたい。 10. 中世の社会―絵図にみる百姓と武士の世界②― 高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授 11. 中世の社会―洛中洛外図を読み解く①― 業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろ 12. 中世の社会―洛中洛外図を読み解く②― 13. 中世の社会―洛中洛外図を読み解く③― 14. 中世から近世へ 15. 授業のまとめ―中世社会の特質― なお、授業計画は授業展開により変更されることもある。

03 年度以降	日本史概説Ⅱ	担当者	會田 康範
---------	--------	-----	-------

### 講義目的、講義概要

テキスト、参考文献

元にあれば参考になる。

日本史概説 I に続くこの講義では、近現代を素材としていく。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。

特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、

紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手

この講義を通じて,近・現代日本における国民国家形成 の過程とその展開について考えていきたい。

### 授業計画

評価方法

- 1. 海禁と華夷秩序の形成・展開
- 2. 日本型華夷秩序構築の可能性と展開

試験とともに出席状況なども含め総合的に評価する。

3. 「鎖国」論をめぐって①

許可なき途中退出などは厳禁。

- 4. 「鎖国」論をめぐって②
- 5. 近世の本草学と博物学①
- 6. 近世の本草学と博物学②
- 7. 近代の対外認識①
- 8. 近代の対外認識②
- 9. 国民国家論とは
- 10. 国民統合装置としての博覧会と博物館①
- 11. 国民統合装置としての博覧会と博物館②
- 12. 戦争の世紀とオリンピック・万博①
- 13. 戦争の世紀とオリンピック・万博②
- 14. 戦後社会の特質
- 15. 授業のまとめ

なお、授業計画は授業展開により変更されることもある。

### テキスト、参考文献

特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元にあれば参考になる。

### 評価方法

試験とともに出席状況なども含め総合的に評価する。 許可なき途中退出などは厳禁。

			担当者	
講義目的、講義概要	5	授業計画	·	
テキスト、参考文南	4	評価方法		
ナイベド、参与文制		<b>叶巡刀</b> 冱		

03年度以降	外国史概説 I	担当者	兼田信一郎
--------	---------	-----	-------

この講義では、はじめに現代中国の地理的特徴や近年の中国事情・社会問題を概観した後、新石器時代から唐滅亡までの歴史を、政治史的展開・周辺諸民族との関係・農村社会の展開の3つを軸に概観していきます。

中国社会の特質を考える際、特に農村社会に注目するのは、農村が前近代中国において多くの人々の生きる場であり、そこで形成される諸関係は中国社会を特徴づけていると考えられるからですが、さらに、現在において最も深刻な問題を抱えているのも農村であるからです。

本講義では、単に新石器時代から唐帝国滅亡までの政治 史的展開を概観するだけでなく、この時期の農村社会の成立と展開を見ることで、中国社会の特質にふれてもらうと 同時に、日本社会と対比しながら「異文化社会中国」どう 理解するか、ともに考えてみたいと思います。

なお、付論として、南宋の裁判史料『清明集』をもとに 中国の「訴訟社会」としての一面を取り上げます。また、 現在の中・高校での歴史教育がかかえている問題点を紹介 し、教育職を目指す場合、どのように歴史教育に取り組む ことが必要かも考えてみたいと思います。

### 授業計画

- 1. オリエンテーション
- 2. 現代中国概況 (地誌・現代中国社会の諸問題)
- 3. 中華文明の形成 (新石器時代~殷周時代)
- 4. 最初の社会変動と小農民の登場(春秋戦国時代)
- 5. 皇帝支配の成立・展開 (秦漢時代1)
- 6. 皇帝支配と郷里社会(秦漢時代2)
- 7. 統一政権の崩壊と社会変動(後漢~西晋時代)
- 8. 少数民族の侵入と長期分裂(東晋十六国南北朝時代)
- 9. 中国社会の再統一(隋時代)
- 10. 隋・唐と東アジア世界
- 11. 唐の盛衰1 (律令制と基層社会)
- 12. 唐の盛衰 2 (律令制の崩壊と基層社会)
- 13. 宋代社会の一面―裁判史料『清明集』を通してみた―
- 14. 歴史学研究と歴史教育の現在
- 15. 中国社会の特質(まとめ)

# テキスト、参考文献

堀敏一『中国通史』(講談社学術文庫、講談社、2000 年6月)と講義中に配布するプリント・資料を基本テキストとする。また、参考文献も講義中に紹介する。

### 評価方法

授業参加評価 (3割) と筆記試験 (7割) (語句記述、史料問題その他、持ち込み不可) の成績で評価を出す。

03年度以降	外国史概説Ⅱ		担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
宗教等の側面からまる。また、「和魂洋わが国際では、「和魂洋わが国際では、「和魂洋の日本をでは、一大ない。今日の日本をでは、一大ない。今日の一大ない。今日の一大ない。今日の一大ない。「大井の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の一大の	代化」過程の歴史を社会・文化・経済・ 資際し、その特質と功罪について検証す 才」の言葉が示すとおり明治維新以後、 没容し「血や肉」とした文物は計り知れ 社会においても大きな影響を与えている は何なのか?このことを宗教・政治・経 で考察してゆきたい。また、現代におけ 設割についても論じてみたい。 貴定しないが、下に掲げた参考文献中、 でほしい。 豊/山田史郎/杉本淑彦編 西洋史(近現代)』(ミネルヴァ書房) 藤専次/渋谷 聡/加藤克夫/小澤卓 上めの西洋史入門』(ミネルヴァ書房) を概論』(東京大学出版会) とが歴史と出会うとき』【新版】(名古屋	いて 8. 同上 9. 市民革命〜英 10. 同上 11. 産業革命〜拝 性について 12. 同上 13. 「近代化」と	歴史理論の変形 歴史理論の変形 歴念について 教改革に見る 近本 を主義と社会 は何だり割ったの は界再分割ったの	要(近代以降) る近代性と、インパクトにつ 共通性と異質性とは 会の諸矛盾、社会主義の必然 のか~その変質を考える 経済的矛盾の「武力による打
テキスト、参考文献	<b>#</b>	評価方法		
び、図録なども座れ	※照のこと。また、高校世界史教科書及 近に置くことが望ましい。なお高校レベ 目補っておいてもらいたい。	期末試験(記述7価するが、授業		持込不可)の結果によって評 考慮する。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

03年度以降 地理学概説 I 担当者 秋本 弘章 講義目的、講義概要 授業計画 自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から 1. オリエンテーション (講義の概要) 具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学 2. 地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識

校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環 境の見方を身につける。

本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から 分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、 関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った 人々の生活について説明する。

\*講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、 定規等指示された用具を準備すること。

\*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得の ための講義である。高等学校等において「地理」を履修し ていないものは、文部科学省検定済教科書(地理Bおよび 地図帳)を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要 に応じて持参する。)

- 3. 地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形
- 4. 地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む
- 5. 東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町
- 6. 東京・関東の地形的特色(2)台地
- 7. 東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地
- 8. 東京・関東の地形的特色(4)東京湾
- 9. 東京・関東の地形的特色(5)関東山地
- 10. 東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケ ール、気候と景観、観測とデータ
- 11. 東京・関東の気候的特色(2)山地の気候・平野の気候
- 12. 東京・関東の気候的特色(3)海岸の気候・内陸の気候
- 13. 東京・関東の気候的特色(4)都市気候と気候の変化
- 14. 東京・関東の自然災害と防災(1)
- 15. 東京・関東の自然災害と防災(2)

# テキスト、参考文献

テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。

### 評価方法

定期試験とレポート (小課題)

03年度以降 地理学概説Ⅱ 担当者 秋本 弘章

### 講義目的、講義概要

地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、 どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、 中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基 本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。

本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた 後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」 「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつ かのテーマを取り上げ理解の深化を図る。

\*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得の ための講義である。高等学校等において「地理」を履修し ていないものは、文部科学省検定済教科書(地理Bおよび 地図帳)を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要 に応じて持参する)

### 授業計画

- 1. 地理学の歴史(1)
- 2. 地理学の歴史(2)
- 3. 地理学の歴史 (3)
- 4. 地理学の主要概念(1)環境
- 5. 地理学の主要概念(2)景観
- 6. 地理学の主要概念(3)場所と立地(1)
- 7. 地理学の主要概念(4)場所と立地(2)
- 8. 地理学の主要概念(5)場所と立地(3)
- 9. 地理学の主要概念(6)地域と空間
- 10. 地理学の主要概念 (7) 伝播
- 11. 地理学のトピックス(1) メンタルマップ
- 12. 地理学のトピックス (2) 時間地理学
- 13. 地理学のトピックス (3) 地理情報システム (1)
- 14. 地理学のトピックス (4) 地理情報システム (2)
- 15. 地理学のトピックス (5) 教育と地理

# テキスト、参考文献

テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。

### 評価方法

定期試験とレポート (小課題)

03 年度以降 地誌学概説 I		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要	授業計画		
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な	1. オリエンテー	-ション―地記	志学とは
位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」	2. 「地域」の概	紀念	
と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌	3. 地域分析の基	基礎(1)文献	献・資料・統計の所在と検索
学的見方を身につけることを目的とする。	4. 地域分析の基	基礎 (2) 統計	計の利用
本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義し	5. 地域分析の基礎(3)統計の地図表現		
た後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用	6. 地域分析の基礎(4)空間分析		
法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、	7. 地域分析の基礎(5)地域構造		
日本地誌を扱う。	8. 日本地誌(1	)自然環境。	上風土
*講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授	9. 日本地誌 (2	2) 歷史的背景	景と地域文化
業中に指示された用具は各自用意すること。	10. 日本地誌(3)人口分布と人口構造		
*地図帳を持参すること。	11. 日本地誌(4	.) 産業と地場	或変容 (1)
*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得の	12. 日本地誌(5	5)産業と地域	或変容 (2)
ための講義である。高等学校等において「地理」を履修し	13. 日本地誌(6	5) 交通・通信	言と地域
ていないものは、文部科学省検定済教科書(地理Bおよび	14. 日本地誌(7	')都市の変物	容
地図帳)を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要	15. 日本地誌(8	3)地域構造。	と地域区分
に応じて持参する)			

03 年度以降	地誌学概説Ⅱ		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
特定の地域を対象	とする地誌学は、地理学の中で重要な	1. 世界認識の基	礎	

評価方法

試験とレポート (小課題)

位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観し 2. 世界の地域構造とその変容(1) 自然的基盤 たのち、北アメリカ(アメリカ合衆国およびカナダ)を事 3.世界の地域構造とその変容(2)文化圏 例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目 的とする。

テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。

\*地図帳を持参すること。

テキスト、参考文献

\*中学校「社会」高等学校「地理歴史」教員免許取得のた めの講義である。高等学校等において「地理」を履修して いないものは、文部科学省検定済教科書(地理Bおよび地 図帳)を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に 10.北アメリカ地誌 (5)産業と経済 (1)第1次産業 応じて持参する)

- 4. 世界の地域構造とその変容(3) 国家と経済
- 5. 北アメリカ地誌(1)アメリカの地域区分
- 6. 北アメリカ地誌(2)自然(1)地形
- 7. 北アメリカ地誌 (3) 自然 (2) 気候
- 8. 北アメリカ地誌 (3) 歴史的背景
- 9. 北アメリカ地誌(4)人口と社会
- 11. 北アメリカ地誌(6)産業と経済(2)第2次産業
- 12. 北アメリカ地誌 (7) 産業と経済 (3) 第3次産業
- 13. 北アメリカ地誌 (8) 産業と経済 (4) 地域構造
- 14. 北アメリカ地誌(9)都市と生活
- 15. 北アメリカ地誌 (10) 北アメリカと世界

### テキスト、参考文献

テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。

### 評価方法

試験とレポート (小課題)

03年度以降 法律学概説 I 担当者 大川 俊 授業計画 講義目的、講義概要 春学期の「法律学概説 I 」では、法律を大きく二つに分類し 1. ガイダンス た場合の公法と私法のうち、後者に焦点を当てます。私法と 2. 日常生活と契約(1) は、自由・対等な私人間(個人間だけでなく、企業間、あるいは 3. 日常生活と契約(2) 企業と個人間も含まれる)の法律関係を規律する法の総称で 4. 日常生活とアクシデント(1) す。本講はこれらの背後に存する基本的な考え方を理解する 5. 日常生活とアクシデント(2) ことを目的とします。 6. 雇用社会のルール(1) 買い物をすれば、取り立てて意識しなくとも、そこでは売買契 7. 雇用社会のルール(2) 約が成立するといったように、我々が日常生活を送る上では 8. 家族関係(1) 様々な形で法律が関わってきます。本講では、身の回りの法律 9. 家族関係(2) 関係から、現代の経済社会で主要な役割を果 たす企業を取り 10. 企業と法(1) 巻く法律関係などについて具体的事例を織り交ぜながら解説 11. 企業と法(2) します。 12. 企業と法(3) 13. 消費者の保護(1) 14. 消費者の保護(2) 15. まとめ

	NI de W Im av	I == \ \	1 -11-
03 年度以降	法律学概説Ⅱ	担当者	木滕 茂

# 講義目的、講義概要

テキスト、参考文献

ので、持参してください。

秋学期の「法律学概説Ⅱ」では、春学期の「法律学概説 Ⅰ」の理解を前提として、以下のような大きく2つの目的 を意識しつつ、日本における法と法学について、いくつか の角度から様々な素材をもとに概観を行います。

テキストとして、池田真朗ほか著『法の世界へ〔第 5 版〕』(有

斐閣、2012年)を指定します。小型の『六法』も適宜参照します

第1に、日本における法ないし法律をめぐる基本的な事柄・論点等の理解を通して、法学ないし法学を学ぶ意味、あるいは「論理的思考力」「法的思考力」「リーガルマインド」といった言葉の意味を、法学部生ではないみなさんにこそこの機会に実感してもらいたいと思います。

第2に、春学期では「私法」の分野の内容が主に取り上げられてきたことを前提に、秋学期では「公法」の分野におけるいくつかの重要な法制度や法的論点について基礎的な知識・理解を得ることを、内容面での課題とします。

なお、特に第1の点にも関係しますが、この講義では、 単なる知識の丸暗記ではなく自らの頭で理解しそれを基 に適切な概念を用いて自らの言葉で表現するという、高校 までとは違った"大学での学問"というものを意識し実践 してもらうことにも重点を置きますので、こうした趣旨を 十分に認識した上で講義に臨んでください。

この講義を通じて、法学という学問あるいは法学部生の日々の勉強の一端を垣間見ていただければと思います。

### 授業計画

評価方法

- 1. ガイダンス
- 2. 日本における法と法学(1)

学期末の筆記試験(100%)により評価します。

- 3. 日本における法と法学(2)
- 4. 日本における法と法学(3)
- 5. 日本における法と法学(4)
- 6. 日本における法と法学(5)
- 7. 行政活動と法(1)
- 8. 行政活動と法(2)
- 9. 行政活動と法(3)
- 10. 行政活動と法(4)
- 11. 行政活動と法(5)
- 12. 行政活動と法(6)
- 13. 行政活動と法(7)
- 14. 行政活動と法(8)
- 15. まとめ

※ 講義は、基本的には、教員が作成するレジュメの流れ に沿って行います。

レジュメは、「獨協大学ポータルサイト」から各自で 予めダウンロード・印刷して教室に持参してもらいます が、詳細はガイダンスで説明します。

### テキスト、参考文献

教科書は使用しません。他方で、数多くの具体的な法令の条文を随時参照しますが、その準備は各自で行ってもらいます。詳細はガイダンスで説明します。

### 評価方法

学期末の筆記試験 (100%) により評価します。 ただし、受講人数によっては、学期末試験を受験するための"要件"としてのレポートを課すことも考えています。 03年度以降 政治学概説 I 担当者 杉田 孝夫

#### 講義目的、講義概要

政治学は古来より支配の学であった。治者と被治者が身分的に異なっていた時代にあっては、支配身分のための「よき統治」のための学問であった。しかし治者と被治者が原理的に同一であるとされるデモクラシーの時代である現代においては、市民は、共通の法に従うという意味で被治者でありつつ、共通の法をつくり遂行していくためのわれわれの代理人たる治者を選ぶ選挙人であり、政治過程を監視し、評価する政治主体である。政治に対する深い洞察力が求められるのは、政治家や行政官などの専門家だけではない、それ以上に政治社会の構成主体である市民こそ政治についての教養を身につける必要があると言える。そのような意味で、政治学は私たち市民の教養の学である。以上のような観点から、政治学的見方、概念を身につけ、現代政治に対する見通しを得ることを目的とする。

春学期は、民主政治の歴史、国民国家と福祉国家、議院 内閣制、選挙、政党、議会の制度と政治過程を講義する。

#### 授業計画

- 1. 古代の民主政治
- 2. 近代の民主政治
- 3. 自由主義と民主政治
- 4. 国民国家と民主政治
- 5. 民主政治への挑戦
- 6. 民主政治の再定義
- 7. 福祉国家の成立とその構造
- 8. 福祉国家をめぐる論争
- 9. 議院内閣制と大統領制
- 10. 日本の議院内閣制
- 11. 多数決型民主政治と合意形成型民主政治
- 12. 選挙制度と投票行動
- 13. 日本の選挙
- 14. 議会
- 15. 政党と政党制

#### テキスト、参考文献

テキスト:川出良枝・谷口将起(編)『政治学』東京大学出版会, 2012年, ISBN: 978-4-13—32219-5

参考文献:『現代政治学小事典』(新版) 有斐閣, 1999年

#### 評価方法

学期末試験による

03年度以降

政治学概説Ⅱ

担当者

杉田 孝夫

### 講義目的、講義概要

政治学は古来より支配の学であった。治者と被治者が身分的に異なっていた時代にあっては、支配身分のための「よき統治」のための学問であった。しかし治者と被治者が原理的に同一であるとされるデモクラシーの時代である現代においては、市民は、共通の法に従うという意味で被治者でありつつ、共通の法をつくり遂行していくためのわれわれの代理人たる治者を選ぶ選挙人であり、政治過程を監視し、評価する政治主体である。政治に対する深い洞察力が求められるのは、政治家や行政官などの専門家だけではない、それ以上に政治社会の構成主体である市民こそ政治についての教養を身につける必要があると言える。そのような意味で、政治学は私たち市民の教養の学である。

以上のような観点から、政治学的見方、概念を身につけ、 現代政治に対する見通しを得ることを目的とする。

秋学期は、政策過程と官僚制、世論とマスメディア、地方自治、グローバル化、政治参加を講義する。

### 授業計画

- 1. 戦後日本の政党政治
- 2. 政策過程
- 3. 官僚
- 4. 利益集団
- 5. 世論形成とマスメディア
- 6. 政治とメディアをめぐる諸問題
- 7. 地方自治の制度
- 8. 地方政治の動向
- 9. 主権国家体制
- 10. 国際秩序構想の諸相
- 11. グローバル・イシュー
- 12. 政治参加の理論
- 13. アイデンティティと承認をめぐる政治
- 14. ジェンダーと政治
- 15. 討議による民主政治の重層化

# テキスト、参考文献

テキスト:川出良枝・谷口将起編『政治学』東京大学出版会, 2012年. ISBN: 978-4-13—32219-5

ISBN: 978-4-13-32219-5

参考文献:『現代政治学小事典』(新版)有斐閣,1999年

### 評価方法

学期末試験による

03 年度以降	社会学概説 I		担当者	木本 玲一
得と包括的な理解ましたな会学というさいでは、これを学のうえで、コークーンのうえで、コークーンのうえで、コークーンのうえが、シークーンのうえが、シークーンのでは、カーのでのでは、カーのでは、	学という学問に対する基礎的な知識の習を深めることを目的とする。 学説史もれまでの社会学における諸議論を紹介学問の発想法に対する理解を深める。そびローバライゼーション、文化、コミュディア等のトピックを取り上げ、それらな議論の所究や社会調査法を学習すっくる。 イメージがある。しかしそれはひとつの理解すれば良い。この講義では、社会学方を伝えると共に、身の回りにある具体検討していく。	授業計画 1 イ逸 (1) (2) (4) (2) (4) (4) (5) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	, , , , ゼーショ <i>ン</i> (	
講義のなかで随時	,,	試験によって評価	価する。	

03 年度以降	社会学概説Ⅱ		担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要	문	授業計画		
社会が抱えるととされた。 された という おれた という という かい はい でい	に背景について、その概略を学び、現代ざまな問題を社会学的なアプローチかグローバル社会のなかで異文化・異民 そこにどういった問題が生じるのか、こその問題を分析するのか、といった論っ、映像資料も適宜取り入れながら講義のあげるトピックは、都市、地域社会、会、異文化、メディアである。幾人かの責を紹介しながら、これらについて受講しまたい。受講者は、本講義で学んだこ見し、現代のグローバル化・国際化のも会が直面する課題はなにか、自分はどうに関わっていくのかについて考えてほ	<ol> <li>同調様式の3</li> <li>都市化と移民</li> <li>同心円地帯説</li> <li>シカゴ学派と</li> <li>予言の自己成</li> <li>誇示的消費—</li> </ol>	【──ウェーバ :「自由からの 類型──D.リ 是──W.I.トマ 是──E.バージ 都市問題── 就──R.K.マ 一T.ヴェブレ ロの理論──L. E──P.ブルデ	D逃走」——E.フロム ースマン スとF.W.ズナニエツキ エス R.パーク ートン ン フェスティンガー ユー A.ギデンズ
テキスト、参考文献		評価方法		
E.フロム『自由からの D.リースマン『孤独か A.ギデンズ『親密性の 岡村圭子『グローバが	は群集』みすず書房			験(50%)を中心に、授業へ し総合的に評価する。

03年度以降	哲学概説 I		担当者	河口 伸
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
が一種の大きなでは、一種のには、一種のには、一種のには、一種のには、一種のには、一種のには、一種のには、一種のは、一種のは、一種のは、一種のは、一種のは、一種のは、一種のは、一種の	偏りと明治以降の輸入哲学としての偏 ドリシア起源の「学」としてのみ捉えるの 思想」として捉え、政治・社会・宗教・ と響をも視野に入れて論じたい。 経歴や思想の細部の紹介は、テキストに 思想を形成した動機や課題、歴史的位置	1 哲学とは何か 2 ソクラテス以前 3	τ̈́τ	
テキスト、参考文献		<b>評価方法</b> レポート点を試験	シのよ)を hn 竺	
プリント資料配布 文献は随時紹介する	1 1 1	(出席は2/3以		

03 年度以降	哲学概説Ⅱ		担当者	河口 伸	
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画			
秋学期のみを受討い。	(春学期に同じ)	1 経験論 2	ハイデッガー		
テキスト、参考文献		評価方法			
プリント資料配布文献は随時紹介する		レポート点を試験 (出席は2/3以			

03年度以降 倫理学概説 I 担当者 川口 茂雄 授業計画 講義目的、講義概要 西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどの ように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む) 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時 2. 記憶とは? 歴史とは? アルシーヴとは? に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな 3. プラトン・アリストテレスの記憶論 事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語 4. 記憶現象の4種類 表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 5. 個人的記憶と集合的記憶 6. 証言と歴史記述 7. 歴史が学校で教えられなくなったら、どうなる? この学期では現代の哲学的諸問題をおもに扱う(もちろ 8. アナール学派の〈心性史〉歴史記述 ん古代~近代の哲学者たちの考察はつねに参考にされる)。 現代は画像・映像といったイメージがさまざまなメディ 9. アナール学派の〈表象史〉歴史記述 アで飛びかい、そうしたイメージによる記録/記憶が人々 10. 王の肖像 — 権力のイメージ の心を苦しめる時代でもある。これを〈記憶〉と〈歴史〉 11. 裁判官と歴史家 -- 公正な第三者とは? と〈アーカイヴ〉の問題として受けとめ、考察したい。 12. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって(1) 13. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって(2) 授業は教科書を中心にして進められる。教科書にまとめ 14. 「困難な赦し」 られている内容を要約ないし発展的にふくらませる補足 15. まとめ 説明を、毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。

03 年度以降	倫理学概説Ⅱ	担当者	川口 茂雄

一 リクールと

### 講義目的、講義概要

テキスト、参考文献

川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 —

「記憶、歴史、忘却」』(京都大学学術出版会)

西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのよう に取扱われ、思索されてきたかを、概説する。

教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。

西洋哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、さらに近代のニーチェ、現代のアーレントまでをこの 学期で広く見ていく。

教科書はかなりコンパクトに西洋の各哲学者の思想をまとめたものであるが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。質問などでも積極的な授業参加を歓迎する。

# 授業計画

評価方法

学期末試験による。

1. 導入

(プレゼン担当者の募集・日程調整を含む)

ただし各授業回で教科書内容の要約・補足プレゼンを担当 してくれた学生には、試験点数に約20点を加点する予定。

- 2. 西洋哲学ではなにが問われてきたのか?
- 3. プラトン「イデアという理想」
- 4. アリストテレス「人間は知ることを欲する」
- 5. エピクロス派、ストア派
- 6. デカルト(1)「私は思考する、ゆえに私は在る」
- 7. デカルト(2)永遠真理創造説
- 8. デカルト(3)四つの暫定的道徳
- 9. パスカル「きみはどちらに賭ける?」
- 10. ルソー(1)「人づきあいが人間を不幸にする」
- 11. ルソー(2)「理想的な教育とは」
- 12. ニーチェ (1)「きみは永遠回帰に耐えられるか」
- 13. ニーチェ(2)「音楽と悲劇」
- 14. アーレント「アウシュヴィツと悪の凡庸さ」
- 15. まとめ

# テキスト、参考文献

ドミニク・フォルシェー

『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 (白水社・文庫クセジュ)

### 評価方法

学期末試験による。

ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約20点を加点する予定。

03 年度以降	宗教学概説 I	宗教学概説 I		河口 伸
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
け続けてきた為、野空状態」に置かれている。 そこで本講義は、宗教の歴史と現在るようにすることを更に教職科目であるいても論じたい。 春学期は洋の東西史と現在について考えても点について考えても	ることにも鑑み、宗教教育のあり方につ 5、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴 説明し、宗教の果たして来た役割・問題	1 宗教とは何か 2 神話と宗教 3 ユダヤ教 (1) 4 ユダヤ教 (2) 5 キリスト教 (2) 6 キリスト教 (3) 8 キリスト教 (4) 9 イスラム教 (1) 11 イスラム 教 (1) 12 イスラム 教 (1) 13 ヒンドゥ教 (1) 15 ヒンドゥ教 (1)	1) 2) 3) 4) 1) (2) (3) (4) (1)	
テキスト、参考文献 『世界が分かる字巻	<b>状</b> 女社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫	<b>評価方法</b> レポート点を試験	盆の占に加質	
文献は随時紹介する		(出席は 2/3 以_		

03 年度以降	宗教学概説Ⅱ		担当者	河口 伸		
講義目的、講義概要	E C	授業計画				
講義目的は春学期	期に同じ。春学期の続きの後に秋学期	1 仏教 (1)				
は、日本の宗教の歴	歴史と、日本人の宗教的心性の形成にま	2 仏教 (2)				
ず触れ、その後に完	民教的諸概念についての理解を深め、日	3 仏教 (3)				
本や欧米の先進国は	において宗教集団が現在持っている意	4 仏教 (4)				
義や問題点を論じた	上上で、宗教教育の是非・可能性を論じ	5 儒教(1)				
る。		6 儒教 (2)				
秋学期のみを受講	<b>舞することは、出来るだけ避けてくださ</b>	7 道教				
V,		8日本の宗教の歴	歴史と現在(	1)		
		9日本の宗教の歴史と現在(2)				
		10 日本の宗教の歴史と現在(3)				
		11 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など)				
		12 宗教団体の諸問題(1)				
		13 宗教団体の諸問題(2)				
		14 学校教育と宗教				
		15 宗教とは何か (2)				
ニナフ   全本六+	4.	======================================				
テキスト、参考文南		評価方法	シュ 上)を もの巻			
■『世界か分かる示教 文献は随時紹介する	社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫	レポート点を試験 (出席は 2/3 以」				
		(H)(H)	L-L-'-X/			

03 年度以降	心理学概説 I		担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要	<del>-</del> 문	授業計画		
その後、性格の形成 グなどのテーマに、 験のデータを示した。 本講義を通して、 とらえようとしてき 理学の基本的知識を	デ、現代心理学の成立過程を概観する。 対、ストレス、心の健康とカウンセリン ついて、心理学的研究に基づく調査や実 ながら説明していく。 心理学がいかにして人の心を科学的に きたかを理解してもらいたい。また、心 を習得し、同時に、社会の諸問題や人間 見点で捉える力を身につけてほしい。	1. はじめに: 和	4 ゆみ②:: し:: で哲学シ: ゆみ③:: かり自 かり自 かり自 から自 が行精性み要要ススストレスの がした がした が行れない。 がした がした がした がした がした がした がした がした	内心理学・心理学の誕生 ユタルト心理学 主義の心理学 分析理論 里解 生格理論 と双生児研究 生格 生格 セロピング 生理心理学
テキスト、参考文献		評価方法		
テキストは使用した	ZV).	授業における小	レポートと試	験により総合的に評価する。

03 年度以降	心理学概説Ⅱ		担当者	田口	雅徳
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画			
実践してもう。これでは、 実践しても得になっている。これでは、 のでは、 のでは、 のでは、 をできないでいる。という。 という。という。 という。という。 をはいている。 ではいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	まな心理検査やグループ・ワークなどを これらの学習を通して、心理学の基本的 いい。また、心理検査の結果を分析して ららうことも本講義の目的である。心理 一クを実践した後には、結果をレポート 関連するビデオを視聴し、レポートを らありうる。 で使用する心理検査用紙の実費(2000 らう。履修が決定したら自動発行機で申 こ。授業時に申請書と引き換えに検査用 別の授業にて履修制限や検査用紙代納入 けるので欠席しないこと。	授業計画は以下に 1. 心理問検証とは 2. 心質問紙にとる 4. 質問トレら者 5. 糸か能検 5. 糸が検査 8. EQS 9. 職業格5 11. TEG 12. グルルート・ 13. デスとめ 14. テとめ 15. まとめ	は? 種類と理論 b性格検査① b性格検立 で で で で で で た た た た た た た た た た た た た	(Y-G) (Y-G) 自己理解① 自己理解②	
テキスト、参考文献	tt .	評価方法			
	氏は一括で購入する。検査用紙購入にか 录時に負担してもらう。	実施した心理検 もらう。また、最 容を総合し、最終	最終レポート	を課す。これら	

13 年度以降	東洋史 I		担当者	熊谷	哲也	
西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。  (講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。 なお、毎回出席をとる。  7 聖典コーラ		イイ預最ウるア帝聖アにア権マ建 ヨスイイ預最ウるア帝聖アにア権マ建 ヨスーララ者のイアバ」コバけバそルとそロ、そームム人ものでやすイアのラスイのの上的のソナのショス 朝野 東京 2 県 東京 2 世軍	ン。預言者の言行録ハディースと解釈。 朝時代から発達したアラビア科学と、中世 スラーム神秘主義。 朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政 開について。 朝について。とくにイクター制が西欧の封		と時代背景。 代について、 典理論におけ 。「イスラーム スと解釈、 科学と、 取した 取の封	
<b>テキスト、参考文</b> 献 とくにさだめない。		15 評価 学期	まとめ i <b>方法</b> l末レポート <i>l</i>	こよる評価(	70%)が中心だ	ごが,平常の貢
		110 112 4		(30%)とな 表紙は授業で	る。配布するので注	E意すること。

13 年度以降	東洋史Ⅱ		担当者	熊谷	哲也
ワードであるが、そ 解することはとても とを目標とする。 (講義概要) 後期はイスラータ 別に考察する。今日	日の国際情勢を読むための主要なキーとの鍵を解くためにも、彼らの歴史を理ら大切である。皆さんの視野が広がること世界の近代化の歴史を地域別・テーマヨイスラームがかかわるさまざまな国際理解が深められるようにしたい。	まな関係につる 3 西次 英雄 要動の イ 4 さまど プローのといる 5 トルズム とが 響し 7 近代影響とした影響と	のには、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	するうの声を過程でのて一つ文でをするイ。一内運。程にム人考、い化つる考、 ム容動 につの々察宗でにい間えー 界 ネ いて解生る的討い考 , 。	界とのさまざ 部にあらわれ スーフィズム 考えコナる。 ルコナ 信仰におよぼ であるワクフ える。
<b>テキスト、参考文</b> 権 とくにさだめない。	<u>*                                    </u>	<b>評価方法</b> 学期末レポートは 献度も評価対象 なおレポートの影	(30%) とな	る。	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,

13年度以降 東洋史 I (教職) 担当者 張 士陽

#### 講義目的、講義概要

この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。

19世紀前半,中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間,王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。

清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。 講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、 当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていき たいと思います。

中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きが ちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視 野に入れる予定です。

### 授業計画

第1回:講義の概要

第2回:清朝皇帝支配体制 第3回:清朝の科挙と社会

第4回:清朝体制下の国際関係

第5回:アヘン戦争

第6回:南京条約と東南沿海地域の秩序再編

第7回: 太平天国の成立 第8回: 太平天国の滅亡

第9回:回民の反乱

第10回:洋務運動と洋学の受容 第11回:開港場の社会と経済 第12回:周辺地域宗主権の喪失 第13回:台湾事件と台湾出兵 第14回:清仏戦争と台湾の近代化

第15回:講義のまとめ

### テキスト、参考文献

教科書:並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の 危機』(中公文庫 S 22-19) 中央公論新社, 2008 年。

### 評価方法

平常点 10%, 授業への参加度 10%, 期末試験 80%

13 年度以降 東洋

東洋史Ⅱ(教職)

担当者

張 士陽

### 講義目的、講義概要

この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより

深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史に

ついて講義します。

日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々, さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し, また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。

また近代のなった「纏足問題」認識されるようになった 纏足認識の変容について検討し,近代中国の女性の社会状 況の変化を理解します。

中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きが ちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視 野に入れる予定です。

### 授業計画

第1回:講義の概要

第2回: 朝鮮をめぐる日中関係 第3回: 朝鮮をめぐる日中関係

第4回: 日清戦争

第5回:台湾の割譲と台湾住民の抵抗

第6回:変法改革 第7回:戊戌の政変

第8回:キリスト教布教と仇教運動

第9回:義和団の蜂起 第10回:義和団戦争 第11回:纏足問題 第12回:天足運動

第13回:革命派の台頭

第14回:光緒新政と地方自治の試み

第15回:講義のまとめ

### テキスト、参考文献

教科書:並木頼寿・井上裕正『世界の歴史19 中華帝国の 危機』(中公文庫S22-19) 中央公論新社,2008年。

### 評価方法

平常点 10%, 授業への参加度 10%, 期末試験 80%

13 年度以降	西洋史 I			担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画	<u> </u>		
【講義目的】		第1回	授業ガイ	ダンス「なぜ!!	歴史を学ぶのか?」
本講義は「歴史学と	こはどのような学問なのか」について、ヨー	第2回	歴史学の	歴史(I)歴史	学の誕生
ロッパ史を例にして概	既観し、歴史学の方法と対象、叙述スタイル	第3回	歴史学の	歴史(II)実証	E史学への挑戦
について理解を深める	るとともに、現代においてなぜ歴史を学ぶ必	第4回	歴史学の	歴史(III)新	しい歴史学:文化史の台頭
要があるのかについて	で考えていく。	第5回	歴史学の	方法と対象(I	)総論
【講義概要】		第6回	歴史学の	方法と対象(I	I) マイクロヒストリー
最初に、古代ギリシ	ノアの歴史家ヘロドトスから実証史学の立役	第7回	歴史学の	方法と対象(I	II)グローバルヒストリー
者ランケを経て、社会	会史を唱えたアナール学派、20世紀後半以来	第8回	歴史学の	方法と対象(I	V) 歴史人類学
歴史学の中心を占める	るようになった文化史に至るまでの歴史学の	第9回 歴史学の方法と対象 (V) 記憶の歴史			
歴史を簡単に紹介する	る。そして、いくつかの代表的な歴史研究の	第10回 歴史学の方法と対象 (VI) 書物の歴史			
事例を挙げながら、歴	歴史学の方法と対象について理解を深める。	第11回 歴史学の方法と対象 (VII) ジェンダー史			
		第12回	歴史学の	方法と対象(V	/III)語りえぬものの歴史
【到達目標】		第13回	歴史学の	方法と対象(I	X) ナショナリズム
・ 歴史学の方法と	対象、叙述スタイルについて具体的に説明で	第14回	まとめ		
きる。		第15回	まとめ		
・ 自分が歴史学を	学ぶ意義について説明できる。				
・ 現代の問題の解	決のために歴史学的な思考方法がどのよう	本授業計	十画はあ	くまでも予定	であり、変更の可能性がある
に役に立つのか	を説明できる。	正確な技	受業予定に	こついては初	回ガイダンスで配布する。
テキスト、参考文献	<b>.</b>	評価方法	ţ		
講義の中で適宜指示	<b>ドする。</b>			よび平常授美 評価基準は	業における課題などの実績も 計くはない。

13 年度以降	西洋史Ⅱ		担当者	上村 敏郎
8世紀のイギリス、ス げながら、理解を深めいく。 【講義概要】 ドイツの哲学者ユハ (1962年)という 共空間における言論かれがまた19世紀後 退していく構造の変化 近世国家から近代国 な役割を果たし、どの る政治文化に注目した 【到達目標】 ・17世紀ヨーロ ・18世紀以降に きる。	ペの(政治)文化史について、特に17、1 フランス、ドイツ語圏の事例を中心に取り上 り、ヨーロッパの歴史と文化について考えて レゲン・ハーバーマスは、『公共性の構造転換』 り本の中で、公共圏という概念を用いて、公 以18世紀を通じて政治的な力を獲得し、そ 半から現代に至るまで大量消費社会の中で衰	第3回 顕新4回 第5回 顕新示されれれれの第6回 第7回 第8回 第10回 第 11回 革 革 デ まとと 第11回 第11回 第 11回 11回	がける「文化」	ルイ14世とヴェルサイユ 神聖ローマ帝国 芸術家の地位 ミュニケーション i場 紀のグローバルな書籍市場 ブルク君主国における地下出版 の出現
T. C. W. Blanning, The Culture: Old Regime	大 D本を主に参考にしている。 the Culture of Power and the Power of Europe 1660-1789, Oxford 2002 には講義の中で適宜支持する。	評価方法 平常授業におけ	る課題などの	実績をもとに評価する。

13 年度以降	西洋史 I		担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要	평	授業計画		
紛争。最新の現場が	1の見えないパレスチナ・イスラエルのから説きおこし、問題の根源となる中世 ア人差別までさかのぼる。	3. イスラエル国 4. 在米キリスト 5. イスラエル・ 6. 最強のイスラ 7. 弟分、在欧イ 8. アラブ・ロロロ 9. 中世英国のコ 10. 隠れユダヤ教 11. 千年王国論と 12. 17~18 世紀 13. 移民排斥と反 14. 英国シオニス	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	介者となりえないのか する宗教シオニスト ニスト 寸表 ーとは コビー 弱なのか 190~1656 人国
テキスト、参考文献		評価方法		
か』日新報道、150	カがイスラエルを見捨てる日は来るの 10 円 ダヤ人』講談社選書、1600 円	20 問 12 択の Qui	z 形式の試験	念、教科書持ち込み可

13 年度以降	西洋史Ⅱ		担当者	佐藤 唯行
年間にわたる日猶が この140年史は、 らぬ今日の日本人に 秋学期後半では世 アメリカを舞台に、 ストリーを学ぶ。 各人種・民族集団	本人とユダヤ人の最初の出会いから140 区好親善の歴史を学ぶ。 「外国人との共生」の道を模索せねばな ことり有益な示唆を与えるはずである。 は界で最も典型的な多人種・多民族社会 ユダヤ系を中心とするエスニック・ヒ 間間相互のあつれきを生み出したメカニ 区を回避し、相互理解と和解の道を模索 紹介する。	5. 占領下日本へ 6. 大日本帝国の 7. 農地改革の分 8. 労働法の生み 9. 日本洋楽界を 10. 大都市移民の 11. 自動車王へン ン 12. 甦る儀式殺力 13. ヨーロッパよ 14. アメリカにお	イグ・大学師では、大学の大学を教到は、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学で	音総同盟 けたユダヤ系 アフの求めに日本も協力 ダヤ系法曹 解体したケーディス スキー エン ヤ系 スニック・コンフリクト ードの反ユダヤ・キャンペー 紀アメリカで復活 ヤ主義
15年9月刊行予定、1	、、ユダヤ人』(仮題)日新報道	<b>評価方法</b> 20 問 12 択の Qu	iz 形式の試験	え、教科書持ち込み可

13年度以降 地理学 I 担当者 秋本 弘章 講義目的、講義概要 授業計画 地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間 1 オリエンテーション の居住環境が人間にとってどのような意義をもっている 2 自然と人間とのかかわり のかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識 3 環境の諸要素(1) 地球の特質 と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。ま 4 環境の諸要素(2) 地形環境 ず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上 で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。 5 環境の諸要素(3) 気候環境 自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的 6 環境の諸要素(4) 植生と土壌 生態系 基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明 7 熱帯地域(1) 一自然的特質と伝統的農業 する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な 8 熱帯地域(2) - アジアの稲作 問題をとりあげ、地球的視点から検討する。 9 熱帯地域 (3) ―熱帯の開発と問題 (1) 10 熱帯地域(4) --熱帯の開発と問題(2) 11 砂漠地域(1) 一自然的特質と伝統的生業 12 砂漠地域 (2) — イスラムの世界 13 砂漠地域 (3) ―石油資源と近代化 14 砂漠地域 (4) - アラブとイスラエル 15 まとめ

評価方法

定期試験

テキスト、参考文献

参考文献は授業中に示す

13 年度以降	地理学Ⅱ		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要	<del>.</del>	授業計画		
の居住環境が人間のかという視点からと地理的見方・考えず、地理学におけるで、人間の活動の制度にもといる。まといる。まといるが、地理をとりあげ、地間をといる。まといるが、地間をといるが、地間をといるが、地	字は多岐にわたるが、本講義では、人間にとってどのような意義をもっているら、世界の地理を概観し、地理的な知識を方を身につけることを目的とする。まる主要な概念や方法を説明する。その上舞台である自然環境について学習する。いて地域区分を行い、地域ごとに自然的広げられている人々の生活様式を説明て、世界の環境問題について、具体的な地球的視点から検討する。	2 温帯地域域 4 温帯地地域 5 温帯地地地地域 6 温帯地地地地地 9 冷帯地地ののの 10 世界のののの 11 世界ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	<ul> <li>(4) 温帯混</li> <li>(5) 北米の</li> <li>(6) 北米の</li> <li>(7) そのほ</li> <li>・寒帯地域</li> <li>境問題(1)</li> <li>境問題(2)</li> <li>境問題(3)</li> </ul>	森林地域 交林地域 (ヨーロッパ) 交林地域 (アジア) 温帯地域 (1) 温帯地域 (2) かの温帯地域
テキスト、参考文献		評価方法		
参考文献は授業中に	こ不す	定期試験		

13年度以降 地理学 I 担当者 北﨑 幸之助 講義目的、講義概要 授業計画 1. オリエンテーション―地理学とは 地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、世界ある いは日本を「地理学」の視点からとらえていく。各地域の 2. 世界の読み方(1)地域と空間を見る眼 自然環境や文化といった諸分野について、知識・理解を深 3. 世界の読み方(2)世界地図の錯覚 めることを目的とする。まず、世界の諸地域を概観し、地 4. 世界の読み方(3)人と環境から見た世界 理的な見方・考え方を身につけるとともに、人口問題、資 5. 世界の読み方(4)世界の経済と貿易 源と貿易、そして都市と農村のつながりなどの各分野につ 6. 世界の読み方(5)都市と農村の地理 いて考察していく。なお、履修に際しては、地球環境問題 7. 世界の読み方(6)日本の地図を読む に対して高い関心のある意欲的な学生を希望する。 8. 日本の大都市圏 (1) 東京と首都圏 9. 日本の大都市圏 (2) 複核構造の近畿圏 10. 日本の大都市圏 (3) 多核的産業都市・中京 11. 日本の大都市圏(4)大都市圏の回廊地帯 12. 地球環境問題に対する視点(1) 13. 地球環境問題に対する視点(2) 14. まとめ(1) 15. まとめ(2) テキスト、参考文献 評価方法

期末定期試験の結果 (75%) に加え、平常授業における課

題レポートなどの実績(25%)等も加味して、総合的に評

青木英一・北村嘉行『世界を読む 改訂版』(原書房、2005

年)

				-
13 年度以降	地理学Ⅱ		担当者	北﨑 幸之助
講義目的、講義概要	要	授業計画		
いは日本を「地理生 自然環境や文化とい めることを目的とす の諸地域について、 して、近年重要性が	は多岐にわたる。本講義では、世界ある 学」の視点からとらえていく。各地域の いった諸分野について、知識・理解を深 する。まず、日本の諸地域、そして世界 それぞれの地域的特色を考察する。そ が増す地球環境問題について詳しくみて に際しては、地球環境問題に対して高い な学生を希望する	3. 日本の地方 4. 日本の地方 5. 世界の諸地は 6. 世界の諸地は 7. 世界の諸地は 8. 世界の諸地は 9. 世界の諸地は 10. 地球環境問題 11. 地球環境問題	圏 (1) 東郷 (2) 瀬 (3) 瀬 (1) 東瀬 (1) 東瀬 (1) 東瀬 (1) 東瀬 (1) ア ア ヨ 生 自環 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	海岸の経済的風土 ・北海道地方 内海・四国・九州地方 とアジア諸国 アニア リカ合衆国 リカ・西アジア ・ロッパ・ロシア ・系と人間活動 ・環境の破壊 ・問題解決にむけた取り組み
テキスト、参考文献		評価方法		
青木英一·北村嘉行 年)	テ『世界を読む 改訂版』(原書房、2005	//** / <del>_</del> ///** · • • · ·		に加え、平常授業における課 ) 等も加味して、総合的に評

価する。

### 講義目的、講義概要

### 【授業の到達目標及びテーマ】

人間の諸活動とそれが展開される場の総体としての地域の実体の把握を通して、地誌学・地理学の主題に関わる地域の意味を理解する。

### 【授業の概要】

フランスの国と地域を対象として、前半では地域の成り 立ち、地域の体系、および社会の変化に伴う地域の変化に ついて学ぶ。後半では、地域における商業形態の変化と生 活環境の変容、ならびに物的環境として都市の実体につい て学ぶ。

### 授業計画

第1回: 講義概要の説明

第2回: 地域の枠組みと主体

第3回: フランスの本土と海外

第4回: 地域の体系:旧プロヴァンスから近代の県へ

第5回: 地域の体系:レジオンの誕生

第6回: 地域の体系:基礎自治体としてのコミューヌ

(市町村)

第7回: コミューヌの枠組みと地域の広がり

第8回: コミューヌの合併 第9回: コミューヌの連合

第10回: 中間のまとめ:地域の枠組みと社会の変化

第11回: 商業形態の変化と地域中心地の変容

第12回: 中心地再生の課題と取り組み

第13回: 都市の景観 第14回: 都市空間の構成

第15回: まとめ:地域の現象をめぐる日仏比較

### テキスト、参考文献

【テキスト】特定のテキストは用いない。講義に関する資料を毎回配布する。学習対象の正確な理解のために資料中では対象国の原語を用いることもあるが、それについては解説を加える。 【参考書・参考資料等】講義の中で必要に応じて紹介する。 **評価方法** 授業内小テストおよびレポートによって評価する。

13 年度以降 地誌学Ⅱ 担当者 鈴木 隆

### 講義目的、講義概要

### 【授業の到達目標及びテーマ】

人間の諸活動とそれが展開される場の総体としての地域の実体の把握を通して、地誌学・地理学の主題に関わる地域の意味を理解する。

### 【授業の概要】

フランスの国と地域を対象として、地域の格差と問題の諸相、 地域の住民とりわけ若者の意識、および地域の再生・格差是正・ 発展へ向けての取り組みについて具体的に学ぶ。

### 授業計画

第1回: 講義概要の説明

第2回: フランスの地域と若者

第3回: 日本の地域と若者第4回: 世界の地域と若者

第4回: 世界の地域と石有

第5回: フランスの「脆弱都市地域」と地域格差 第6回: 都市郊外の現実と課題:パリ郊外の場合

第7回: 脆弱都市地域と経済・雇用問題

第8回: 脆弱都市地域と教育問題

第9回: 都市問題と移民社会の側面

第10回: 中間のまとめ:地域社会の状況と住民の意識

第11回: 地域の再生・格差是正への取り組み:雇用改善 第12回: 地域の再生・格差是正への取り組み:教育支援

第13回: フランスの非営利団体「アソシアシオン」

第14回: 地域におけるアソシアシオンの活動

第15回: まとめ:地域の再生・格差是正・発展へ向けて

### テキスト、参考文献

【テキスト】特定のテキストは用いない。講義に関する資料を毎回配布する。学習対象の正確な理解のために資料中では対象国の原語を用いることもあるが、それについては解説を加える。 【参考書・参考資料等】講義の中で必要に応じて紹介する。

### 評価方法

授業内小テストおよびレポートによって評価する。

13 年度以降	国際法 I		担当者	一之瀬 高博		
講義目的、講義概要	Ę	授業計画				
		1 講義の概要 2 国際法の形成と発展 3 国際法の存在形態 4 条約のしくみ 5 慣習法およびその他の規範 6 国際法における国家 7 国家承認と政府承認 8 国家責任の成立要件				
テキスト、参考文献	<del>*************************************</del>	評価方法				
テキスト: 横田洋三編『国際	祭社会と法』有斐閣 2010 年			より評価し、平常授業での課 成果(30%)も評価対象にす		

13年度以降	国際法Ⅱ		担当者	一之涑	<b>高博</b>
法がどのように機能 〔講義概要〕 国際法が、国際を ちで発展しつつある	中識を学ぶとともに、国際社会において をしているかを考察する。 社会のさまざまな分野にどのようなかたるのかを概観するとともに、そこに生じ 全保障や裁判を通じてどのように解決が ついて考察する。	授業計画 1 講画 の概と集も紛と集も紛と集も紛と集も紛と集も紛と集も紛と集を見る。 5 国国国平国際際籍民連体の第一次で解判の国際ののの国際でのののののででででででででいます。 10 対 12 人 13 国 講義 14 は 15 は 15 は 15 は 15 は 16 は 17	全保障 の武力行使に かたと仲裁裁判 所 所 変連合 造 罪 権保障	関する諸問題	埠
テキスト:	A 奈社会と法』有斐閣 2010 年				平常授業での課 も評価対象にす

13 年度以降	英語通訳		担当者	中島 直美	
講義目的、講義概要	<del></del>	授業計画			
講義目的、講義概要  この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。  通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。  参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。  *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。		01 ガイダンス / 通訳・通訳者とは? 02 通訳者のキャリアパス / 通訳者に求められるスキル 03 会議通訳者の仕事 04 放送通訳者の仕事 05 語彙力増強方法 / ディクテーション 06 通訳訓練方法 (1) シャドウイング 07 通訳訓練方法 (2) リプロダクション 08 通訳訓練方法 (3) サイトトランスレーション 09 通訳訓練方法 (4) クイックレスポンスなど 10 ゲストスピーカー 11 逐次通訳とノートテーキング 12 通訳の実践 (1) 逐次通訳 13 通訳の実践 (2) 同時通訳 14 まとめ 15 確認テスト			
テキスト、参考文献	;t	評価方法			
随時プリントなどを	を配布する。		条件であり、	によって評価する。 出席が全授業の 2/3 に満たな 。	

13 年度以降	英語通訳		担当者	中島	直美
講義目的、講義概要	<b>E</b>	授業計画			
	ため、講義目的等は春学期と同じ)				
テキスト、参考文献	忧	評価方法			

13 年度以降	英語圏の社会と思想 a		担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要	· 要	授業計画		
【講義目的】 イギをたどります。フェ主張のこと。イギリストンクラフト、3 世界史レベルで著名1980年代にはです。 今日の世界を理解ダー(性別)の彼ら、について理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについて理解を深いについては、	ドリスのフェミニズム思想と運動の歴史 エミニズムとは簡単に言えば女性の権利 リスのフェミニズムには、メアリ・ウル J.S.ミル、ヴァージニア・ウルフなど、 名な思想家がいます。また、参政権運動、 った軍事施設占拠など、直接行動の歴史 解するのに、階級や性別と並んでジェン はは欠かせません。イギリスのフェミニ 日本の現状とも比較して、今日の世界 めてほしいと思います。 国、その時代を生きた人々の生の声を手 がそれらの「声」の意味や背景について	1. はじめに:フ 2. 中世から近代 3. 中世から近代 4. 18世紀のパッ 5. 19世紀(1) 6. 19世紀(2) 7. 19世紀(3) 8. 19世紀から 9. 19世紀から 10. 戦間期のフェ 11. 20世紀後半 12. 20世紀後半	初期(1): 初期(2): イオニア:メ : J.S. ミル : 「新紀へいない。 20世紀ズム: (1):ブラ	キリスト教とジェンダー 世俗社会とジェンダー アリ・ウルストンクラフト とハリエット・テイラー ゲールのイメージと実像
思想 b」の単位を値	多得した学生は登録できません。	(各回タイトル	・内容は一部	変更することがあります。)
テキスト、参考文献		評価方法		
テキストはハンドラ	アウトを配布します。	コメント約3割、		

ただし5回を越えて欠席した場合、評価対象としません。

参考文献は授業中に適宜紹介します。

13 年度以降	英語圏の社会と思想 b			担当者	田村	斉敏
講義目的、講義概要	Ę	授:	業計画			
の世かそうます。 もた化いに一あがて学を ものえとニ連技響るそ。 とのできケし術し文れ ものがてきケし術し文れ ものがて学を でオ時あら描い外で がでするとの代くを学業 でオ時あら描い外が でオ時あら描い外が ではがしていいではである。 といの代くを学講 でオ時あら描い外が では、戦をすれたでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	なことは、技術の発達、とりわけ戦争といの技術の飛躍的な進展です。両者はた一見平和な世界にあっても軍事的な含みいわれのものの見方や社会のありようにいのです。そうした影響は、一見無関係の内部にもたしかに確認され、場合によけす契機のひとつとなり、動力となっては一ロッパ全体を覆う戦争の祖形ともいるに直面し、文学における革命を生じたこととして、第二次大戦後、冷戦期とい	2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.	イ英英世世第第戦戦第第大大ままトロママかか世世12世世かり12年末次次期期次次後後めめ12年末、次第期第二十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	と戦争1 と戦争2 0世紀へ1 0世紀へ2 戦1 戦2 戦1 戦2		
テキスト、参考文献	・ キスト、参考文献 評価方法					
プリント配布			業内活動参加 終レポート (		出物含む〉 4	0%

13 年度以降	社会経済史 a		担当者	新井 孝重
時代であったといの源平争乱で焼いの源平争活動を者は数の役割を考えて、 (1) 東大寺を事(2) 東原の時代(3) 信仰と経済	らしの中に、宗教が色濃く影を落としたいわれている。この講座では、平安末期 け落ちた東大寺と、これを再建した勧進 覗ることによって、中世社会に果たした えたい。 「建した男 代	<ul><li>① 下変地妖(</li><li>① 下変地妖(</li><li>① 下変地妖(</li><li>② 聖の社会事の社会事またの約後生の約束</li><li>⑤ 「荘園」外</li></ul>	るか か選ぶか 群勢へ 黒田本(くちよ 会業 社会の出現	oだのしょう) う) と飢餓・疫癘 (えきれい)
	M 重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブッ 楠木正成』(吉川弘文館)	評価方法 試験成績(100%)	による。	

13 年度以降	社会経済史 b		担当者	新井	孝重
では伊賀国の 生活を、敵対 る。地域自治 義の基礎を歴 (1) 戦乱の中 (2) 自立する	時代であるとも言われている。本講座 黒田荘に展開した中世後期の村の自治 する戦国大名の動きとの関係で観察す とは何か、という問題を通じて民主主 史的に考えたい。	<ul><li>④ 国主の付</li><li>負 自立すへたり</li><li>高 南郡党のののたり</li><li>り 物内ののの規</li><li>⑪ 内部信長軍</li></ul>	一 一 一 の 行動 が は 現 文の一 平 質中制 を 力ン和へ世 で の 一 平 領 中制 を が を 力 と の 一 で の 一 で の し で の し で の し で の し で の し で も の し で も の し で も の し で も の し で も の し で も の も ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	女	
	t 重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブッ 楠木正成』(吉川弘文館)	評価方法 試験成績(100%)	による。		

13 年度以降	社会思想史 a		担当者	市川 達人
講義目的、講義概要	롯	授業計画		
を支配している近代的にたどる。講義に前期では、最近という観念をはて社会」を学問的にという宗教改革の外観との対抗あるい生き方が模索へとつとまり」と「市場と	現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「市場というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。		つうの思『近いと革革出となべ、国の思『近いと革革出となべ、国題と主政思ユ動とと、 国題近共県三連動想想のと家を担めまり、神・教代市場が出し、神・教代市場が出し、神・教代市場が出し、おいまでは、	ボ代文化 『ア』 『王国説、後期スコラ学派 想 エートス
テキスト、参考文献	<b></b>	評価方法		
テキストは使わない 参考書 講義で指示		期末の試験による	3	

13 年度以降	社会思想史 b		担当者	市川 達人		
作業がはじまる。作が自分のはいうなには然権を存るというされたとのので、社会を利される市民をおいるので、というまというまといません。場というまというまという。	紀から近代市民社会の見取り図を描く 云統的な自然法思想を手がかりに、個人 守るため、契約という作為を通して国家 契約思想が生みだされる。これと並ん 国民」が経済的主体として自覚され、国 民社会という観念が生まれてくる。この ッブズから初めて 19 世紀のマルクス ここでも「国家というまとまり」と「市 が隠れた主題となる。	担当者   市川 達人   技業計画   1)授業の狙いについて   2)西欧自然法思想の源泉   3)自然法思想の近代的転回   4)社会をめぐる自然と作為(1)ホッブズの利己心   5)社会をめぐる自然と作為(2)ホッブズの国家観   6)個人を守ること(1)ロックの所有的個人主義   7)個人を守ること(2)ロックの政治的自由主義   8)文明化という課題フランス啓蒙思想(ヴォルテール、ディドロ)   9)風土と社会モンテスキューの権力論   10)個人と社会の一体化(1)ルソーの歴史認識   11)個人と社会の一体化(2)ルソーのデモクラシー   12)社会は自然に発生する(1)ヒュームの道徳感情論自然法批判   13)社会は自然に発生する(2)スミスの市場的社会思   14)社会的に生きる(1)社会主義の思想   15)社会的に生きる(2)マルクスの思想				
テキスト、参考文献 テキストは使わない 参考書 講義で指示	`` <sub>\</sub>	評価方法 期末の試験による	3			

13年度以降 社会思想史 a(教職) 担当者 松丸 壽雄 講義目的、講義概要 授業計画 二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に 1. (インド)アーリア人とヴェーダの宗教 触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だ 2. (インド)ウパニシャッド哲学の思想 が、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特 3. (インド)ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自 4. (インド)ウパニシャッド哲学のまとめ

このような思想を実地に使える行動決定の原理として、古代 から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日 本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。な お、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となる ところではある。しかし社会思想史aでは、古代インド、中国思 想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めな がら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れること 15. 中世の東洋思想のまとめと質問 になる。

らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動

決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え

方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際

して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉える。

- 5. (インド)原始仏教
- 6. (インド) 原始仏教
- 7. (インド)原始仏教とヒンドゥー教の思想
- 8. (中国)孔子と論語 [
- 9. (中国)孔子と論語 II
- 10. (中国)儒教と老荘思想
- 11. (中国)老荘思想 I
- 12. (中国)老荘思想 Ⅱ
- 13. (日本)無常思想
- 14. 中世の東洋思想のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
授業中に適宜指示	授業参加度 30%、課題によるレポート評価 70%

13年度以降 社会思想史 b(教職) 担当者 松丸 壽雄

### 講義目的、講義概要

二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に 触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だ が、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特 有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自 らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動 決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え 方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際 17. (中国)宋学 II(程明道) して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉える。

このような思想を実地に使える行動決定の原理として、古代か ら現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日 本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。な お、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となる ところではある。しかし社会思想史 b では、古代インド、中国思 想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めな がら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れること になる。

### 授業計画

- 1. (インド) 仏教哲学(説一切有部)
- 2. (インド) 仏教哲学(中観派)
- 3. (インド)仏教哲学(唯識派)
- 4. (インド) 仏教哲学のまとめ
- 5. (インド)現代とインド思想の関係
- 6. (中国)宋学 I(周濂渓)
- 8. (中国)宋学 III(程伊川)
- 9. (中国)宋学 IV(張横渠)
- 10. (中国)宋学 V(朱子学)
- 11. (中国) 宋学のまとめ
- 12. (中国)現代と中国思想の関係
- 13. (日本)本居宣長の思想
- 14. (日本)京都学派の哲学
- 15. 東洋思想史の現代的意義と質問

### テキスト、参考文献

授業中に適宜指示

### 評価方法

授業参加度30%、課題によるレポート評価70%

13 年度以降	外国経済史 a		担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画		
の特徴と問題点を多 (注意事項) ①最新のシラバスを 履修希望者は必っ ②出席は第1回より と単位は認定され ③試験は定期試験り 述問題で行う。 ④評価方法は、2年 ある。	を第1回の授業で配布するので、 が出席すること。 毎回取る。欠席が4回になる れない。 期間中に持ち込み無し、論 生、3年生、4年生ともに共通で の順番で履修することを	<ol> <li>字論(続)</li> <li>産業革命の</li> <li>(同上)</li> <li>技術革新と</li> <li>(同上)</li> <li>動力源の技</li> <li>製鉄業の技</li> </ol>	前提条件(1)~ (2)~ 工場制生産の 術革新 術革新 技術革新: 鋭 業形態 業革命と世界	k道の出現 P市場
テキスト、参考文献		評価方法		
第1回の授業で説明	<b>月する。</b>			:、定期試験成績 60 点以上の 位認定の条件である。

13 年度以降	外国経済史 b		担当者	御園生 眞
	て産業革命を展開した後発国の事例と 上げ、ドイツ産業革命の特徴と問題点を	2. 序論(続) 3. 産業革命前 4. 産業革命の 5. (同上) 6. 産業革命の 7. (同上) 8. ドイツ産業	夜のドイツ紹前提条件の形前提条件の形 前提条件の形 革命の展開(1 革命と産業技 革命と鉄道業	が成(1)プロイセン改革 が成(2)ドイツ関税同盟の成立 は)綿工業 は)製鉄業 技術教育
テキスト、参考文献 春学期に同じ。		評価方法 春学期に同じ。		

13年度以降 日本思想史 a 担当者 矢森 小映子 講義目的、講義概要 授業計画 【目的】 現代の私たちがもっている世界観、特に「西洋(ヨーロッ 1. 講義の概要 パ)」「東洋(アジア)」、そして自国に対するイメージは、 2. 洋学と洋学者―本講義が対象とする人々― いかに形成され、流布し、再生産されてきたのでしょうか。 近世初期の世界観―「三国」世界観の展開― 3. 本講義ではその展開過程を、主に近世日本の洋学者とその 4. 地球球体説の衝撃―「中国」イメージの変容― 周辺の人々の事例を通して検討していきます。私たちが当 5. 「国益」と自国認識―司馬江漢と本多利明― たり前に思っている世界観やイメージが、いつどのように 6. 只野真葛の世界観―近世の女性思想家― 形成されたものなのか、そしてどのような問題を抱えてい 7. 世界地理学者・山村才助の世界観 るのかを考えるきっかけにつなげてください。 8. 国学者・平田篤胤の洋学受容と世界観 【概要】 19世紀における洋学と社会―小関三英と渡辺崋山― 9. 毎回一つのテーマに沿って、一人ないし複数の人物をとり 10. 藩と日本をめぐる意識―渡辺崋山を事例に― あげます。彼らの史料を読み、その世界観と背景にある近 11. 典拠蘭書とヨーロッパ社会 世社会・思想の特質を考察していきます。 12. 箕作省吾『坤輿図識』の世界観 近世の人々の世界観を史料から読み取れるようになるこ 13. 幕末の世界観―アヘン戦争と『海国図志』― と、さらにその形成過程を歴史的文脈の中で捉える作業を 14. 講義まとめ (確認テスト) 通し、近世社会・思想への理解を深めることを目標としま 15. 講義まとめ す。 テキスト、参考文献 評価方法

ます。

平常点 30%、レポート 30%、テスト 40%の割合で評価し

テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介し

ますので、積極的に読んで講義に臨んで下さい。

マ・トピックに関する文献を読んでください。

			ı	
13 年度以降	日本思想史 b		担当者	小田 真裕
講義目的、講義概要	문	授業計画		
を学に本でいい、現在で、学に本で、いい、地域で、いい、地域で、いい、地域で、いい、地域で、いい、地域で、で、いい、地域で、いい、地域で、いい、地域で、いい、地域で、いい、は、地域で、いい、は、地域で、いい、は、は、いい、は、は、いい、は、は、いい、は、は、いい、は、は、いい、は	までの日本思想に関する基礎的な事象の私たちが抱く思想の形成過程や、特質えること。研究を行う際に用いる史料と方法論を身で史料を読み解き、他人の受け売りで導き出せるようになること。  研究において注目されているテーマやらにアプローチするための史料・方法論の際、概説的な説明をするだけでなく、本国」の外との交流・影響関係および、ある地域一草加・埼玉・関東―に生きたこ着目していきます。 は該テーマについての説明をした上で、売む時間を設けます。 にはありませんので、それぞれの人物がたたのかということについて、自分自身づいて、主体的に考えようとする学生の	3. 古代の思想想 4. 中世域から思想 5. 地域かの思想 6. 近世の思想想 9. 近世の思想想 10. 幕来衆田思想 11. 民代の思想 12. 近代の思想	研究の歴史 に に に に に に に に に に に に に	はどう学ばれたか 時代の手習い・教育 他の国学受容者たち 情関のために 開化と民俗的世界 で句に見る近代化 ーチ―災害への着目を例に
テキスト、参考文献		評価方法		
	プリントに沿って進めます。 こ適宜示しますので、関心を持ったテー	半常点 30%、期	末テスト 70	%の割合で評価します。

13 年度以降	経済学史 a		担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
への理解を深めては 実際に取り組んだ限 ることにある。 講義の概要 近代自由主義社会の	経済学の形成過程を追体験し、経済理論 かくための手がかりとして、経済学者が 問題や社会的背景、時代的文脈を考察す の確立を基礎づけた 17 世紀の経済思想 済思想までを通覧する。	<ol> <li>ロックとヒュー市場社会</li> <li>フランソワ・人類最初</li> <li>4・5. アダム・スクライン・スクーン・スクーン・スクライン・スクラーン・スクラーン・スクライン・スクラーン・ス</li></ol>	一会の大切な会べ多が会・発育シチ嚢マーの成ーコース会べ数一にリ済者モアはサースをデンーとなるというできる。というでは、カム大・る・発育とフーとスは、カム大・る・発育とフーとスーとなっては、カム大・のでは、	スト 解明した経済学の父 福」を夢想した功利主義者 レサス 困と「人口の原理」 フ 化
テキスト、参考文献	#	評価方法		
参考文献: 高哲男編『自由と程 根井雅弘『経済学の	失序の経済思想』名古屋大学出版会. D歴史』講談社.	レポート・期末記	試験のいずれ	か、ないし両方。

13 年度以降	経済学史 b		担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要	5	授業計画		
への理解を深めての 実際に取り組んだ限ることにある。 講義の概要 19世紀末の経済思	経済学の形成過程を追体験し、経済理論 かくための手がかりとして、経済学者が 問題や社会的背景、時代的文脈を考察す 想から、われわれの社会を支え、その将 あろう今日の経済思想までを通覧する。	2. グスタフ・シ 新歴史 <sup>2</sup> 3. カール・メン 主観主 <sup>2</sup> 4-5. ジェヴォン 経済学(6-7. アルフレッ 「冷静な 8-9. ソースティ 大量生涯 10-11. ヨゼマ・ 企業者(11-12. ジョン・ 貨幣経行 13-14. ケイイン・シカゴ	らんだが、 とのでは、 できょうない とうがい できょう できない でいる できない できる できない できない できない できない できない できない できない はい とり でいい できない はい とり でいい できない はい できない はい できない はい できない はい しょう はい	策思想 済学 ベ ハ心」の経済学 ハン 社会の制度分析 マー が生み出すダイナミクス ・ケインズ 析 学 トケインジアン、 期待形成学派、ハイエク、
テキスト、参考文南	<b>*</b>	評価方法		
参考文献: 高哲男編『自由と移 根井雅弘『経済学の	失序の経済思想』名古屋大学出版会. D歴史』講談社.	レポート・期末記	試験のいずれ	か、ないし両方。

13 年度以降	日本国憲法		担当者	古関・彰一
従って、日本国憲法 15回という制約がな論点を講義するこ 春学期だけで憲法	会全般を講義することになります。 会の人権と統治機構全般に及びますが、 いるりますので、人権と統治機構の主要	2基本的人3明か大4平半5日本本6基本7選挙権8平等権9表現の10表現の11表現の	権のと条権法既と由由法位意の構憲約適的念裁のと的と味史。9構と格と側義答格性権、関係を持た。とのといる。とのは、は、ののののののののののののののののののののののののののののののののの	学定数     ライバシー   例
テキスト、参考文献 芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法・第五版』(岩波書店、 2007年)、長谷部・石川・宍戸編『憲法判例百選・第6版』 (有斐閣、2013年)		評価方法 春学期の最後の 評価する。	試験期間中に	論述試験を行い、それにより

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
テキスト、参考文庫	tt	評価方法		

13 年度以降	日本国憲法		担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画		
センスを磨くため、 あてる。 問題意識を持って <b>&lt;講義概要&gt;</b> 憲法概念からはし 人権侵犯事件(憲法 勉強する。 最初の講義で「記 <b>&lt;受講生への要望</b> 、 『六法』は、必ず	デ毎回もってくること。	2.六人憲法3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.	リエンテントン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	生概念 数の自由 数分離 問の自由 見の自由 (1) 見の自由 (2)
テキスト、参考文献 加藤一彦『教職教養憲法 15 話 [改訂 2 版]』(北樹出版) 柏崎・加藤編著『新憲法判例特選』(敬文堂) 学生用六法(出版社は問わない)		評価方法 定期試験によ	3.	

13 年度以降	日本国憲法		担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
	こめ、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献	<b>X</b>	評価方法		

13 年度以降	コンピュータ入門 a		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	<del>2</del>	授業計画		
において必要となる 算ソフト、プレゼン を、実習を通しても 的な知識を身につい コンピュータの単れ 要となるコンピュー 識および技能を身い 毎回のレポート提出 なお、各テーマが明	でのレポート作成や、ゼミでの調査研究 5、情報検索、ワードプロセッサ、表計レテーションソフトの実際的な利用方法 7につけることと、コンピュータの基本けることを目的とする。なるスキルではなく、社会に出てから必一タおよびネットワークの基礎的な知こつけることが目的である。出は、ポータルサイトを利用する。なり扱われる順序や、時間配分についてって異なることがある。	5. ワードプロセ 6. レポート作成 7. 関数を使った 照と絶対参照 8. 関数を使った わせ) 10. データの クロ) 12. グラフ作成 13. プレゼンテー	沙準備と設定 の構造 の体 が構造 の基礎と に計算1(合語 に計算2(IF) に計算3(VL に計算3(VL に計算3・VL	計、平均、標準偏差、相対参 関数、AND、OR) OOKUP、IF 関数との組み合 トテーブル) データの抽出、操作の記録 (マ
テキスト、参考文献	tt en	評価方法		
ВР社,2015	『手経パソコン Edu で学ぶ』、日経BP社	レポート-50%、	試験-50%	

13 年度以降	コンピュータ入門 b	担当者	各担当教員
---------	------------	-----	-------

この講義では、経済学部で学ぶ上で役に立つ表計算の関数 について学ぶとともに、プログラミングの基本についても 学ぶ。

表計算ソフトは、数式や関数により計算を行うことや得られたデータをグラフ化するだけではなく、より複雑なデータ分析や処理に利用することが可能である。またコンピュータを利用することで、複雑な数式を記述することなく処理を行い、結果をグラフィカルに確認することが可能となる。本講義ではさまざまな例題を用いて、表計算ソフトによりデータ分析を行う方法を学ぶ。

大量のデータに対して同様の処理をくり返す際には、表計算ソフトでの操作を記録して利用するマクロ機能が有効となる。この講義では操作を記録するだけでなく、操作内容を追加して記述し、データ処理を効率的に行う方法についても学ぶ。

### 授業計画

- 1. 講義の進め方について
- 2. 複利計算とローン返済計画
- 3. 年金の積み立て
- 4. 利子率の計算(ソルバー、What-if 分析の使い方)
- 5. データの特徴を抽出する(移動平均、ヒストグラム、 回帰分析)
- 6. 効率的な作業配分(0-1整数計画問題)
- 7. 限られた資源の有効活用 (線形計画法)
- 8. Web ページの仕組み
- 9. HTML ファイルの作成
- 10. 画像の表示とリンクの設定
- 11. JavaScript について
- 12. JavaScript の繰り返しプログラム
- 13. JavaScript 場合分けプログラム
- 14. Web ページの公開とインターネット利用上の注意点
- 15. 課題の作成

# テキスト、参考文献

立田ルミ編著、堀江郁美、今福啓『大学で必要な情報基礎』日経 BP社,2015

森夏節、立田ルミ他『日経パソコン Edu で学ぶ』、日経BP社

### 評価方法

レポート-50%、試験-50%

11 年度以前 12 年度以降	図書館概論 図書館概論		担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
(目標)		(1) はじめに。図	書館の現状。	と動向について
図書館全体にわたっ	っての基本的知識を理解していること。	(2) 図書館の構成	就要素と機能。	図書館の社会的意義
また、図書館の現場	やを把握し、課題について自分の意見や	(3) 図書館の法的	]基盤と図書館	馆政策
考えを述べることか	ぶできること。	(4) 知的自由と図	書館	
		(5)「図書館の自	由に関する宣	言」と「図書館員の倫理綱領」
(講義概要)		(6) 図書館の歴史	1	
図書館の機能と役割	9の基本について学習する。図書館の機	(7) 公共図書館の	成立と展開、	現状と課題。公共公立図書
能や社会における意	意義や役割について理解を図り、図書館	館と公共私立図書館		
の歴史と現状、館種	配別図書館と利用者ニーズ、図書館職員	(8) 地域社会と公共図書館の役割、 利用者のニーズ		
の役割と資格、類縁	機関との関係、今後の課題と展望等の	(9) 学校図書館の現状と公共図書館との連携		
基本を解説する。		(10)大学図書館の現状と課題		
		(11)専門図書館や国会図書館の現状と課題		
		(12)図書館員の役割と資質・資格、現状と課題		
		(13)図書館の類縁機関と現状と課題		
	「る内容を概観する科目なので、できる	(14)国際社会での図書館活動		
1	<b>す</b> することをおすすめします。	(15)図書館の課題と展望		
※必修科目です。				
ニャット 会老立ち	£			
テキスト、参考文献	Λ	評価方法		
	書館概論 三訂版』(JLA 図書館情報学 図書館協会発行、2014 年 403-2	課題(30%)、期末 無断欠席が 1/3		文棄とみなす

11 年度以前	図書館経営論	担当者	廿七 基件
12年度以降	図書館制度・経営論	担ヨ有	井上 靖代

(目標・ねらい)

図書館制度や法政策について学習し、そのうえで、資料管理、人事管理、施設管理を実施するための現状と課題を考え、さらに図書館活動サービス計画の企画・運営、予算決算、調査と評価などを学ぶ。実際の事例を研究することで、実務的な課題解決管理判断力を養成する。

### (講義概要)

資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容について把握し、実施のための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕などを、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディ(事例研究)として議論しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。

※チームでの議論や実践演習などが多くなります。授業参加が必須になります。
※必修科目です。

# 授業計画

- (1) 情報社会と図書館の情報戦略。
- (2) 企業や公的セクターの経営理論。
- (3) 図書館法を始めとする図書館関連法群と政策、それに ともなう図書館経営の実態
- (4) 地方自治体の図書館関連条例と図書館政策。
- (5) 事業計画策定と評価。
- (6) 事例研究①図書館サービス活動にともなう事例。
- (7) 事例研究による議論と発表。
- (8) 財政と図書館経営-PFI や委託の問題、予算の獲得な ビー
- (9) 人事管理-専門職の役割と委託などの問題- 図書館 組織と運営。
- (10)事例研究②人事管理にともなう事例。
- (11)事例研究による議論と発表。
- (12)図書館の施設と設備。場所としての図書館運営。
- (13)事例研究③図書館サービス業務の数的・質的調査と評価。
- (14)事例研究④危機管理に関する事例。
- (15)事例研究による議論と発表

# テキスト、参考文献

テキストは指定しないが、授業で資料を配布する。 大学図書館でデータベース利用の講習に参加しておくと よいだろう。

# 授業参加及びチームワークによるプレゼンと報告/レポート提出(4×15-60%) 個人課題(2×20-40%)で評価する

ト提出 $(4 \times 15 = 60\%)$ 、個人課題 $(2 \times 20 = 40\%)$ で評価する。 事例研究のためチームワークに最重点をおく。

評価方法

11 年度以前 12 年度以降	図書館サービス論 図書館サービス概論		担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要	要	授業計画		
意義と目的、社会と について考察、企画 (講義概要) 公共公立図書館を 理解し、情報資料が、図書館活動に同いて理解する。 いく。特に、利用を 特質、方法について 者支援、高齢者・ラ 各種サービスの特質 活動として、担当を	(い) 活動の現状と課題を認識し、その活動の との関連を理解し、発展的サービス活動 画、評価できること。 を中心として、その図書館活動の実務を ・人的資源の効率よい図書館活動とは何 関わる組織・管理・運営、各種計画など また、その活動評価についても考えて 皆と直接関わる図書館サービスの意義、 で解説するとともに課題解決支援、障害 未成年者向け支援、多文化サービスなど 質を明らかにする。利用者への直接支援 皆の接遇や利用者やボランティアとのコ 等の基本について学習する。	(2) 来館者へのサ (3) 資料提供の基 (4) 資料提供の展 (5) 資料提供の展 (5) 資料提供の展 (6) 情報提供;利 サービス等 (7) 集会・文化記 (8) 障がい者、未成 ビス (10)地域社会への (11)図書館 (12)図書館経営に (13)図書館サーヒ	は、一世のでは、一世のは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のは、一世のでは、一世のでは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世の	予約など。ション活動。 ジョン活動。 ズへの対応、レファレンス・ ど。 支援活動。 人への支援活動。多文化サー 果題解決支援、ビジネス支援 動;利用者の交流の場としての スとマネージメント ニケーションなど。
テキスト、参考文献	式	評価方法		
	館サービス論』(JLA 図書館情報学テキ )日本図書館協会発行、2010 年	レポート1回(3 無断欠席1/3以		

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
テキスト、参考文献		評価方法		

11 年度以前 12 年度以降	情報サービス論 a 情報サービス論		担当者	福田 求
機能を具体化するな レファレンスサービス 各種検索サービス等 講義ではこの情報を目指す。 【概要】 まず、図書館に し、レファレンスち 報サービスの方法を て利用される情報が	で情報サービスとは、図書館の情報提供サービス全般のことをいうが、これにはごスやカレントアウェアネスサービス、等、さまざまなサービスが含まれる。本サービスに関する概念の総合的な理解おける情報サービスの意義を明らかにサービスや情報検索サービス等の各種情を概観する。また、情報サービスにおい原について解説する。そして、図書館利報サービス等の新しいサービスについ	<ol> <li>ビス</li> <li>情報社シレス</li> <li>利用案内,</li> <li>力レ検索情報</li> <li>整図書館においり、</li> <li>情報報告記記り</li> <li>情報ササレレンロセファ実施情報</li> <li>レンマ実連情報</li> <li>発新の報告</li> <li>発表新の情報</li> <li>最新した</li> </ol>	図書館の情報サードスサービスサービスルサービスレフェネス (読・ビー を表していますが、 で用いる情報でので用いるなのなった。 おいまれば いっぱ はいまれば いっぱ はいまれば いっぱ はいまれば いっぱ はいまれば にいまれば にいまない にいまないまない にいまない	スススススススススススススススススススススススススススススススススススス
テキスト、参考文献		評価方法		
適宜指示する。		期末レポート の実績(50%)		業における課題レポートなど

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
	==/		
テキスト、参考文献	評価方法		

11 年度以前 12 年度以降	情報サービス論 b 情報サービス演習(前半)		担当者	気谷 陽子		
講義目的、講義概要	Ę	授業計画				
の業務および各種情 信型情報サービスの 能力を養成すること 具体的には、情報の ために必要な情報を 情報教育、発信型情 る演習を行う。	の専門家として必要なスキルを養成する 食家サービス、レファレンスサービス、 情報サービスなどの情報サービスに関す 前半)では、特に基本的なレファレンス	1. 情報サービス 2. 情報サービス 3. レファンス 4. 情報サービス 4. 情報サービス 4. 情報サービス 5. Web ペー・報の 7. 日本の所蔵館 8. 外国の探した 10. 事柄の探した 11. 歴史の探した 12. 地理の探した 12. 地理の探した 13. 人物情報の 14. 企業・団体 15. インフォメー	演型 ア ア で で で で が で で で で で で で で で で で で で	の整備		
テキスト、参考文献	<del></del>	評価方法				
原田智子『情報サーズ)樹村房 978-48	- ビス演習』(現代図書館情報学シリー 8367-207-3	授業への参加度 提出物 20 % 定期試験 60 %				

11 年度以前 12 年度以降	****		担当者	気谷	陽子
講義目的、講義概要	要	授業計画			
の業務および各種性信型情報サービスの能力を養成すること 具体的には、情報のために必要な情報を 情報教育、発信型性 る演習を行う。 情報サービス演習(	情報サービスの設計から評価に至る各種 情報源を活用したレファレンス調査、発 り演習を通し、情報サービスの実践的な とである。 り専門家として必要なスキルを養成する 検索サービス、レファレンスサービス、 情報サービスなどの情報サービスに関す 後半)では、電子資料を中心とする専門 ソールについて扱う。	1. 検索の基本 2. 雑誌情報の取 3. CiNii-Articl 4. ERIC 5. 新聞記事の探 6. 国立国会図書 7. JSTの情報サ 8. NIIの情報サ 9. 統計 10. 法律情報の取 11. 法令データ打 12. パスファイス 14. 特許情報の取 15. 特許電子図書	es にし方 に館の情報サー ービス 取扱いス を供システム とグーの作成 が扱い方	書作成	
テキスト、参考文献	<b>就</b>	評価方法			
原田智子『情報サーズ)樹村房 978-48	ービス演習』(現代図書館情報学シリー 8367-207-3	授業への参加度 提出物 20 % 定期試験 60 %			

11 年度以前 12 年度以降			担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要 授業計画				
また、図書館の現れ 考えを述べることが (講義概要) 図書館の機能と役割 能や社会における別 の歴史と現状、館種	っての基本的知識を理解していること。 大を把握し、課題について自分の意見や	(4) 電子資料メラ	は、 の の の の の の の の の の の の の	副資料メディアの類型と特質 と特質 イアの類型と特質 色文献など る基本的知識 の基本的資料 本的資料 要択と理論 形成方針策定
テキスト、参考文献	状	評価方法		
(テキスト)『図書館情報	資源概論』(JLA 図書館情報学テキスト	小課題(50%)、定	三期試験(50%)	)で総合評価する。

11 年度以前     専門資料論       12 年度以降     図書館情報資源特論	.当者	井上	靖代
---	-----	----	----

#### (講義目的)

未成年の図書館利用者向けの「児童サービス論」で概観した資料について、さらに詳しく学ぶ。特にヤングアダルト向けの多様な資料の出版状況について把握する。学校図書館や公共図書館での所蔵資料の選択や提供を考え、現状と課題を学ぶ。

シリーズⅢ8) 日本図書館協会発行、2012年

### (講義概要)

小学校高学年から高校向けの古典作品や現代作品を読み、10代読者と読書の傾向を社会の動きや心理学などの分野から考察する。また、学校での調べ学習や「総合的な学習」など課題解決型学習の方法としての資料についても把握する。さらに、まんがやアニメ、電子書籍など多様な資料についても考える。「読む」「書く」ことのできる図書館という場所が支援できる資料について実際の例をふまえていく。

※ブックトークやビブリオバトルなど実践演習など授業中に行うので参加は必須である。

※なお、「図書館情報資源概論」「児童サービス論」を受講 してから受講したほうが理解しやすいだろう。

### 授業計画

- (1) 10 代の読書と読者。社会学・発達心理学・読書心理な どから考える。
- (2) 公共図書館における YA サービスの現状

無断欠席1/3以上で受講放棄とみなす。

- (3) 10 代の読書傾向。ローティーンとハイティーンの読書傾向。
- (4) 古典と現代作品の比較分析。
- (5) 10代に人気がある作品を読む。「問題小説」など。
- (6) 10代に人気がある作品を読む。「ライトノベル」など。
- (7) 図書館で読まれる作品・読まれない作品の傾向。
- (8) 多様な資料を読む。雑誌、まんが、アニメなど。
- (9) 調べるための資料や10代が求める生活情報資料など。
- (10)読書プロモーション。展示やブログ、ブックトークや アニマシオン、読書会や創作など。
- (11)実践演習。ブックトークをやってみよう。
- (12)実践演習その2。ブックトークをやってみよう。
- (13)10代向けブックリストやパスファインダーなど。
- (14)読書の場所としての図書館の役割。
- (15)まとめ

# テキスト、参考文献

テキストは指定しないが、参考資料等のリストを授業で配 布する。

# 評価方法

実践演習(2×10=20%)、課題 (3×20=60%)、テスト(20%) 無断欠席 1/3 以上で受講放棄とみなす。

11 年度以前 12 年度以降	21111		担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要	講義目的、講義概要			
理論と技術について 備える。      講義の概要     書誌コントロール についての基礎知識	かなど多様な図書館情報資源の組織化の て概説し、情報資源組織演習での学習に い、書誌記述法、分類法、主題分析など 後を修得する。ネットワーク情報資源な の組織化、書誌データの活用法を解説す	1. 授業の進める 2. 情報資源組織 3. 書談のの種類は 5. 目録の目録作的 6. 集中目目録の問題。 7. 共日報代目目録の問題。 9. 次世題は出版のでは、 10. 主題類法とののを 11. 分類法のの歴史 13. 分類書記号 14. 図書とめ	・	
テキスト、参考文献	#	評価方法		
○ 参考書 日本図書館協会編『日本十進分 日本図書館協会編『基本件名標	尊士共著『情報資源組織法』(第一法規、2012 年) 類法. 新訂 9 版』(日本図書館協会、1995 年) 目表. 第 4 版』(日本図書館協会、1999 年) 則. 1987 年版改訂 3 版』(日本図書館協会、2006 年)	期末試験の結果 おける参加度(2		って評価するが、平常授業に 対象とする。

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę C	授業計画		
テキスト、参考文南	4	<b>郭</b> · <b>斯</b> · <b>大</b> ·土		
ナナスト、参考又解	X .	評価方法		

11年度以前 資料組織演習(前半) 担当者 小黒 浩司 12年度以降 情報資源組織演習(前半) 講義目的、講義概要 授業計画 ○ 講義の目的 1. 授業のガイダンス 図書館情報資源の組織化について学習する。演 日本目録規則(NCR) 記述総則 習形式の授業を通じて、情報資源組織化の具体 3. 日本目録規則(NCR) 記述通則 的・実践的な能力の養成をはかる。情報資源組織 4. タイトルに関する事項 演習(前半)では、日本目録規則(NCR) 1987 5. 責任表示に関する事項 年版改訂3版に準拠して、目録作成の技法を学ぶ。 6. 版に関する事項 7. 出版・頒布等に関する事項 ○ 講義の概要 8. 形態に関する事項 NCR 1987 年版改訂 3 版の主要規則を書誌的事 9. シリーズに関する事項 項ごとに解説する。その上で、NCR1987 3R によ 10. 注記に関する事項 る和資料記入の作成を中心に演習を行う。 11. 標準番号・入手条件に関する事項 12. 標目 13. 和資料記入の作成演習 (基礎) 14. 和資料記入の作成演習 (応用) 15. 和資料記入の作成演習 (発展) テキスト、参考文献 評価方法 教科書 演習(小テスト)の結果(80%)によって評価するが、平 志保田務、高鷲忠美編著・平井尊士共著『情報資源組織法』(第一法規、2012年) 常授業における参加度(20%)も評価対象とする。 参考書

11 年度以前 12 年度以降	資料組織演習(後半) 情報資源組織演習(後半)	担当者	小黒 浩司
--------------------	----------------------------	-----	-------

### 講義目的、講義概要

### ○ 講義の目的

情報資源の組織化に関する技術について、演習形式で学習する。多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用などの演習を通じて、情報資源組織業務についての実践的な能力を養成する。

日本図書館協会編『日本目録規則. 1987年版改訂 3 版』(日本図書館協会、2006年)

## ○ 講義の概要

NDC9の概要・分類規程を解説した上で、NDC9による分類記号の付与の演習を行う。次にBSH4の概要・件名規程を解説した上で、BSH4による件名付与の演習を行う。

### 授業計画

- 1. 授業の説明
- 2. 日本十進分類法(NDC)の概説
- 3. 分類規程
- 4. 主題分析
- 5. 分類記号の付与 1類・2類
- 6. 分類記号の付与 3 類
- 7. 分類記号の付与 4 類・5 類
- 8. 分類記号の付与 6 類・7 類
- 9. 分類記号の付与 8類・9類
- 10. 分類記号の付与 0 類・応用問題
- 11. 基本件名標目表 (BSH) の概説
- 12. 件名規程
- 13. 件名標目の付与(基礎)
- 14. 件名標目の付与(応用)
- 15. 件名標目の付与(発展)

# テキスト、参考文献

### 〇 教科書

志保田務、高鷲忠美編著・平井尊士共著『情報資源組織法』(第一法規、2012 年) ○ 参考書

日本図書館協会編『日本十進分類法. 新訂 9 版』(日本図書館協会、1995 年)日本図書館協会編『基本件名標目表. 第 4 版』(日本図書館協会、1999 年)

### 評価方法

演習 (小テスト) の結果 (80%) によって評価するが、平 常授業における参加度 (20%) も評価対象とする。

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

11 年度以前 12 年度以降			担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要	<b>要</b>	授業計画		
(講義目的・ねらい) 子どもやヤングアダルトと称せられる 10 代の図書館利用者 (潜在的利用者) に対する戦略的で効果をあげうるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐えうる内容を考えられる専門職としての児童・YA 担当司書を養成することを目的とする。さらに幅広く、多くの児童書や YA向け資料を読み、評価し、子どもたちに伝えられるようになることを目標とする。 (講義概要)		(1) 図書館の意義と使命 (2) 民主主義社会と図書館の役割。 (3) 図書館における児童・ヤングアダルトサービスとは何か。 (4) 地域社会における「子ども」のイメージは何か。 (5) 乳幼児サービスと乳幼児向け資料 (6) 小学校など児童対象の図書館サービスと学齢期児童向け資料 (7) 中学校や高校など10代のヤングアダルト対象の図書館		
(1)図書館サービス対象者である子どもやヤングアダルトについて知る、(2)図書館資料としての子どもやYA向け資料について知る、(3)図書館サービスとして子どもやYAと資料とを結びつける活動の企画や実施、評価方法について知る、(4)地域や学校などとの協働活動について知る、ことを学習する。		サービスと資料 (8) 児童・YA 図書館活動の歴史 (9) 子どもをとりまく大人への図書館活動 (10)アウトリーチ・サービスと子どもたちの知的自由 (11)図書館活動をめぐる諸問題-法律と政策、インターネットなど- (12)図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など		
児童書・YA 向け図	定番となっている子ども向けの絵本や 図書を読んでもらうことになります。受 るだけ多くの本を読んでおいてくださ	す。受 (15)実践とまとめ		
テキスト、参考文献		評価方法		
	ス論 改訂版』(JLA 図書館情報学テキスト 書館協会発行、2014 年	課題(5×10=50% 無断欠席が 1/3		%) : 授業放棄とみなす

11 年度以前 12 年度以降	図書及び図書館史 図書・図書館史			担当者	小黒	浩司
講義目的、講義概要	5	授業計画				
<ul> <li>○ 講義の目的</li> <li>図書館の情報資源と図書館の歴史について発展的に学習し、理解を深める。</li> <li>○ 講義の概要</li> <li>図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産、印刷、普及、流通などの歴史を概説する。また、図書館の歴史的発展について解説する。</li> </ul>		11. 12. 13. 14.	<ol> <li>授業のガイダンス・歴史的図書館建築</li> <li>図書館の源流</li> <li>紙以前の記録媒体</li> <li>紙の発明と西伝</li> <li>図書の形態史</li> <li>図書館の発達</li> <li>印刷の歴史</li> <li>印刷技術の進歩</li> </ol>			
	<b>大</b> 書・図書館史』(日本図書館協会、2013 報学テキストシリーズⅢ)		試験の結果	(80%) によ20%) も評価	って評価するが対象とする。	ぶ、平常授業に
	,			, 3		

			担当者	
講義目的、講義概要	5	授業計画		
テキスト、参考文献		評価方法		

			担当者	
講義目的、講義概要	<del></del>	授業計画		
テキスト、参考文献	<b>†</b>	評価方法		

11 年度以前 12 年度以降	図書館特論 図書館基礎特論	担当者	井上 靖代
--------------------	------------------	-----	-------

(目標・目的・ねらい)

「図書館概論」などで学習した内容をふまえ、さらに公立 公共図書館などでの利用者サービスの実例を確認し、受講 者が各自で設定したテーマにしたがって調査研究をすす める。その時々において図書館界や出版界などで話題にな ったことを主にとりあげて議論していく。

# (講義概要)

「図書館概論」などで学習した内容をふまえ、公立公共図書館などでの利用者サービスの実例をふまえつつ、受講者が各自で設定したテーマにしたがって調査研究をすすめる。その時々において図書館界や出版界などで話題になったことを主にとりあげて議論していく。ケース・スタディとして多様な実例をあげつつ、演習を中心として学習する。

※授業内で議論や発表報告などを中心におこないます。関連する論文雑誌記事や新聞記事をあらかじめ読んでおいてもらうことになります。したがって参加が必須となります。

※選択科目です。

# テキスト、参考文献

テキストは指定しない。必要に応じて授業で配布する。 参考文献として「図書館概論」「図書館サービス概論」で 活用したテキストなどを利用する

### 授業計画

- (1) 図書館種別からみた図書館サービスや資料構築の概 観。
- (2) 資料の変化にともなう課題 電子書籍等の出版と活用
- (3) 事例研究①電子書籍等の現状と図書館
- (4) 事例研究①電子書籍等の現状と図書館について受講生 による調査報告
- (5) 特殊資料にともなう課題 障がい者向け資料提供 -
- (6) 事例研究②障がい者・障がい児向け資料について現状 と展望
- (7) 事例研究②受講生による議論
- (8) 利用者の変化にともなう課題-外国人労働者向け活動 等(多文化サービス)と資料情報提供
- (9) 事例研究③利用者の動向と資料提供
- (10)事例研究③受講生の調査報告
- (11)利用者のニーズ変化にともなう課題 ビジネス支援と 失業者支援等(ビジネス支援サービス)
- (12)事例研究④受講生の調査報告
- (13)事例研究⑤受講者から提示した実例と課題
- (14)事例研究⑤受講者から提示した実例と課題
- (15)まとめ

### 評価方法

授業参加度と発表報告( $5 \times 15 = 75\%$ ) 個人課題(25%) 授業参加し準備しておかないとそれだけで評価対象にならないので注意してください。

講義目的、講義概要	授業計画		
テキスト、参考文献	評価方法		

12 年度以降	図書館情報技術論		担当者	福田 求
提供というあらゆる ワークを中心としる。本講義では、る 念を理解した上で、いるかを学習する。 【概要】 図書館業務に必 に、コン、検索エン、	は、情報や資料の収集・組織化・保存・ る場面において、コンピュータやネット たさまざまな情報技術が利用されてい とれらの情報技術について、基礎的な概 図書館においてどのように応用されて 要な基礎的な情報技術を修得するため 等の基礎、図書館業務システム、データ ジン、電子資料、コンピュータシステム る。また各種情報システムを実際に利用	2. コータン マーク マーク マーク マーク で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ッタ社ットで リス・は リス・は リス・は リス・は リス・は リス・ののの は リス・ののの は リス・ののの は リス・ののの は リス・ののの は は リス・ののの は は は り、 は り、 は り、 は り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、	llりの情報メディア ア、URI (URL)、HTML 計 所活用の現状
	************************************		0%)。平常授	業における課題レポートなど

# シラバス 免許課程

2015年4月1日発行 獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1 電 話 048-946-1663



学科	斗	学年	氏	名
	学科	年		